

諏訪田水元山之儀者、先年姥懷・獨活澤・新林臺三ヶ處之處、故治五右衛門・吉左衛門肝煎勤中、鷹待臺八ツ森日陰通り地分之節、右地形而已ニハ、符人分ケ致候ニ不足致候間、貝澤之内姥懷・獨活澤・新林臺共、同様地分ケニ可レ

候、尤右立山之儀ハ、一體小澤之事故、木柴等を痛り可申、御田地之障リニ不相成候様ニ可レ仕奉存候、爲後證之肝煎・長百姓印形致、一札奉指上候、以上
大神成村肝煎

嘉永三年
戊十一月

同 斷
佐右衛門
與五右衛門

同 甚左衛門
長百姓

同 長右衛門

同 惣左衛門

同 德右衛門

同 與惣右衛門

眞壁重兵衛様

御内
山口喜左衛門様

註一二七 【貝澤山控書相改メ壹札之事】 ○藤岡得司氏

一、當五月中拙者儀、眞壁十兵衛家頼山口喜左衛門、其村へ廻在候節、右山所御屋敷御田地水元ニ御座候故、符人共より願申出候は、雜木被伐り取候は、御田地迷惑之趣願申出ニ付、伐り爲取不申候趣、肝煎へ申渡候得共、右壹條殿様御伺へ奉申上候所、右山所之儀は於御屋敷ニ外ニ指障り無之候得共、みだれニ伐り取候

章七 農業的林系 一 水源涵養林

安政三年
辰十一月

山口喜左衛門判

眞壁十兵衛内

仙北郡大神成村
肝煎殿
長百姓中

註一二八 【仙北郡檜木内村水野目持林書上帳】

○秋田縣仙北郡檜木内村役場

○前略
戸や森水野目林

一、上稗田澤

水干より兩水落切

中とまり水野目林

一、太田澤

水干より兩平水落田畑切

東西拾町 南北五町

○中略

右合四拾貳ヶ林

右之通水野目持林、當人別符人書上仕候處相違無御座

七八五

候、仍多肝煎・長百姓印形指上申候、以上

文化九年三月

上檜木内村

肝煎 八郎 兵衛

同村長百姓

庄 兵衛

同村同斷

庄 右衛門

菊池山三郎殿

臼井角兵衛殿

大川六郎右衛門殿

白土儀右衛門殿

小野作兵衛殿

小助川隼人殿

註一二九 【六郡木山方以來覺 廿一】 ○秋田營林局

梅津與左衛門知行所仙北郡南橋岡村地形込水野目
林取立候節之御檢使ケ條

一 梅津與左衛門申立候者、仙北郡南橋岡村之内開御指紙
兼多拜領仕罷有、順水次第開發込取掛り罷在候、然者近
年來諸木伐盡ニ相成、隨多水出も不_レ宜、仍_レ之右村之内宇
處よほねケ澤と申處、開發水野目ニ杉植立申度候、依多
御檢地御序之節村方御吟味被_レ下度候、右之通被_レ仰立
候ニ付吟味仕候處左之通ニ御座候
一、郷人共込申談候者、地頭梅津與左衛門御指紙下水野目

之ぬめ字處よほねケ澤込杉植立申度旨願ニ御座候、依多
右場處差障無_レ之候ハ、地頭願之通御請可_レ仕段申含候
所、申出候ハ右澤之儀者一村草飼并支郷木立平形五拾軒
之もの共伐刈處ニ御座候得者、林ニ御取立被_レ成置候
ハ迷惑ニ奉_レ存候、乍_レ去御田地水野目之御趣意を以品々
被_レ仰含ニ御座候故、郷中ニ多草飼之指障リニ不_レ相成
様ニ杉植立仕度段申出候故、尙申談候者右場處込種植立
候も何_レ同様に可_レ有_レ之、仍多與左衛門申立之通御請
可_レ致旨種々申含候處、恐入早速御答も相成兼候間、御日
延被_レ成下度と申出、品々相談仕候得とも、與左衛門殿御
植立之儀者一村承服無_レ之、於ニ郷中ニ種立候儀も迷惑ニ
奉_レ存候得共、一圓御障申上候も恐入奉_レ存候、依多御屋敷
より植立場處ハ御差圖難ニ申請儀ニ御座候得共、植立様
一通之儀者任ニ御指圖郷中ニ多植立申度段申出候故、申
談候者右杉成木之上拜領等願差出候ハ、與左衛門込水野
目故親可_レ申候、尙又植立之節者屋敷より誰_レ可_レ遣候故
差圖可_レ申請一段申聞候得者、左之通答形申出候

一 右杉成木之上拜領願申上候節與左衛門殿込御伺申上候
る願可_レ申上儀者、與左衛門殿御植立林同様ニ奉_レ存候得
者、一村承服無_レ之ニ付、御請難ニ相成、村方勝手ニ願申上
拜領相濟伐取候節ニ申_レ度段申出候故、吟味ニ相及候者
勝手次第ニ願申立拜領仕候得者、水野目林ニ相成間敷候、
仍多植立之内割合を以拜領願可_レ申立、猶亦願相濟伐取候
丈ケハ伐跡込直ニ植立可_レ申候、且拜領之願差出候御者
與左衛門込可_レ相届一段申含候得者、右杉盛木之上は拾

歩二通り之外ハ願申上間敷、猶伐跡へ夫_レ丈ケ引繼植立

ケ

處よほねヶ澤と申處、開發水野目ニ杉植立申度候、依
御檢地御序之節、村方御吟味被下度候、右之通被仰立
候ニ付吟味仕候處左之通ニ御座候
一、郷人共ニ申談候者、地頭梅津與左衛門御指紙下水野目

歩二通り之外ハ願申上間敷、猶伐跡へ夫レ丈ケ引繼植立
可申候間、成木之上拜領願申上候砌、與左衛門殿にお
て御支無レ之様ニ被成下度申出候、右段々申上候通村
方種々吟味仕候得共、與左衛門ニ悉皆任置候杉植立之
儀者難ニ相成旨申出候、郷中ニおゐて取立候與左衛門
開水野目ニ致度由達申出候、尤水野目之事故末々成木
致候も村方用事之節者與左衛門にも申届伐取申度段、
尙亦植立之砌ハ與左衛門より附添之者得ニ差圖ニ植立申度
と申出ニ御座候間、村方願之通被仰付可申儀と奉存
候、且當時空山とハ乍申諸山御取立之御時節故何れ木
山方ニ御懸合被成置可申儀ニ奉存候

西 加藤老之助
十二月 鈴木數馬

右之通伊藤兵衛より申會候様ニト下置候故、外ニ差障
りニ無レ之候故植立被仰付可然段加藤清右衛門申上
候

于時文化十四年十二月

右之趣被御聞届ニ村方ニ杉植立被仰付候、水野目備林
之事故成木伐取候節御割合御定無レ之段文化十一戊年五
月廿九日被仰渡候、其後村方植立杉左之通

- 一 五千本 右者文化十二年亥年
植立
- 一 三千本 右者同十四子年分植立
- 一 合八千本

右之通文政二卯年七月二十九日梅津與左衛門より書上

勝手次第ニ願申立拜領仕候得者、水野目林ニ相成間敷候、
仍多植立之内割合を以拜領願可申立、猶亦願相濟伐取候
丈ヶハ伐跡直ニ植立可申候、且拜領之願差出候砌者
與左衛門にも可相届一段申含候得者、右杉盛木之上は拾

ケ
表書六ヶ所之立林宇右衛門殿依被仰立ニ此度御檢使八
代角助・小田内助右衛門被遺繪圖仕候朱引之通林被立
置候、自今以後山守被仰付ニ林御取立、御本田ハ不申
及ニ手前開普請用所并山守屋作等之用所ニハ御判紙可
被下候、尤公儀御用木之時分御指紙ニ為剪可被
置候、右之通西五月廿六日孫太夫殿・半右衛門殿申上
相濟候、爲ニ向後之繪圖ニ裏書致、相渡候様ニ就被仰
付ニ如レ此仍如レ件

八代角助
御檢使

元祿六年
西五月廿七日

- 小田内助右衛門
- 富岡忠右衛門
- 佐藤清右衛門
- 池田才兵衛
- 清水忠兵衛

(圖省略)

右山繪圖并裏書者寫繪圖斗有レ之、本繪圖不相見得候ニ
付、寛政六年甲寅二月十二日御用所ニ御伺致候處、御評議
之上村方御吟味被成置、手前立林山ニ相違無レ之候故、
格別御檢使見分等被仰付ニ不ニ相及旨、同年三月二
日被仰渡候、猶是迄村方ニ多所持い來候繪圖、甚
見苦敷相成候故、右繪圖之通新ニ寫候多今般被仰渡ニ之
趣於ニ手前ニ裏書ニ添書致、下淀川村ニ可相渡一段被仰
渡候、依レ之此度繪圖新ニ寫取被仰渡ニ之趣書加候事如レ

件

寛政十年戊午三月廿八日

右立林文化九申年被_二明下_一度願

口上覺

拙者知行所仙北郡下淀川村ニ御指紙下畑返リ新開致候
ニ付、右水元新堰取立開發致度、當春廻御檢使見分申立
候處、高久喜左衛門組合見分之_一御障無_レ之候故、當七月
中_一堰根普請_ニ取掛申度候、右同村ニ手前立林山六ヶ
山有_レ之、山繪圖御裏書ニ手前開普請用所并山守屋作等之
用所ニ御指紙可_レ被_レ下御文言ニ有_レ之候、仍申立候、
右堰根并堰筋普請ニ者杭柴を始諸材木不_レ少入用有_レ之、
猶又山守屋作用處并稻干杭等も此節御序を以拜領仕度趣
村方_一申出も有_レ之候ニ付、右六ヶ山三ヶ_二通雜木伐取申
度候間、林御指紙被_二下置_一度候、委曲村方_一も願可_二申
上_一候間、右之趣宜様_ニ被_二仰上_一被_レ下度候、猶山繪圖御
裏書寫相添指出申候、以上

五月八日

澁江賢治

一 此度御地頭澁江賢治殿、當村地形之内起返新開共御開
發被_二成置_一度被_二仰立_一ニ有、四月十七日御檢地高久喜左
衛門殿御組合御廻在被_レ遊、關根留御開場所共ニ御見分、
隨分能_レキ場處_ニ可_レ有_レ之普請付置開發可_レ致、御地頭御
家來角田和右衛門殿并村方_一も被_二仰付_一候

一 角田和右衛門殿被_レ仰候者、關留御普請木品手前立林
六ヶ山之内、大木杭柴釣木品々之分入用丈御上様_ニ被_二仰
立_一、御指紙拜領剪取御普請可_レ被_二成置_一被_二仰付_一畏入罷有

候、依_レ御内々奉_二申上_一候、右六ヶ山立林之儀者、近年來
嚴_ニ御指留_ニ御百姓迷惑筋も有_レ之候間、何卒御百姓共
家作并稻ほし木品も拜領仕度、猶此度御開發御取掛リ_ニ
付、内々諸入目之迷惑筋も有_レ之御序_ニ御座候故、右六ヶ
山御立林三ヶ_二貳通り拜領被_二仰付_一候様_ニ被_二仰立_一御取扱
被_二成下_一度候、左候得者右關根留關筋迄之入用木剪出、殘
木少分_ニも來春中迄_ニ船木_ニ剪出_レ、御百姓共之餘勢_ニ
も相成候様_ニ御取扱被_二成下_一度と願申上候

一 奉_二申上_一候右關根筋御普請之儀者、御百姓共手透見合、
當七月中_一稻刈前迄_ニ御取懸_レ、多分出來致候様と被_二
仰合、猶當村御雇之外他村迄御雇被_レ成候事_ニ是又被_二仰
合_一候、段々御人足關筋樋掛候所迄御差積被_二成置_一候得
者、莫太之御掛物と相聞得申候得者、誠_ニ一村同様之御
地頭之事_ニ御座候得者、右御雇之内少分_ニも村方_一御人
足御手傳申上度存罷有候

一 奉_二申上_一候右御普請中、御家來衆之内御手付共_ニ御付
添被_二成置_一、近々出來爲_レ致可_レ申と被_二仰付_一、尤左様無_レ之
候ハ、御普請も尺取申間敷奉_レ存候

一 前文奉_二申上_一候通、六ヶ山立林三ヶ_二通御指紙被_二仰
付_一、御百姓共餘勢_ニも相成候様_ニ乍_レ恐奉_二願上_一候

右之趣伺分

下淀川村肝煎

文化九年

兵左衛門

甲五月

同 長百姓

助 左衛門

家來角田和右衛門殿并村方にも被_レ仰付_レ候
一 角田和右衛門殿被_レ仰候者 關留筋御普請木品手前立林
六ヶ山之内、大木杭柴釣木品々之分入用丈御上様被_レ仰
立、御指紙拜領剪取御普請可_レ被_レ成置_レ被_レ仰付_レ畏入罷有

文化九年 下淀川村肝煎
甲五月 兵 左 衛 門
同 長百姓 助 左 衛 門
助 左 衛 門

權 太 郎 迄
拾 貳 人
會 田 久 左 衛 門 殿

註一三〇 【御札林水出林書上帳】
自分林當世山
(日本山林史保護林篇上卷七二九頁參照)

註一三一 【御直山等書上帳】
(同 上)

註一三二 【平鹿郡御札山略圖】
(同 上)

註一三三 【六郡木山方以來覺 廿二】
○秋田營林局
戸村十太夫組下横手給人加藤九右衛門知行所水
野目林

私開發場所平鹿郡見入野新田村水元、狼ヶ澤水野目御札
山は先年より杉取立、是迄貳萬本餘植立申候、右山所當
春中片岡敬助得_レ見分_レ申候、以上
加藤 九右衛門
文政五
午十一月七日

註一三四 【茅草地形訂定書】
○秋田縣平鹿郡沼館町
高橋千代藏氏
茅草地形訂定候事

章七 農業的林系 一 水源涵養林

○中略

一 御田地水掛關草野通_(マ)ふり候堰脇に生候木柴、是迄之通
其符人自由可_レ爲事
但シ關脇ニ木柴立置譯者、早魃之砌ニ關日除之ためニ
候、尤下草之儀はさのふ同様可_レ爲事
尤右關まより壹間之外何程ニも其符人□の伐取可_レ
申事

註一三五 【上法寺文書】
○秋田縣雄勝郡明治村上法經雄氏
乍_レ恐申上候、前々上法寺山、水の目田林之儀ニ御座候へ
共、沼館之者共いんこく_(マ)ニ押こみ、きりつくし申候付、
石山又兵衛を以申上、其上後藤理左衛門殿御越被_レ成候
て山之儀御□□分らき、其上_(馬)半右衛門様御札御立被_レ成
候間、其後山へ入不_レ申候處ニ、當□ニ二月十二日十三日
ハ拾九日廿日迄不_レ絶沼館之者共多人數ヲ以をしかけ、御
札之右左を□きりつくし申候間、罷出、様々ふせき申候得
ハ、其内よて申分ニハ、山をぬすみ候へハなさ。まさあ
りおさへられ申候間、人數ヲ以破可_レ申とて皆々ほら迄
持□□門本迄押懸申候、別當罷出候へと申候へ共、命
せんなく御座候間罷出不_レ申候、此旨披露
元和二年
正月

上法寺
別當
大 泉

七八九

註一三六 【水野目禁伐狀】 ○上法經雄氏

上法寺山内あかいの尻、前來水目は御座候、百姓共薪きり申候故、田地荒可申候由、各へ訛言仕付る留申候、山の目澤ハ大泉院・肝煎直右衛門・藏人此三人に預ケ置候、右之外誰成共薪取申候は曲事可被仰付候、爲後日仍如件

元和三年

三月廿四日

石山又兵衛(花押)

大泉院 圃

肝煎直右衛門との

藏 人との

註一三七 【木山方以來覺追加一】 ○秋田營林局

雄勝郡

荻袋村

李 兵 衛

其方先祖におゐて、其村大穴澤水元を致し御忠進開發致、元祿年中水野目御札被掛置、右御札所持子孫連綿守護致來、惣山杉・雜木共取立、文政年中右山處之内雜木拜領、去ル丑年中伐取候處、熊淵村と同村水野目御札山之處如何指心得伐取候哉申斷預り、其方先年より守護山之心得形相答候處、同村におゐても水野目御札處持居候付、掛り合相生、双方より訴申出候付、當春山縣伊織・高橋作平廻山之砌見分吟味及候處、文政四巳年片岡敬助・根本順治御札山取調之節吟味形左之通

熊淵・荻袋兩村之内大穴澤・森合澤水ノ目林ニ立置之間、下枝にて不可伐取もの也

元祿七年五月日

右御文言御評定處御札控有之候へとも、年久敷儀なる如何致候哉、熊淵村なる右御札處持不致候付、其後右御札御書替熊淵村へ被相渡候故、兩村なる右兩澤共御札山之儀始る承知、右之ぬめ其方儀先年大穴澤惣山守護自由致來候積、仍る同年同月御札貳枚被掛置候儀御吟味被成置候處、其方處持之御札ハ大穴澤之内片倉より桐木澤・糸島澤左右水野目林と有之、兩村へ被相渡候御札ハ、熊淵・荻袋兩村之内大穴澤・森合澤水野目林と有之候へハ、其方處持之御札ハ方限有之之腕と相分り候得と、其方申出之通御取扱難被成置候、乍爾其方祖父代より杉・雜木共出精取立致候存志も空敷相成候付、格別之儀ヲ以已來と、其方兩村水野目之地形杉・雜木共取立候分ハ、兩村におゐて其方へ内山守申付守護爲致、右地形へ杉植立下木拂又ハ杉植立拜領等致度節と、以來兩村添書ヲ以願申出候へと、其方迷惑も有之間敷、兩村水野目御札地形も分明致候譯ヲ以、兩村へ申諭候處、双方御受形書載ヲ以申出候付、向後右ニ御取扱被成候間、違亂無之様可致候、右之趣兩村へも被仰渡候間此旨可相心得候

天保二年

卯十月

雄勝郡

荻袋村

相答候處、同村においても水野目御札處持居候ニ付、掛り合相生、双方より訴申出候ニ付、當春山縣伊織・高橋作平廻山之御見分吟味ニ及候處、文政四巳年片岡敬助・根本順治御札山取調之節吟味形左之通

天保二年
卯十月

雄勝郡
荻箆村

熊淵村

肝煎

長百姓

荻箆村李兵衛先祖ニおいて同村山之内大穴澤を水元ニいさし御忠進開發いたし候處、元祿七年五月中同山へ水野目林ノ御札被ニ掛置候、右御札李兵衛先祖より守護いさし來り惣山守護山と心得、是迄杉・雜木共取立、猶文政年中右山處を雜木拜領、去々丑年中伐取候處、熊淵村が同村水野目御札山之由申斷ニ預り候得共、李兵衛も先年々始末形挨拶ニ及候得共、熊淵村ニ承知無レ之掛り合相生、其村并李兵衛が訴申出ニ付、當春山縣伊織・高橋作平見分吟味ニ及候處、李兵衛所持之御札ニ大穴澤之内片倉より桐木澤・糸島澤左右水野目林と有レ之、兩村御書纏ニ相渡候御札ニハ熊淵・荻箆兩村之内大穴澤・森合澤水野目林と有レ之候へハ、惣山之筋ニ有レ之候、李兵衛所持之御札ニハ方限有レ之地處相分り候上ハ、是迄之通り李兵衛惣山自由致候筋ニハ無レ之候、去かし李兵衛父祖代が惣山出精取立候譯も候得共、格別之御吟味ヲ以、大穴澤ニおいて兩村水野目之地形へ李兵衛取立候杉・雜木とも兩村において同人城内山守ニいさし守護爲レ致、右地形へ杉植立下木拂又ハ植立杉拜領致度節ニ、兩村が添書ヲ以願申出候ハ、兩村水野目御札地形も分明可レ致候儀ヲ以、李兵衛并其方共へ申諭候處、双方書載ヲ以御受申出候、仍る已來右ニ御取扱可レ被ニ成置候間、當人杉・雜木共拜領願申出候節ニ、添書可ニ指出候、兩村御札之内森合澤之儀ニ熊淵一村へ相係り候水野目御札山ニ候間、兩

村共此譯相心得向後異論致間敷候

天保二年

卯十月

註一三八

【東榮村鈴木文書】

○山形縣東田川郡
東榮村 鈴木定治氏

仙道・荒川・野田・鎌田村四ヶ村が申上御目安之返答書之事

一、増川御年貢山ト御札山之境に、兩ひら限野山之境者川返り申候、増川通り之山道者牛かくび・一ノ渡ど・東岩代此道迄貳拾貳ヶ村の者共先御代が罷通り候、御當代に罷成候ても山奉行文右衛門殿山々御改、先御代之御年貢次第ニ被レ成候事

一、御札山之道ハ大坂ぢごく谷其外道なク御座候處、増川御年貢山一ノ渡どと申所、右四ヶ村之者貢ノ三月二日ニ參候間まさきり拾五丁おさへ申候、いろく訖言仕候間拾くれ申候、殘五丁ハ以來之證據ニおさへ置申候、其後不參候處ニ、又當辰ノ春中ハ仙道林シ之中ハ新道を切らしあくび之道ニ參候儀迷惑仕候事

一、増川通と申ハ、少之日てりも御田地水ともしく御座候間、るびつと申を水林仕、川代村掃部と申者にふせかせ候て、増川通之ものともへむさと入籠不申候、今度御札山之衆入申上候、おのつらるるびつを切可レ申候、左候へハ増川御田地目檢まあり可レ申事めいわくよ存候、増川通之道うしあくび・一ノ渡と・東岩代色々證據御座候、

以上之可申上候返答書如_レ此御座候、以上

同組	添川組	川代村	掃部
同組	同組	國見村	左京
同組	同組	大口村	小助
同組	同組	京山村	藤七
同組	同組	野荒町村	寶藏坊
同組	同組	外野村	助次郎
同組	同組	中里村	仁助
同組	同組	町屋村	左衛門次郎
同組	同組	田屋村	孫左衛門
同組	同組	奥屋村	長十郎
同組	同組	川行村	善次郎
同組	同組	谷地館村	次郎左衛門
同組	同組	中村	次郎右衛門
同組	同組	金森目村	半四郎
同組	同組	谷地奥屋村	今右衛門
同組	同組	東堀越村	甚兵衛
同組	同組	柳瀬村	新左衛門
同組	同組	上中ノ目村	又次郎
同組	同組	大川渡村	又十郎
同組	同組	平足村	甚助
同組	同組	川尻村	七右衛門
同組	同組	蛸井興屋村	源十郎

御奉行所

慶安五年
辰ノ十月廿三日

註一三九 【御裁許繪圖裏書寫】

(日本山林史保護林篇上卷七三〇—一頁參照)

註一四〇 【矢櫃林古記】 ○鈴木定治氏

矢櫃御水林證文之寫

山肝煎相定申事

一 増川御年貢山之内ゑひつ水林吟味ニ付、御領・御私領
 貳拾四ヶ村之庄屋・組頭・御百姓相談を以、與野村角左衛
 門・本堀越村治兵衛兩人山肝煎立申候、就夫水林に村
 々より入不_レ申様ニ可_ニ申付候、若相背、水林に入申者御
 座候は、なた・まさ切ハ不_レ及_ニ申ニ急度致_ニ詮議_ニ可_レ申
 候、惣野山・奥山共ニ遂ニ吟味_ニ可_レ申候、且又野火之
 儀前々より申合候通、村々ニ急度_ニ可_ニ申付候、殊ニ御年
 貢山之内ニ新規田畑切り興し申間敷候、右山肝煎角左衛
 門・治兵衛給米、御領・御私領割合を以、本石四石四斗村
 々御藏_ニ年々納相渡可_レ申候、爲其相談を以證文如_レ斯
 ニ候、以上

元祿十年

丑ノ二月

大川渡村	庄屋五兵衛	川代	庄屋治兵衛
與頭三郎兵衛印	百姓長左衛門	村組頭彌左衛門印	百姓又左衛門
上中ノ目村	庄屋四郎左衛門	増川新村	庄屋長左衛門
組頭治郎兵衛	百姓四郎兵衛	組頭孫左衛門	百姓八右衛門

同組 平足村 甚助
 同組 川尻村 七右衛門
 同組 蛸井與屋村 源十郎
 惣百姓中

大川渡村 庄屋五兵衛
 百姓長左衛門
 川代 庄屋治兵衛
 百姓又左衛門
 上中ノ目村組頭治郎兵衛
 百姓四郎兵衛
 增川新田村組頭孫左衛門
 百姓八右衛門
 庄屋長左衛門
 庄屋多右衛門
 百姓八右衛門
 下中ノ目村 庄屋五郎左衛門印
 與頭彌次兵衛

蛸井與屋村 庄屋九左衛門
 與頭利右衛門
 百姓兵衛
 同惣兵衛
 國見村 庄屋治左衛門
 與頭市郎兵衛
 百姓利右衛門
 平足 庄屋嘉右衛門
 村與頭專助
 百姓彌助
 坂ノ下村 庄屋長三郎
 川尻 庄屋久助
 村與頭喜右衛門
 百姓新右衛門
 野荒村 庄屋新兵衛
 與頭久左衛門
 百姓太郎太夫
 東堀越村 庄屋甚右衛門
 與頭嘉右衛門
 百姓治右衛門
 外野村 庄屋助左衛門
 與頭準人
 百姓利左衛門
 市野山村 庄屋角左衛門
 與頭三郎左衛門
 百姓兵左衛門
 中里村 庄屋九郎左衛門
 與頭三郎
 百姓初兵衛
 大 庄屋小助
 村與頭彦右衛門
 百姓與右衛門
 田屋村 庄屋善兵衛
 與頭勘右衛門
 百姓彌右衛門
 中 庄屋善左衛門
 村與頭治郎右衛門
 百姓準人
 町屋村 庄屋新右衛門
 與頭善太郎
 百姓久三郎
 興野 庄屋長右衛門
 村與頭甚左衛門
 百姓與次右衛門
 川行村 庄屋次郎右衛門
 與頭嘉右衛門
 百姓四郎太夫
 谷地 庄屋四郎左衛門
 村與頭又左衛門
 印金森目村 庄屋九兵衛
 與頭仁右衛門
 百姓三郎左衛門
 百姓茂左衛門

章七 農業的林系 一 水源涵養林

註一四一 【紀綱雜誌・政府萬屆書】

(日本山林史保護林篇上卷七三一頁參照)

註一四二 【清川組出入御裁許狀并村定書】

○山形縣東田川郡清川村齋藤トミエ氏

寛文七未年御檢使様御下り之節山境書上候書付
 覺

一 清川根下申所ノ大持坂申所迄、月山ノ下道ノ道之北
 東清川ニ水落次第大中嶋村分、但、此内ニ玉川・長澤・う
 へ澤・宮田林四ヶ所同村御田地水林御座候事
 一 大持坂ノ下中代澤申所迄水落次第科澤村分、但、科澤
 村四年以前辰之年ノ添川組被ニ仰付ニ候間除可申儀ニ御
 座候へ共、八年前子之年江戸ニ申上候筋目相違申付る

書上申候事

一 ちかか澤と申處、峯續大石横根山・高森・赤坂と申所、尤峯、西と添川分、同嶺、東ハ水落次第立谷澤七ヶ村山地方ニ御座候事

右ニ御上使衆御下被レ爲レ成候付、添川・増川ニ羽黒山之地境御尋御座候ニ可ニ申上ニ旨、添川ニ書付指上申上候間、拙者ニも地境書出可レ申上ニ旨、兩度被レ仰付ニ候、先年江戸にて右之品々申上處ニ利運ニ被レ仰付ニ被レ下、以後羽黒方ニ手入申儀無ニ御座ニ候へ、何之申分、淡無レ之候へ共、任ニ御意ニ如レ此書付差上申候、以上

寛文七年

大中嶋村

未之卯月二日

肝煎久

三

郎判

立谷澤村

肝煎兵

五

郎判

齋藤

隼

人

御代官所

註一四三

【狩川新田通廿五ヶ村入會平田山御片付之儀相考候様被仰付候ニ付、愚意申上候覺書】

○山形縣飽海郡内郷村相良守一氏
一、奥山之新田通ニ多唱候は、杉澤川向山之東ニ御座候、既ニ貞享年中杉澤川向水林伐候節、已來川向ニは新田通之者入不レ申候様ニ平田郷大庄屋江狩川大組頭より墨付差出申候 ○下略

註一四四

【本郷組村々御林水林地】 ○山形縣東田川郡續林家職山書上ヶ帳 【本郷村役場】

○前略

行澤村

大澤之内

一 水林壹ヶ所

右は行澤村御田地用水不足ニ付、八ヶ村入會之家職山之内、先年御役所へ奉レ願水林ニ相立申候

○中略

水林壹ヶ所

行澤村

地續林合拾四ヶ所

御年貢ハ古來ハ出不申候

註一四五

【繪圖添書】 ○同 上

繪圖添書

熊出村分散山之儀奉レ願候處、彌願之通御見分之上ニ被レ仰付ニ被レ下置ニ難レ有仕合ニ奉レ存候、依レ之御指圖之通、御水林・新御林小松原・松林并御普請之儀御林之外、御林家職山共ニ大小之御百姓不レ殘番付圖取を以分渡、則横折之通相違無ニ御座ニ候、外ニ寺社御除山或者山之内谷地又ハ空地御竿地之分、少成とも繪圖面ニ書顯シ指上候、世話役之者共御請仕、急度相守申候様ニ被レ仰付ニ候間、山澤之銘書者不レ及ニ申上ニ、谷峯山色小道色等之筋迄、繪之具を以糺明仕指上申所少淡相違無ニ御座ニ候、爲レ其繪圖面如レ斯ニ御座候、以上

一、奥山之新田通ニ多唱候は、杉澤川向山之東ニ御座候、
既ニ貞享年申杉澤川向水林伐候節、已來川向ニは新田通
之者入不申候様ニ平田郷大庄屋江狩川大組頭より墨付
差出申候 ○下略

享保拾四年

酉七月

御郡奉行所

加判 太田平三郎判

横折帳末書覺

右之通御林・所々家職山共ニ相改、分散仕候處、相違無ニ御
座候、爲其割方明細横折指上申候、以上

村中立合世話役

享保拾四年

酉七月

八郎左衛門判

同斷

同斷

同斷

同斷

同斷

同斷

同斷

同斷

同斷

同斷

同斷

同斷

同斷

同斷

同斷

同斷

同斷

同斷

同斷

同斷

同斷

同斷

同斷

同斷

同斷

同斷

同斷

同斷

同斷

同斷

同斷

同斷

地御等地之分、少成とも繪圖面ニ書顯シ指上候、世話役之
者共御請仕、急度相守申候様ニ被ニ仰付候間、山澤之銘書
者不レ及ニ申上、谷峯山色小道色等之筋迄、繪之具を以糺明
仕指上申所少相違無ニ御座候、爲其繪圖面如レ斯ニ御座
候、以上

度者也

村中立合セハヤキ

享保拾四年

酉七月控

八郎左衛門判
同 佐左衛門判
同 仁右衛門判
同 孫太夫判
同 仁左衛門判

年番掟

註一四六

【泉村文書】○山形縣東田川郡泉村役場

御三ヶ領中人川代山見分之上、用水林中分御取噺
之品々承知仕候上、爲ニ取替ニ證文之事

一 笹川るひつ澤若木立入口ノ水上者平清水澤を限り用水
林ニ相定申候事

但、右るひつも申所、手向村ニある者ほこ立平と申候由
一 笹川ノ東之方ハ、若木立入口ノ東之方貳段目之上窪を
限り水林ニ相定、貳段目之かけ上ノ入會山ニ御座候、夫ハ
ほこ立森月山階道在來候道ハ百間宛除之、但、平清水澤
を限り水林ニ相定、尤百間宛除候分、何れ之所ハ道ハ平
均百間宛之積り、但、右道ハ除候所も御三ヶ領入會山之
内ニ御座候、若只今迄在來候月山階道不通路之場所出來
仕候節者、御三ヶ領申合、古道を限り切替可レ申事

一 笹川入口若木立、東之方貳段目之上かけを限り水林境
塚、但、大瀧ハ辰巳之間塚築置申候事

一 狩込小屋場ハ申之方ニ境塚築置申候事

章七 農業的林系 一 水源涵養林

此壹枚、世話役五人末々共ニ急度相控、一ヶ年切宛致ニ所
持、用事有レ之候節は、五人寄合相開キ申候筈、若無用之
者ニ、壹人ニ自由ニ及ニ他見ニ候趣後日於レ顯者可レ爲ニ越

壹ヶ年跡成也

但シ横折共ニ舟ヶ平割帳別ニ有

此山繪圖貳枚御役所へ指上

同斷 太田平三郎殿へ同斷

此繪圖豊原多助様江壹枚

加判 太田平三郎判

同斷 多郎左衛門判

同斷 彌左衛門判

同斷 肝煎小右衛門判

同斷 組頭次郎左衛門判

同斷 仁左衛門判

同斷 孫太夫判

同斷 仁右衛門判

同斷 佐左衛門判

同斷 八郎左衛門判

同斷 村中立合世話役

同斷 享保拾四年

同斷 酉七月

同斷 御郡奉行所

同斷 加判 太田平三郎判

同斷 横折帳末書覺

同斷 右之通御林・所々家職山共ニ相改、分散仕候處、相違無ニ御
座候、爲其割方明細横折指上申候、以上

同斷 村中立合世話役

同斷 享保拾四年

同斷 酉七月

同斷 御郡奉行所

同斷 加判 太田平三郎判

同斷 横折帳末書覺

同斷 右之通御林・所々家職山共ニ相改、分散仕候處、相違無ニ御
座候、爲其割方明細横折指上申候、以上

同斷 村中立合世話役

同斷 享保拾四年

同斷 酉七月

同斷 御郡奉行所

同斷 加判 太田平三郎判

一 平清水澤小屋場より山階道壹丁程下り道より百間除、西
之方ニ當り大石在レ之候、則水林境石と彫付申候事
一 笹川水林西之方ハ、御料拾壹ヶ村、御私領拾四ヶ村入
合山之内天女ヶ山之肩限り水引之函迄用水林ニ相定申候
事

右之趣去年寅之十月御三方中人山形御見分之上、中分御取
嚙、御三ヶ領人會山之内ニ水林相立申候品御申合、御三ヶ
領村々迄御申聞、不レ殘得心仕候處相違無ニ御座ニ候、依レ之當
卯之四月廿三日、右中人并御三ヶ領役人立合、境塚三ヶ所
見届ケ申候、右ヶ條之通自今以後違亂申問敷候、爲レ其村
々連判爲ニ取替ニ證文仍如レ件

羽黒領手向村

組頭 大 聖 坊 ④

享保貳拾年

○外七坊略

卯四月廿五日

御私領川代村

肝煎 新 左 衛 門 ④

國見村

同 次郎左衛門 ④

増川新田村

同 八 右 衛 門 ④

野荒町村

同 新 兵 衛 門 ④

外野村

同 兵 左 衛 門 ④

○外一名略

中里村

同 半 十 郎 ④

町屋村

同 新 五 兵 衛 門 ④

由屋村

同 清 右 衛 門 ④

川行村

同 源 助 ④

金森目村

同 仁 右 衛 門 ④

谷地奥屋村

同 太 右 衛 門 ④

下中野目村

同 五 右 衛 門 ④

柳久瀬村

同 茂 助 ④

古那村

同 兵 助 ④

○外一名略

加 藤 平 七 ④

御料

赤堀越村

名主 甚 右 衛 門 ④

川尻村

同 勘 助 ④

平足村

同 清 左 衛 門 ④

蛸井奥屋村

同 九 左 衛 門 ④

上中野目村

同 新兵衛門
外野村 兵左衛門
○外一名略
中里村 半十郎

同 勘助
平足村 清左衛門
同 蛸井與屋村 九左衛門
上中野目村

同 林右衛門
大川渡村 五兵衛
同 新村 十郎
谷地館村 四郎左衛門
同 奥屋村 長兵衛
市野山村 兵左衛門
同 大口村 平次郎
同 高橋伊兵衛
下羽黒山領中人 細谷村 寶藏寺
肝煎 小經田村 小南七右衛門
北經田村 齋藤太郎左衛門
御料中人 大山 佐藤善右衛門
町村 佐藤多右衛門
大山 太田理右衛門
御私領中人 相馬藤右衛門
清川村肝煎 大川新右衛門

齋藤作右衛門
吉岡村與頭 上林仁左衛門

註一四七 【清川組出入御裁許狀並村定書】
(日本山林史保護林篇上卷七三一—二頁參照)

註一四八 【山本重次郎廻狀】
○山形縣飽海郡 田澤村佐藤健氏

廻狀を以申達候 三組御林青木尺廻り以上之木數、去々年中も相改爲書出候得共、猶又入念今度相改書出候様可被申付候、尤御用木ニ不相成惡木ハ其斷書可致候

○中略
一、植付青木尺廻り以上之木數可書出候

○中略
一、水林ニ多御林同様之地所有之趣候、是又可被書出候
右之通來月中旬迄入念可被書出候、早々順達、留より可被相返候、以上

文化三年 二月五日 山本重次郎
川北三組連名
右御廻狀九日相達、十日大時へ遣ス

註一四九 【黒川村文書】
○山形縣東田川郡黒川村役場

追加

一 寶谷村家職場之内、西わた澤・竹の子澤・山務澤・枝澤共兩澤端拾五間宛御水林相建、其餘平之内は、此迄之通寶谷村ニ頂戴致家職候事

一 木實坂ノ堀尻迄之所、寶谷村御田地有之場所は、是迄之通貳拾間・參拾間宛荊拂、御田地無之場所は、川端ノ御水林相建ニ付、御役人中御見分之上印塚築立候事
但、後年ニ至、御田地障ニ相成候節は、御沙汰申上候事

一 墨澤村家職場之内、四ツ之俣澤・大牧澤兩澤共、澤端三拾間宛御水林ニ取立、成澤・日影平・くるみの木澤・東わた澤・岩根澤端貳拾間通御水林相建、其餘平之内七ヶ年之間家職留之事
但、追々御水林繁茂仕候は御沙汰申上候事

一 大鳥屋山東札山境ノ嶺通五郎治郎山澤迄、先年より境塚有之場所、今度朱引之通相改、築立置申候事

右之通大小之御百姓熱談之上相定、寛政十二未年爲ニ取替繪圖面ニ追加之義願之通被ニ仰付候、永違亂申間敷、連印追加仍如件

文政八年酉八月

黒川村上組

添役 源 三 郎 印

肝煎 茂 左 衛 門

同村 中組

添役 新 十 郎

肝煎 喜 三 郎

七九八

同村 下組

添役 與 吉

肝煎 喜 三 郎

註一五〇 【一筆指出申候事】

○山形縣西田川郡 袖浦村佐藤久藏氏

一 往古砂山風はき敷砌五ツ峯連々引崩、用水堤砂埋ニ相成、御田地度々及濁水ニ難澁罷有候處、御上之御威光を以、諸木植付、砂除被ニ成下、御人足被ニ下置、諸木繁茂仕、只今ニ相成候節は、かれ木山萱等自由いたし、困窮之人々、夫故暮方取つ、き罷有候、近年ニ相成候節は大切之御水林等困^困し相心得候者も間々有之、青木を勝手次第ニ伐取、此以後往古之心持を以、青木は不^不及ニ申上ニ、雜木成共自由不^不仕候、今度被ニ仰付候趣奉^奉得其意候、萬一青木伐取候者有之候ハ、何様之曲事ニも可^可被ニ仰付候、爲^爲其村中連判を以一札指出候、以上
文政九年
戊十月

善 右 衛 門 印

○外四十七名略

長人 作 兵 衛 門 印

○外二名略

肝煎 善 三 郎 印

佐藤唯右衛門殿

註一五一

【文化六巳十月ヨリ此來諸事御用
其外願書控被仰渡書萬留控帳】

○佐藤久藏氏

註一五三

【大山御林栗木伐出之義御吟味ニ付差出書付】

添役 源三郎
 肝煎 茂左衛門
 同村 中組
 添役 新十郎
 肝煎 喜三郎

佐藤唯右衛門殿

肝煎善三郎

註一五一

【文化六巳十月ヨリ此來諸事御用
 其外願書控被仰渡書萬留控帳】
 ○佐藤久藏氏

（天保六年四月十八日）
 前日より元助殿御達、村々水林仕立候様、雜木苗木用意
 致候様、杉苗は勿論之事、松苗は宜からざる事

註一五二

【西郷組長崎村水林樹木并御普請所
 用水々門入用普請所取調書上帳】
 佐藤久藏氏

一 用水御水林 壹ヶ所

御領
 下川村地方
 馬町村地方

但、人々前迄分散預置申候

一 松三尺五寸まわり

五本

一 同三尺まわり

七本

一 同貳尺廻り

拾貳本

外ニ細木

一 杉三尺まわり

九本

一 同貳尺五寸まわり

拾貳本

一 同貳尺まわり

貳拾五本

外ニ細木

一 雜木細木若林ニ御座候

右は長崎村水林之内、樹木書上申處如斯ニ御座候、以上

戌

十一月

長崎村
 肝煎 兵四郎

清水 増治殿
 清水 増吉殿

註一五三

【大山 御林栗木伐出之義御吟味ニ付差出書付】
 ○山形縣西田川郡西郷村五十嵐宇右衛門氏

御吟味ニ付奉ニ申上候御事

一 御林壹ヶ所

大山村

此反別六拾四町九反三拾步 御林ノ田河川岸迄道法拾八

町、右河岸ノ酒田船積湊迄

此木數千七百拾本 川路拾里、右湊ノ江戸迄東

内 海四百拾七里、西海七百五

栗木三拾七本 節曲リ木 拾三里、大坂迄五百五拾里、

但、末口 五寸長壹

文御改帳 拾五本之

同九拾貳本 節曲リ木

但、末口貳寸長九尺

御改之外苗木之内

右入用

末口五寸長壹丈 壹本ニ付賃錢四拾文

但、一日三本根伐枝落し皮むきとも

根伐 末口貳寸長九尺 壹本ニ付賃錢拾七文壹分

但、一日七本根伐右同斷

山出 枝葉村方ニ被ニ下置候外、平均大小壹本ニ付錢

五文つ、

末口五寸壹丈 壹本持 四度送り

川岸届ケ 但、賃錢壹本ニ付三拾文つ、 但、遠近平均

末口貳寸九尺 貳本持 四度送り

但、賃錢壹本ニ付拾五文つ、 但、右同斷

積湊迄

末口五寸長壹丈 壹本ニ付三拾五文つ、
末口貳寸長九尺 壹本ニ付拾文つ、

末口五寸長壹丈

壹本ニ付百五文つ、

諸入用合

末口貳寸長九尺 壹本ニ付四拾七文七分

一 御林壹ヶ所

下川村

此反別五拾七町七反八畝八步 御林ヶ西野山村河岸迄道
法壹里餘、右川岸ヶ酒田

此木數五百三拾五本

船積湊迄川路七里

右湊ヶ東海四百七拾七
里、南海七百五拾三里

大坂迄五百五拾里、江戸
迄陸路百廿九里余

内

節曲り木

栗木拾本 但、末口五寸 長壹丈
御改帳面貳拾五本之内

節曲り木

同三拾五本 但、末口貳寸 長九尺
御改帳面之外苗木之内に見出シ

右入用

末口五寸長壹丈 壹本ニ付賃錢四拾文

伐 但、一日三本根伐枝落皮むきとも

末口貳寸長九尺 壹本ニ付賃錢拾七文壹分

但、一日七本根伐右同斷

山

出 枝葉材方被ニ下置ニ候外、大小平均壹本ニ付錢
五文つ、
末口五寸長壹丈 壹本持 三度送り

川岸届ヶ

但、壹本ニ付賃錢四拾文つ、 但、遠近平均
末口貳寸長九尺 貳本持 三度送り
但、壹本ニ付賃錢貳拾文つ、 但、右同斷

積湊迄

末口五寸長九尺 壹本ニ付百拾五文
末口貳寸長九尺 壹本ニ付五十貳文壹分

入用合

末口五寸長九尺 壹本ニ付百拾五文
末口貳寸長九尺 壹本ニ付五拾貳文壹分

○中略

右は此度拙者共村方御林之内、栗長九尺ヶ壹丈迄末口四寸
ヶ貳寸迄之分御入用ニ付伐出之失却、御林ヶ河岸迄、夫ヶ
船積湊迄諸入用積立書上候様被ニ仰出ニ候ニ付、兩御林相改
候處、是迄申上置候通、海邊風烈敷御座候故、皆々曲節木
ニて是迄御用木等伐出等之儀無レ之候得共、節曲り木ニても
不レ苦之趣被ニ仰渡ニ候ニ付、無レ據書面之木品撰出書上申候、
尤枝葉等は村方被ニ下置ニ候ニ付、冥加ニ奉レ存諸入用不
相懸ニ様可レ仕旨被ニ仰渡ニ奉ニ承知、下直ニ罷成候様積立候得
共、至テ嶮岨之岩山ニ御座候ヘハ、伐出等も甚人足相掛り、
其上運賃方開合候所、重キ木品ニ御座候ヘ得は、書面之外
相減シ可レ申様無ニ御座ニ候、殊更當村之御林之儀は、用水御
林ニ御座候、往古ヶ一切伐出儀無ニ御座ニ候所、近年所々
御普請所迄伐出被ニ仰付、無レ據御請申上候所、其後年々用
水不足仕難儀至極ニ奉レ存候、然所尙又此度之被ニ仰出ニ御
吟味之趣無ニ餘儀ニ仕合ニ奉レ存候、節曲り木之分書面之通
差出申候間、何卒御慈悲之御勘辨ヲ以、已來伐出之儀御免
被ニ下置ニ度奉ニ願上ニ候、依レ之爲ニ御請ニ拙者共連印ヲ以ニ奉
申上ニ候、已上

山
出 枝葉村方は被_二下置_一候外、大小平均壹本_二付錢_一五文つ、末口五寸長壹丈 壹本持 三度送り

水不足仕難儀至極ニ奉_レ存候、然所尙又此度之被_二仰出_一御吟味之趣無_レ餘儀ニ仕合_ニ奉_レ存候、節曲り木之分書面之通差出申候間、何卒御慈悲之御勘辨ヲ以、已來伐出之儀御免被_二下置_一度奉_ニ願上_一候、依_レ之爲_ニ御請_一拙者共連印ヲ以_ニ奉_レ申上_一候、已上

出羽國田河郡大山村

午七月十八日之上ケ 長百姓藤三郎 同 善三郎
安永三年 同 甚兵衛 名主喜左衛門
年寄 徳右衛門 同 善右衛門
組頭 源右衛門

同國同郡下川村

長百姓 惣右衛門
同 藤兵衛
名主 與次右衛門
同 甚兵衛

註一五四 【堀内村萬年牒】

○山形縣最上郡新庄町嶺朝次氏

一 雜木林 日書上ル
一 雜木立、少々栗小立有り、端_二沼竹平山_一同斷、西又雜木_二三ヶ所_一、右者御田地水林也

註一五五

【寶曆年中金山郷御林守面附帳】

○山形縣最上郡金山町柿崎直昭氏

○前略

中田村

一 釜ヶ澤 水林 甚右衛門
一 橋ヶ澤兩澤 水林 甚五郎
一 畑尻之澤兩澤水林 吉兵衛
一 孫澤兩澤 水林 與野右衛門
○中略

右之通金山郷御林守如_レ此_ニ御座候、以上

註一五六

【寛政六年十月山境水林御改帖】

○山形縣最上郡角川村大山與十郎氏

さう木立 此境、南_二南山鷹鳥屋_一 次郎右衛門
みねざり
一 かんとう坊山東_二なべ倉清水村山境_一 新左衛門分
峯切、北_二小森ざり_一 兵助
西_二ななか楯大_一みね切り

さう木立 此界、東_二古口村山境峯切り_一治兵衛分
北_二同村山境鈴木峯切り_一 作十郎
一 赤堀山 南_二ハ川ざり_一西_二も川ざり_一 清兵衛
内_二作十郎分_一、天保四巳年十二月十日、古口町具足_二や甚兵衛方_一へ永代流ル

さう木山かや野 山堺澤ざり、東_二ハ川切り_一 小五郎
一 秋庭山 南_二ハ秋場鳥屋森ざり_一
北_二ハ川ざり_一

さう木立 此_二さかひ_一、南_二ハ熊堂峯切り_一新四郎分
一 新次郎林山 西_二ハみねざり_一、ひかし_二ハ川切り_一、權兵衛
北_二ハ秋庭鳥屋森ざり_一
柴立 此境、南_二ハ道ざり_一、西 作藏分
一 大畑山 北_二ハみねざり_一、東_二ハ川ざり_一 彌左衛門
北_二もみちざり_一

ざう木立

此境、南ハ澤切り、東ハ

八藏分

一同明山

川きり、西ハ久左衛門

權兵衛

鳥屋峯切り、北も道きり

作平治

雑木立

此境、西ハ峯切り

源七分

一中野澤山

南ハ澤き切、北も澤切り

又七

東わ川きり

四郎左衛門分

同斷

此境、南ハ鳥屋道切り

四郎兵衛

一 壹枚平山

西ハだし鳥屋峯切り

四ツ分

北ハ澤きり、東ハ二かい

勝之助

すゝねみねきり

茂右衛門

同斷

此境、南ハめた岩澤切り

小傳治分

一 かの澤山

だし鳥屋東の方ハ

傳左衛門

峯切り、同東ハ川きり

西わ田きり

此境、西ハ川きり、北ハ

右馬之助分

同斷

古口村山さかいへくり

與三郎

一 稻村山

峯切り、東南ハてんはい

みねきり

此境、北ハてんはい峯切り

次兵衛分

雑木立

東ハ藏岡村山勘九郎

權兵衛

一 十郎太郎澤山鳥屋ミねきり水落次第

西ハ田切り、南わ水上澤
みねきり

此境、北ハ水上澤峯きり

作藏分

東ハ藏岡村山塚勘九郎

喜助

鳥屋峯切り水落次第

平太夫

西ハほしは、南ハ家の後

ミねきり

同斷

一家之後山

同斷

一 瀧坂山

(符 號 位 置)

此境、北ハ家の後峯切田取四郎左
り、東ハ瀧坂ミねきり替之節衛門分
南ハ漆澤峯切り、にし衛門彌兵衛
ハほしはきり替ル四郎左衛門
茂右衛門

〔符號〕 此境、北ハ家の後嶺がふんやき嶺共、東ハ瀧坂峯迄、

南ハ漆澤嶺切、西下タハ干場が畑共、道脇堰ノ上桁

迄、尤明神社地ハ除、左平治跡支配也

右ハ文政九戌年六月廿二日諸役人寄合評議之上取極

申候 當時彌兵衛支配也

同斷

一 鈴木澤山

此境、北わ漆澤峯きり

德兵衛分

東ハ藏岡村山境丹後

彌兵衛

鳥屋峯切り別當澤上り

富右衛門

坂くりの木澤、北の大ミね切り

彌左衛門

東ハ砂子澤切り、南ハおふき平のミねきり、西わ市坂赤木峯きり

此境、北ハおふき平峯切り

此境、北ハ楯の峯きり

一 稻村山

峯切り、東南へてんはい
みねきり 與三郎

一 雜木立

此境、北へてんはい峯切り
東へ藏岡村山勘九郎 次兵衛分
権兵衛

一 十郎太郎澤山鳥屋ミねきり水落次第

同斷
一 鈴木澤山

東へ藏岡村山境丹後
鳥屋峯切り別當澤上り
坂くりの木澤、北の大ミね切り
東へ砂子澤切り、南へおふき平のミねきり、西へ市坂赤木峯きり
彌兵衛分
富右衛門
彌左衛門

一 雜木立

此境、北へおふき平峯切り
東へ横前ミね切り、南へ 助太郎分
中の澤下之峯切り、にし 彌左衛門
へほしはきり

一 十二澤山

同斷

此境、北へ中の澤切りは、切り
ひかしは赤木のはきり 右馬之助分
南へ小澤きり、西へほし 彌左衛門
葉きり

一 彈正林山

同斷

此境、北へ古道切り、東へ
なべくらミね切り、西へ
ほしはきり、南へふとう
澤上ミ峯切り、水落次第
富右衛門

一 赤木山

かやの

此さかい、北へみねきり
ひかしハ堀切り、南 德兵衛分
ハ道へおもて小澤きり 彌左衛門
にしわ田きり

一 楯坂山

かゑの

此境、北へ澤切り、東 德兵衛分
ハまところミね切、南 彌兵衛
ハ古道切りにしハ田きり

一 赤木山

同斷

此境、北へ小澤きり
東へ楯の峯きり 左馬之助分
南へほしはきり 三郎兵衛
にしわ屋敷切り

一 楯平山

章七 農業的林系 一 水源涵養林

(置位ノ總符)

同斷

一 仙田澤山

此境、北へ楯の峯きり
東へ日山切り、南へ水 佐傳次
上澤下之ミね崎きり、 長右衛門分
西へ田切り次右衛門田 累右衛門
頭除ヶへ見通し

一 柴木山立
一 松峯山

此境、北へちかミ澤下のミ
ね切り、東へ日山の峯切り 源内分
南へ小澤きり、西へ田きり 源太郎
次右衛門田頭除ヶへ見通し 源助

○中略

一 ざう木立

此境、西へかの澤峯切り 兵左衛門
北へ澤きり、南へ猿倉切り 庄兵衛
ひかしは川きり

一 より澤山

此境、南へより澤みさわ切り

一 ふうとう山

西へかの澤峯きり、北へだ 惣右衛門
し鳥屋ミね切り川向ひ大峯
きりたき切り 嘉左衛門
但したきハ綱取ヶ西ノ方

同斷

一 矢筈山

此境、上ミハぬけめ切
下ハミねぎり不殘 伊右衛門
外ニ眞ヶ木澤表こもつち百二十俱利兵衛舊平斗拂濟

所左衛門

〔存続〕
長江澤

此境、西ハ大たゑらはつふぢ切

一 立林壹ヶ所

南ハミね切り、東川切り
北ハ澤切り

欠淵之内

同、南ハなりとり澤きり、東ハ川切り

一 立林壹ヶ所

西ハ小澤切り、北ハすミ燒澤切り
庄兵衛分
孫四郎

一 水林壹ヶ所

此境上ミは澤切下モハ道切り

さう木立

此境、東ハ澤口切り、西ハか

一 まかき澤山

の澤ミね切り、南ハだし 藤 助
鳥屋峯切り、北ハはゞきり

同斷

楯森

此境、西ハかの澤峯きり 八右衛門分
南ハまかき澤ミねきり 角兵衛
東ハ田切り、北ハせの木澤き 與十郎
り、下ハミね切り上ハ澤切り

雜木立

一 西山

此境、南ハせの木峯きり
わこ小はゞ切り澤切り 長右衛門分
東ハ田きり、西ハひかけ 彌兵衛
鳥屋大ミね切り、北ハよし平澤きり

同斷

一 西山

此境、南ハひかけ鳥屋はゞ切り織部分
東ハよし平澤切り、北ハ川き 佐 吉
り、西ハかの澤はゞ鳥屋峯 彌兵衛
切り、但し田前迄

○中略

ぞう木立

此境、東ハ瀧澤きり、北ハせき切 武右衛門分
一 大畑山 此境、南西ハ藤三郎山之内上ハ瀧澤利兵衛
切り、下ハ山崎切ノ上ハ平ヶ上の嶺切

一 大畑山

ぞう木立新林 此境、北ハ澤きり、東ハ田 彌十郎分
きり、南ハへびヶ澤切り 三郎兵衛
西ハ峯きり

一 柴立新林

此境、西ハ田切り、南ハ馬道 藤三郎分
一 大畑山 切り、北ハ利兵衛との境す 重右衛門
ハねきり、東ハ峯切り

一 ぞう木立

東ハ川きり谷地頭の澤かなつと
う坂迄
南ハより澤のねきり、西ハ田代
林の境切り 與右衛門
北ハきり瀧切り

一 鳥屋森山

南ハ小森切り、東ハどうけん澤
なべ倉境ハ西の方無錢同矢びつ
田地東下ノ澤切り 與惣右衛門分
北ハ平根だい田地ハ上ノ澤段々 久兵衛
平根ノ方峯きり、西ノ方ハ下も
ハきつね森よこ道切り
上ミハ片倉境ハ下之方かま澤長倉道ハ上
ミの方迄

一 ぞう木立

一 平根山

敷罷成候故、御家中之御家來并御町方之衆中、日々右之

同斷
西山

鳥屋大ミね切り、北ハよし平澤きり
此境、南ハひかけ鳥屋はゞ切り織部分
東ハよし平澤切り、北ハ川き佐吉
り、西ハかの澤はゞ鳥屋峯 彌兵衛
切り、但し田前迄

一 平根山

北ハ平根だいの田地が上ノ澤段々 久兵衛
平根ノ方峯きり、西ノ方ハ下も
ハきつね森よこ道切り
上ミハ片倉境が下之方かま澤長倉道が上
ミの方迄

一 八幡林

南ハ平ね村境大峯切り、西
ハ平根だへの澤切り 右馬之助分
但し春木ノ澤、東ハ田川切 三 助
り、北ハ寺たいのはゞゆり
澤切り川きり

右之通、村方持分水林山堺、古來之帳を以相改候所相違
無御座候、何卒御判紙御叶被成下度奉願上候、以上

寅十月

角川村

山守

與 十 郎 ㊦

同

與 三 郎 ㊦

同

茂 右 衛 門 ㊦

庄屋

齋 藤 彌 兵 衛 ㊦

金田長右衛門様

鈴木志兵衛様

註一五七

【大場文書】 ○山形縣最上郡稻舟村大場一郎氏
内ノ澤現ノ澤兩所

一 芦澤御田地水林

右之通、蘆澤村去ル子ノ年當村添郷ニ被仰付、難有仕
合奉存候、右ニ付、私儀同村之様子、内々見分仕候所、同
村御田地水元ハ、柏木山裏崩之水斗ニ多、是迄御田地相
續仕來候所、近年笹麥出候以來、笹不殘枯候、是場宜

章七 農業的林系 一 水源涵養林

敷罷成候故、御家中之御家來并御町方之衆中、日々右之
山ニ薪取、大勢入込申候、夫故哉水元次第ニ不足ニ罷
成候様子と同村之者共申事に御座候、左様ニ御座候得者
是迄有來り候水元ニ多さへ、漸々細くと間ニ合セ居候
事ニ御座候得者、新田不仕付之場所等、切開候事も難ニ相
成ニ御座候間、右之場所水林ニ相立申度奉存候、左候得ハ
水元淡餘慶ニ相成、開發淡心能出來、御百姓も満足可仕
と乍恐奉存候間、何卒右之場所水林相立申度奉存候、
依レ之御高札三枚以御憐愍御下ケ被成下候様、以御
執成、乍恐宜敷被仰上、早速御叶被成下度、此段偏ニ
奉願上候、以上

（天保三年）
卯三月

角澤村添郷蘆澤村組頭

組頭 清 左 衛 門 ㊦

角澤村山守

惣 十 郎 ㊦

組頭

源 七 ㊦

同

久 右 衛 門 ㊦

庄屋

大 場 市 助 ㊦

柿崎平八様

前書之通、奉願候間、御叶被下度奉存候、以上

同日

柿 崎 平 八 ㊦

御 役 所

〔表書之通、御附札ニ相叶候條、成木出勢可有之者也
（表書）

八〇五

卯九月八日

可兒惣太夫[㊦]

角館六郎左衛門[㊦]

南澤村庄屋山守中

註一五八 【乍恐奉願上候御事】

○山形縣最上郡稻舟村
松田甚五郎氏

前山南澤

願主

一 御判紙壹ヶ所

甚 治 郎

長五拾間

横貳拾間

山神澤

枝郷柏木山願主

一 同雜木水林壹ヶ所

運 治 郎

長百七拾間

横八拾五間

右之通奉^ニ願上^ニ候、同人共雜木水林相立并苗木杉植立
場所御判紙奉^ニ願上^ニ候間、何卒以^ニ御憐愍^ニ願之通御叶
被^ニ成下^ニ度奉^レ存候、乍^レ恐此段宜敷御執成被^ニ仰上^ニ被^ニ
成下^ニ候様、偏^ニ奉^ニ願上^ニ候

(置位ノ札附)

鳥越村組頭

文久三亥年七月

金

七[㊦]

〔附紙〕
願之通相叶

大山守

松田 長治郎[㊦]

庄屋

吉田 辰五郎[㊦]

榎岡 准藏様

前書之通、奉^レ願候間、御叶被^レ下度奉^レ存候、以上

同日

榎岡 准藏[㊦]

御 役 所

〔表書〕

表書之通、御附札ニ相叶候條、向三ヶ年之内植立出精伐
取候節は、我等手代・庄屋・山守・立會、猥無^レ之様爲^ニ伐
取、定法之運上出^レ之、伐取候後は、判紙上納可^レ有^レ之、且
水林精々可^ニ相守^ニ者也

文久三亥年九月廿九日

加々尾 伸[㊦]

森 充右衛門[㊦]

鳥越村

庄屋山守中

註一五九 【萬記録】

金山郷

○山形縣北村山郡大高根村寺崎信治氏

○中略

一 …… 差首鍋村

一 谷地の澤内村

〔別紙〕
谷地澤御立木覺

水林之内五尺廻り位

一 槻三本

脇ノ澤五廻り餘

一 同三本

まさほらり五尺廻り位

一 同三本

一 ……

やけん澤六尺廻り位

一 同壹本

半四郎林之内六尺廻り位

一 同貳本

彌根林六尺廻り位

一 同壹本

〔附紙〕
願之通相叶

文久三亥年七月

鳥越村組頭

金

七

大山守

松田

長治郎

庄屋

吉田辰五郎

一 槻三本
一 同壹本
脇ノ澤五廻り餘
半四郎林之内六尺廻り位
一 同貳本
一 同貳本
まさほり五尺廻り位
彌根林六尺廻り位
一 同壹本

まんなし澤六尺廻り位

一 同壹本

かしまし澤四尺廻り位

一 同壹本

同山澤壹丈廻り位

一 同壹本

拾六本

壹丈三尺廻り位

一 杉貳本

まさほり

八尺廻り位

一 同貳本

右同所

九尺廻り位

一 同壹本

一 同壹本

文久四子年三月九日

○中略

石名坂村

一 〔小舟也〕

一 同所水林

一 同所水林

○中略

下谷地郷

横山村

一 同所水林

一 寺澤水林

一 同所水林

○中略

湯野澤村

章七 農業的林系 一 水源涵養林

註一六〇 【乍恐奉願上候御事】 ○松田甚五郎氏

乍恐奉願上候御事

川田侃次郎御役所之寫之置候帳面之寫也
〔山奉行〕

文久四子年二月吉日

加々尾 仲

好濤〔花押〕

一 水林山

○中略

内南澤外澤兩所ニ南北峯切

一 雜木水林 長百五拾間幅百間 願主

松田長治郎

右之通當村用水并御田地用水之爲メ前年より御判帑頂戴仕、雜木水林相立候處、別帑御判帑蟲喰等シ文字難ニ相譯ニ罷成候ニ付、猶亦御改之上何卒以ニ御憐愍ニ御判帑頂戴仕度奉レ存候、此段奉ニ願上候、以上

明治四年 未二月

鳥越村組頭

金 七

大山守

松田長治郎

庄屋

吉田運太郎

山崎 修 吉様

中村 彦 米様

前書之通相改候處相違無之候間、精々生立候様可致候、尤用水立林ニ於者小柴ニ至迄伐取申間敷者也

八〇七

未

二月

鳥越村庄屋山守中

中村 彦米 ④
山崎 修吉 ④

註一六一 【乍恐奉願上候御事】 ○松田甚五郎氏

乍恐奉願上候御事

外南澤より内南澤蟹子澤共

一 御判帶水林

但シ南峯塚、東峯塚、西與四郎山澤塚北欠ケ切塚
右之通先年中村武大夫様・可兒惣太夫様御勤役中厚以ニ思
召、當村用水苗代掛り御田地迄水林相立置候處、只今ニ相
成、雜木成木仕候ニ付、村方願之通り厚以ニ御憐愍、御判帶
奉ニ頂戴ニ度奉ニ願上候間、乍恐此段宜被ニ仰上ニ被ニ成下ニ度
偏ニ奉ニ願上候、以上

明治四年

未十一月

鳥越村下山守

伊 七 ④

組頭

金 七 ④

大山守

松田長治郎 ④

庄屋

吉田運太郎 ④

金田 等様
御控

註一六二 【官山取調書上帳】 ○松田甚五郎氏

羽出國最上郡

鳥越村

字南澤

一 反別不詳

東姥ケ懐

西往來鳥越村

南中峯

北與四郎山

字外南澤大立山

一 反別不詳

東姥ケ懐

西往來鳥越村

南沼尻澤

北内南澤

山坂
嶮岨

東西凡

南北凡

山坂
嶮岨

東西凡

南北凡

右ニケ所之儀者、御官林其外從前御叶之村方御判紙地并當
村一層之香水用水流末苗代掛り御田地迄雜木林相立置申候
場所柄ニ御座候間、乍恐此段奉ニ申上候

字山神澤

一 反別不詳

山坂
嶮岨

東西凡壹丁三拾間位

東兎額村

西苧畑澤

南苗代御田地

北堂ケ澤

南北凡貳丁位

右者枝郷兎額村苗代御田地水源之澤ニ御座候間、從前より
松栗小柴等ニ至迄一切不伐取候場所柄ニ御座候間、萬一

外村等迄御拂下被ニ成下候は、水不足ニ相成、自然御田

東西ノ澤

東西凡壹丁位

金田 等様 御控

吉田運太郎

註一六二 【官山取調書上帳】 ○松田甚五郎氏

右者枝郷兎額村苗代御田地水源之澤ニ御座候間、從前より松栗小柴等ニ至迄一切不ニ伐取ニ候場所柄ニ御座候間、萬一

西亭畑澤
南苗代御田地
北堂ヶ澤
南北凡貳丁位

外村等ニ御拂下被ニ成下ニ候は、水不足ニ相成、自然御田地相續之差支罷成候ニ付、乍レ恐此段奉ニ申上ニ置候

字與四郎山

一 反別不詳

山坂
嶮岨

東 姥ヶ懐

東西凡

西 蟹子澤

南 内南澤

南北凡

北 新田川

右者御官林并村方水林繼キ之山ニ御座候間、從前より村方ハ不ニ申及ニ小柴ニ至迄一切伐取不レ申様相守リ置候場所柄付、萬一外村等ニ御拂下ケ被ニ成下ニ候ハ實ニ取締ニも相成間敷奉レ存候、乍レ恐此段奉ニ申上ニ置候

字千との澤

一 反別不詳

山坂

嶮岨

東 柏木山村

東西凡壹丁位

西 大森山

南 御田地

南北凡貳丁位

北 西ノ澤

右者、柏木山一村之呑水用水并苗代掛り御田地迄水源之澤ニ御座候間、下夕木小柴ニ至迄一切不ニ伐取ニ候場所柄ニ御座候間、外村等ニ御拂下ケ被ニ成下ニ候者、實一層差支ニ罷成候ニ付、乍レ恐奉ニ申上ニ置候

字大森山

一 反別不詳

山坂

嶮岨

章七 農業的林系 一 水源涵養林

註一六三 【奉捧呈上申書 水源官山之儀】

○山形縣東置賜郡吉野村川合圓次郎氏

水林看守人江御渡之舊書之寫

札

北條郷用水、吉野川の水上くこり瀧澤内八もり澤まで新林ニたてさせ候間、此山へむざと入立、枝木成共とらせまじく候、若法度をそむき、我まゝいたすもの有レ之よおゐては、米澤へ注進可レ在レ之者也、仍如レ件

明曆二年閏四月日

右札、條許之詳細書

一條、北條郷と有ルハ、米澤之舊城より北ニ當る郷を北條郷と號する也
二條、吉野川水上と有るは、小瀧村なり、流末九ヶ村を経て大橋村ニ至ル迄吉野川と號するなり、其流里程凡七里
三條、潜り瀧と有ルハ、川之上ニ大岩横たわり、其狀鍋に弦を懸たるが如く、流水其岩穴を貫き流出つ、其瀧之高き事凡三丈なり

四條、澤之内八森澤迄、新林ニ立させ候間と有ルハ、村持山之内宇川前澤と申處、水林ノ御見立就ルハ米六石三斗貳升貳合年々給ル之御達ニ付、其意ニ一村承諾仕、境界ハ潜り瀧、猶其峯を以テ分界致シ水林ノ定めさせられたる儀なり

註一六四 【御忙申事】 ○川合圓次郎氏

御忙申事

一、先月廿七日ニ小瀧村水御林へ上萩村之者共、入籠申所ニ、四人ノ山守衆見合ふせき申候へは、萩村之者共御林破り申上、四人ノ山守衆へ何角我か儘成儀共申懸ルニ付、肝煎」小瀧村吉左衛門殿より、右理り被レ致候へ共、當人も相まれ不申ニ付、其趣返事仕候、依レ之山守衆書付を以御披露ニ御登候、然上ハ御公儀事ニ罷成候へは、旦那へも御苦身相掛申、第一乍恐上々様へも無調法成儀申上、其上御吟味ニ罷成候ハ、御林へ參候者共、如何様ニ被レ仰付も相まれ不申候間、我々大事ニ奉レ存驚罷登、此度之處、伊兵衛無調法成儀返事被レ申候、右米澤迄爲レ登申我々詫仕、其上梅澤彌左衛門殿、伊兵衛方へも庄左衛門方へも被レ懸ニ御目ニすへニ御座候、右小嶋次左衛門殿へ御出御相談之上、山守共申立ル處、尤ニ思食、又々追々彌左衛門殿へ次左衛門殿より内々ニ寄御明、萩小瀧之者共御返し可被レ下山御頼之狀參候ニ付、右之通彌左衛門殿、山守共ニ被レ仰付ニ御中人ニ御立被レ成候故、内々ニ事濟、何迄罷歸り大慶ニ存申候、向後我

か儘成儀中ニおゐてハ、如何様ニも御披露可レ被レ成候、爲レ後日ニ仍如レ件

天和四年二月十一日

下萩村中人 宇 兵 衛 ⑩

同村中人 權 左 衛 門 ⑩

同村中人 助 左 衛 門 ⑩

上萩村 伊 兵 衛 ⑩

○外三名略

小瀧村水御林山守 七郎左衛門殿

○外三名略

註一六五 【小瀧村水林山守扶持割付帳】 ○川合圓次郎氏

小瀧村水林山守扶持割付帳

五月朔日

一 六石三斗貳升貳合

山守四人ニ、壹人扶持宛、年中十二月分相拂、七石

貳升新付ニテ

右之内

一 壹斗貳升三合 坂 井 村 印

一 貳斗五升 萩 生 田 村 印

一 三斗七升八合 鍋 田 村 印

一 貳斗六升八合 中ノ目村印

一 貳斗五升九合 俎 柳 村 印

一 貳斗四升八合 長 岡 村 印

次左衛門殿へ御出御相談之上、山守共申立ル處、尤ニ思食、又々追々彌左衛門殿へ次左衛門殿より内々ニ寄御明、萩小瀧之者共御返し可レ被レ下山御頼之狀參候ニ付、右之通彌左衛門殿、山守共ニ被レ仰付ニ御中人ニ御立被レ成候故、内々ニ事濟、何淡罷歸リ大慶ニ存申候、向後我

一 萩生田村印
一 鍋田村印
一 中ノ目村印
一 姐柳村印
一 長岡村印

一 貳斗六升壹合 柵塚村印
一 壹斗五升四合 二色根村印
一 四斗四升五合 三間通村印
一 三斗貳升九合 郡山村印
一 壹斗八合 嶋貫村印
一 六升 宮崎村印
一 壹斗九升八合 露橋村印
一 貳斗六升八合 關根村印
一 壹斗貳升三合 西落合村印
一 壹斗六升貳合 中落合村印
一 三斗七升四合 赤湯村印
一 四斗三升貳合 蒲生田村印
一 壹斗四升 若狹郷屋村印
一 四斗 宮内村印
一 八升 金山村印
一 二斗五升 石岡村印
一 六石三斗貳升貳合 高梨村印

露橋村 平兵衛印
金山村 七兵衛印
蒲生田村 三右衛門印
鍋田村 善右衛門印
中ノ目村 清右衛門印
石岡村 徳右衛門印
柵塚村 平右衛門印
若狹郷屋村 彌兵衛印
二色根村 五郎兵衛印
三間通村 善兵衛印
長岡村 藤兵衛印
姐柳村 藤右衛門印
赤湯村 四郎兵衛印
高梨村 喜右衛門印
宮内村 平左衛門印
坂井村 仁右衛門印
嶋貫村 太左衛門印
郡山村 市左衛門印
萩生田村 善三郎印

右之通り當春ヨリ年々無ニ遅々ニ相濟可レ申候也

貞享元年

四月十一日

中落合村 仁兵衛印
宮崎村 新左衛門印
西落合村 長左衛門印
關根村 市左衛門印

註一六六 【小瀧村水御林山守願書差上申候事】

○川合圓次郎氏

小瀧村水御林山守願書差上申候事

一、萬治之比、安部七郎右衛門殿、御扱之時分、北條郷日

損仕ニ付多蘆野川水下貳拾三ヶ村川水のため、當村ノ内澤内と申所、水御林ニ御立、山守四人被ニ仰付、壹人ニ貳人扶持宛被ニ下置、山相守罷有候所ニ、御代官替り以來御扶持被ニ召上ニ候ニ付多、様々御訴訟申上候得共御承引無ニ御座ニ候故、無シ據燒島等開作仕、觸命續ケ山相守罷有候所ニ、天和貳年開御檢地之時分、水御林開共ニ御檢地被遊、御所納村方一偏ニ御取立被遊ニ付多迷惑仕御訴訟申上候、御年貢御免被ニ下置儀不ニ相叶ニ候は、先年之通貳人扶持宛可レ被ニ下置ニ候、左様不ニ罷成ニ候は、御林相守申儀不ニ罷成ニ候段御訴訟申上候得は、貞享元年より壹人扶持宛、水下貳拾三ヶ村より請取申様ニ御割符被ニ下置ニ付多、我々一分ニ取立申儀罷成間敷候、先年之通、御藏より、可レ被ニ下置ニ様申上候得共、村々きも入中へ急度申渡候間、我々請取申様ニ被ニ仰付ニ故、不レ及ニ是非ニ御請仕候事

一、被ニ仰付ニ次第ニ、毎年取立申候へ共、一分ノ遣ニ多諸村廻り申候へハ、過分造用相懸り、御扶持乍申請ニ我々徳用ニも不ニ相成ニ迷惑仕候、就中近年之儀ハ、彌々調かね、其上去々年より□下り共罷成、我々催促ニ多埒明不レ申、其上去去年中皆不作ノ上□下り共罷成候へは、達多餓死仕候事

一、近年ハ、御林大木ニ罷成候へハ、御檢地島ノ儀も實入不レ申段々荒地ニ罷成迷惑仕候間、先年之通御藏定納ニ被遊、御藏より請取申様ニ被ニ仰置ニ可レ被ニ下置ニ候、左様ニ無ニ御座ニ候得は、多分人數費へ、御林も猥ニ罷成候

得ハ、彌々迷惑仕儀ニ御座候間、幾度も御訴訟申上候事右之通被ニ仰立、先年之通御藏より請取申様ニ被遊可レ被ニ下置ニ候、以上

元祿九年

五月廿九日

佐五右衛門

長左衛門

金一郎

源太郎

きも入

小嶋次左衛門殿

註一六七 【御林集】 ○山形市伊佐早謙氏

○前畧

水林

一 シバレ澤

百間

(奥田)

○中略

一 小深澤 水林

百五十間

同 半右衛門

一 ララガ澤 同

貳百四十間

同 同 人

一 大持ヶ澤 同

三百間

同 同 人

一 飯坂 同

百貳十間

同 同 同

一 同北ノ澤 同

貳百四十間

同 同 同

一 同亭畑澤 同

百三十間

同 同 同

拾八間

同 同 同

ミサワ 同

四百八十間

同 同

栗立御留林

同

同

一、近年ハ、御林大木ニ罷成候ヘハ、御檢地畠ノ儀も實入不申段々荒地ニ罷成迷惑仕候間、先年之通御藏定納ニ被遊、御藏より請取申様ニ被仰置ニ可被下置候、左様ニ無御座候得は、多分人數費ヘ、御林も猥ニ罷成候

一 飯坂 同 百貳拾間
 一 同北ノ澤 同 貳百四十間
 一 同葺畑澤 同 百三十間
 拾八間 同 同

一 ミサワ 同 四百八十間
 一 遺水 同 四百廿間
 一 宮澤 同 貳百四十間
 一 瀧ヶ澤 同 貳百四十間
 ○中略
 一 雜木立 水林 八拾間 (高峯)
 一 大谷地 同 百貳拾間
 一 笹平 同 百六拾間
 一 前林 同 六拾間
 ○中略
 一 澤入 水林 壹ヶ所 (手野子) 源四郎
 右林出入ニ付、正徳元九月中御取上ヶ山ニ成ル
 一 上ノ山 水林 百九十間
 ○中略
 一 ノデカ澤 水林 七百間 (副川)
 ○中略
 一 椿山 柴立水林 九拾間 (椿村)
 五拾間 同

一 彌十郎林 同 百五十間 (栗立御留林)
 一 右之續 同 十五間 (川原澤) 善次郎
 一 壹ヶ所 同 不動瀧ヨリ アママチ澤迄 同元祿九、六月 善右衛門
 ○中略
 一 引廻し 同 五十間 (雜木立) (黒鴨)
 一 中平 同 八十間
 一 雜木立水林 同 百間
 一 荒山 同 三十間 黒鴨
 ○中略
 一 細越 同 同 須郷 善學坊
 ○中略
 一 大手藏 同 壹ヶ所 小國谷中 黒澤 九左衛門
 一 カマノ平 同 同 松岡村 昨兵衛
 一 小豆洗澤 同 同 三右衛門

一 同	小屋澤	同	同
一 同	センノウ澤	同	同
一 同	大林	同	種澤 彌左衛門
一 同	坊主ヶ嶺よ り神明林迄	同	岩井澤 長兵衛
○中略			
一 同	雜木立水林	同	驚村 久七
一 同	スダテ澤	同	大鞆澤 七兵衛
一 同	水上澤	同	同
○中略			
川東通			
○中畧			
一 澤	水林雜木立	古帳ニ落、北條廿三ヶ村	佐五右衛門 源三郎
一 澤	内	千五百間 小瀧	金十郎 庄三郎
○中畧			
一 水林	雜木立	百貳拾間	(太郎村) 茂左衛門
一 筋澤		六十間	七兵衛
○中略			
一 水林	大木立	三百間	漆山 五郎右衛門
一 李之澤		貳百間	長左衛門
一 同	スガリ田	百間	同 四郎兵衛
一 同	西スカリ田	七十間	同 右同人

一 同	雜木立水林	二百間	羽付 善兵衛
一 同	水上	貳拾間	八右衛門
一 同	阿彌陀堂	七拾間	同 右同人
一 同	平山	貳拾間	同 右同人
一 同	入道清水	五十間	同 右同人
一 同	チゴカミ	十五間	同 右同人
○中略			
一 水林	若林	百五拾間	(馬場) 庄右衛門
一 同		五十間	同
一 同		六十間	同 右同人
○中略			
○中略	寛文四年之比		
○中略	御領所御預り之節御支配之林		
○中略			
一 小倉	水林	四百間	(上和田) 同 村
○中略			
一 三拾七ヶ所内		壹ヶ所	水林
一 三拾四ヶ所		貳ヶ所	地付林
一 三拾四ヶ所		三拾四ヶ所	御林

註一六八 【山出入申渡書】

水林大木立 三百間 漆山 五郎右衛門
 一 李之澤 貳百間 長左衛門
 同 スガリ田 百間 同 四郎兵衛
 同 西スカリ田 七十間 同 右同人
 一 五十間

○中略
 〆三拾七ヶ所内 壹ヶ所 水林
 貳ヶ所 地付林
 三拾四ヶ所 御林

（日本山林史保護林篇上卷七三四頁參照）

註一六九・一七〇 【御林集】

（本項註一六七參照）

註一七一 【樹蓄建議衆評】

（日本山林史保護林篇上卷七三五頁參照）

註一七二 【御請狀差上申事】

（同上）

註一七三 【萬手控覺帳】 ○山形縣西置賜郡添川村草川章吾氏
 袋ヶ澤水下より請狀差出し申事
 越相印置控

御請狀差出申事

一、袋ヶ澤御林年増盛木仕り水モ彌（増カ）申處、去年中地村迄御用材少々たりといへ共爲ニ御伐取ニ相成、左候上ハ、何れ御伐立相成候も難レ斗甚以敷敷罷在候處、各方御入情ヲモ水林ニ御願被ニ成下ニ候處御叶被ニ仰付、水下始餘水貫水面々モ大悅至極仕り申候、依レ之テハ無堰貫水面々迄順番山廻り致、少在たり共猥り不レ致、萬事心ヲ持へ不ニ盜伐取ニ様之防方迄御中含有レ之付、無ニ油斷ニ相廻り申内、不レ斗モ當春多分盜取甚以不届キ致方御申譯無ニ御座ニ候、兎角多人數ニテ相廻り申候得は却テ情聞薄相成申事ト被レ存申候間、此末ハ各方御目鏡ヲ以、何分可レ然様ニ爲ニ

章七 農業的林系 一 水源涵養林

註一六八 【山出入申渡書】

相守ニ可レ被レ下候、尤是迄ト違□□用へ御林於ニ我々ニ勿論諸人入込申迄氣ヲ付、決テ鹿抹成儀訴ニ寄ら□爲レ致申間敷候間、何分御許容可レ被レ下候、若又此以後不心得之者有レ之申節ハ三役之御衆中迄申出、御左駄申可レ請候間、是迄通無堰之田面へモ餘水有レ之節御懸通レ被レ下候様何分御願申上候、爲ニ後日ニ御受狀仍テ如レ件
 嘉永元 長右衛門
 六月日 ○外十六名略
 〆拾七人

三役 御衆 中様

註一七四 【御請狀之事】 ○川合圓次郎氏
 御請狀之事

一、山林御役場迄御林守中頼出之上、古木御拂ニ相成候ニ付、我々四人を以買取申處實正ニ御座候、然上ハ松・山漆ハ不レ及レ申、若立之分伐取不レ申事
 一、右之分相背申者有レ之候得ハ、何れ之越度被ニ仰付ニ候共少も御恨ミ申間舖候、爲ニ後日ニ仍多如レ件
 上萩買主
 安政六年正月

代 次 郎 ④
 同 權 七 ④
 同 左 兵 衛 ④
 八一五

小瀧村水林

御林守 中殿

同

甚

七^④

註一七五

【上玉庭村水林青木立 御林帳】

○山形縣南置賜郡 玉庭村伊藤久助氏

下玉庭村

新倉雜木立

一 水上林

五百四拾間
三百間

水林

右ハ大木ニ御座候

御林守

富山六三郎

右之通、往古より之大切成御林ニ御座候、此度確モ相糺、御帳差上申處、相違無ニ御座候、以上

御林守頭

平八郎 兵衛^④

○外二名略

肝煎

窪田六三郎^④

○外一名略

御林横目

齋藤 與右衛門^④

○外二名略

山林方

御役場

註一七六

【家政實記 卷之百四十六】

○東京市子爵松平保男氏

三月二日小沼鹽川兩組の内七ヶ村用水水林山、向後山奉行

支配ニ可ニ申付旨被ニ仰出、古來の通制札被ニ相建

水林山は、鹽川・小沼兩組の内深澤・田中・竹屋敷・

南屋敷・松崎・常世七ヶ村爲ニ用水ニ相定、蒲生家御代

ニ制札被ニ相建候ニ付、御入部後慶安三年御吟味の上、

制札ニ此新林しゆくしか入より二番目を限り上は道を

限り下は澤を限り草木一切伐間敷候若相背候者於レ有

之は曲事ニ可ニ申付一者也と相認被ニ建置候處、其後何

者ニ候哉制札盜取候ニ付、山守之松崎村久右衛門願之

上新ニ申受候山ニ候得共、又も紛失可レ有レ之と氣遣、

宿元へ差置候内、火難ニ逢致ニ燒失候故、再制札申請

候儀ニ相成ニ其儘ニ差置、數十年來相立、尤是迄何の支

配と申も無レ之候間、ベリ弛、既に盜伐致候者も有レ之、

自然用水の害ニ相成候を以、郡奉行共申出候ニ付、加

判之者とも僉議の上、向後山奉行支配ニ申付、古來之

通制札爲レ建可レ然旨致ニ言上候處、其通被ニ仰出、追

て制札の文言古來之通ニ認相ニ建之

註一七七

【陸奥國會津御料藤生村差出】

(日本山林史保護林篇上卷七三六頁參照)

註一七八

【家政實記 卷之百四十六】

(本項註一七六參照)

山林方
御役場

御林横目
齋藤 與右衛門
○外二名略

御林横目
齋藤 與右衛門
○外二名略
註一七八 【家政實記 卷之百四十六】
(本項註一七六參照)

註一七九 【家政實記 卷之百四十八】

(日本山林史保護林篇上卷七三七頁參照)

註一八〇 【福島縣林野史料會津篇】

(同上)

註一八一 【村定一札之事】

(同上)

註一八二 【村定覺帳】 ○福島縣南會津郡伊地村鈴木珍一郎氏

○前略

一、水林ノ儀、近年旱魃ニテ、上田原湯水ニ相成申候ニ付、小鹽澤入ニテ、倉前澤・袖間澤兩所谷伐リ不レ仕筈ニ堅ク相定メ申候、亦右屋敷タリ澤上瀧栃木ヨリ上岨リノ上迄、小柴ナリトモ、堅ク切申間敷候、若伐申者御座候ハ、過料右同答可ニ申付ニ候事

註一八三 【官要志】

(日本山林史保護林篇上卷七三七頁參照)

註一八四 【續日記類寄續編】 ○福島縣若松市若松圖書館

(弘化三年二月十九日)

○同日坂下村地首平之丞と申者、坂下・牛澤・青澤三ヶ組村々養水栗林堰守三十年餘無ニ懈怠ニ相勤、年々普請之節人足等寸志をもいたし、寄特成者之由ニ付、苗字令ニ用捨

章七 農業的林系 一 水源涵養林

爲御褒美ニ被下候事

註一八五 【耶麻郡大谷村吹屋村村鑑帳】

○福島縣耶麻郡
奥川村宮城三
林野史料會津
篇掲載

一、御林 三ヶ所 内一ヶ所 若林丸山

一、百姓林 二十ヶ所

一、水林 一ヶ所

一、山 二ヶ所

一、秣場 自村ニテ間ニ合申候

右之通相違無ニ御座候、以上

吹屋村

明治三年二月

肝煎 長

藏印

註一八六 【舊藩山林法則 會津藩】

(日本山林史保護林篇上卷七三七七八頁參照)

註一八七 【山林沿革史 卷二】

(同上 七三九頁參照)

註一八八 【老心得】

(同上 七四〇頁參照)

註一八九 【松平越中守様御作書】

(同上)

八一七

註一九〇

【水源涵養林ノ理由ニテ開墾ニ異議上申ノ一例】

○山梨縣南都留郡明見村大明見區(山梨縣林制史料掲載)

乍レ恐以ニ書付ニ奉ニ願上ニ候

山中村御領御林之内五十町步程新開仕度旨、内野村源五右衛門奉ニ願上ニ候ニ付、去ル辰年御見分ノ御御用先ニテ隣村私共故障有無御糺ニ有レ之候節、七ヶ村用水引入開發之儀者故障之儀申上、只運上開發之儀者故障無レ之段申上置候處、此度御糺御座候者、内野村字まんな小澤并ニ八重かんば貳筋之惡水路ヲ開發場沼堀當、雨天之節而已引入之儀ニ付、故障有レ之間舖旨被ニ仰聞ニ否可ニ申上ニ旨御糺御座候

此段私共村々即答難ニ申上ニ候ニ付、先達御日延奉ニ願上ニ場所見届候處、字まんな小澤・八重かんば貳筋惡水路ノ堀當候テモ開發場沼大砂引入儀無ニ覺束、新開ニ可ニ相成ニハ不レ奉レ存願入源五右衛門儀村方馴合ノ上右御林之内内野村地續手近場所ニ付、纔ニ御益上納仕、薪其外百姓稼場所新開又者右様含有レ之、百姓稼方ニテ木品伐探候共、何レ御林之内五十町分者木品伐探可レ申儀御座候處、私共七ヶ村用水元之儀者、右山中湖水御林尻ノ出水イタシ、右水者御林立木ノ勢氣ニテ出水イタシ候義ト奉レ存、立木伐拂萬一減水仕候テハ一統歎敷、私共村々之儀、常體水不足之場所、度々出入ニオヨヒ分水之場所ニテ減水有レ之候テハ、田畑養水差支候儀、何共安心難ニ相成、殊ニ出水之場所、立木伐拂減水イタシ候様成行候テハ難儀仕候間、右場所ニ新開被ニ仰付ニ儀者何分御免被ニ成下ニ度奉ニ願上ニ候、依レ之右之段以ニ書付ニ奉ニ申上ニ候、以上

文政六未年二月廿八日

上吉田村役人惣代	太兵衛
松山村名主	仁藏
新屋村名主	太兵衛
下吉田村役人惣代	九郎右衛門
新倉村役人惣代	清兵衛
大明見村名主	善藏
小明見村名主	平左衛門
谷村御役所	

註一九一【山本大膳五人組帳】

(日本山林史保護林篇上卷七四一頁參照)

註一九二【弘化二巳年七月晦日御請差上帳】

○山梨縣北巨摩郡篠尾村役場

弘化二巳年七月晦日御請差上帳

大瀧權現社中續小物成林地代・木價御手當金、往々御立林被ニ成下ニ候御請書并ニ取締役定御免除都多請願

甲州巨摩郡上笹尾村

大瀧大權現

別當

字瀧山

林持主百姓

一、小物成 壹反八畝步

清右衛門

此米五合四勺

奉_レ立木伐拂萬一源亦仕候_レハ、一畝敷_レ 和共木ノ儀、常體水不足之場所、度々出入ニオヨヒ分水之場所ニテ減水有_レ之候テハ、田畑養水差支候儀、何共安心難_レ相成、殊_レ出水之場所、立木伐拂減水イタシ候様成行候テハ難儀仕候間、右場所ニ新開被_レ仰付_レ儀者、何分御免被_レ成下_レ度奉_レ願上_レ候、依_レ之右之段以_レ書付_レ奉_レ申上_レ候、以上

字瀧山

一、小物成 壹反八畝步
此米五合四勺

大瀧大權現 別當
林持主百姓 清右衛門

此坪數六百六拾坪

但、松目通一尺廻分三尺廻迄小木ノ分見捨方二間より四間迄、雜木五百八十三本

地代甲金一兩、木代金二兩一分合金三兩一分

字同所

一 小物成 二反七畝廿步 林持主百姓 濱 右衛門

此米八合三勺

此坪數千八百壹坪

檜松 四拾參本、但、目通り壹尺廻より四尺五寸廻

外一面ニ小松立、長三間より五間迄

地代甲金貳兩 合金貳兩貳分

木代甲金二分

一 外小物成地拾貳筆

林持主一百姓

勝右衛門外拾貳名

以上合計 地價甲金四拾五兩壹分

木代甲金五拾五兩貳分永百九拾貳文二分

右者、當村大瀧大權現社中并同所續字權現山麓より湧出候水ハ、同村外三ヶ村香水・田方用水、流末村々迄相掛り、村々専用之水源ニ御座候者、御代官小林藤之助様御儀、當九月中當村地内爲_レ遊_レ御通行_レ候節、右社中續伐木有_レ之候ヲ被_レ爲_レ及_レ見分_レ御尋御座候_レ付、右邊者一面百姓持林ニ付、伐木ニ相成候趣奉_レ申上_レ候、都_レ水源伐木致候得者、水氣相減、流末村々難澁之基思召、右場所被_レ爲_レ遊_レ御見分、社中地續持林代金御尋_レ付、村役人并地主共一同立會

章七 農業的林系 一 水源涵養林

取調、地價木代以_レ書面_レ示申上候得者、小淵澤村名主多膳等より、右地所木坪數代金調方被_レ仰付_レ同九月廿壹日より同人罷越、役人地主共立會、前書之通、坪數木數代金一廉限り取調候處、相違無_レ之候間、御手當被_レ下候ハ、右金高ニ_レ同御請仕可_レ申候、依_レ之地主村役人一同承知印形奉_レ差上_レ候、以上

當御代官所甲刃巨摩郡上笹尾村

天保十四卯年九月

百姓 地主

清右衛門

○外十一名略

百姓代

勝右衛門

喜兵衛

長百姓

太郎兵衛

武右衛門

閑太夫

甚右衛門

歌之丞

名主

伊勢五郎

大瀧大權現

別當 瀧法院

甲府御役所

前書之通被_レ仰付_レ候_レ付、上笹尾村役人共示申上候通り、當月廿一日より日々右村村々罷越、村役人并地主共爲_レ立

八一九

會取調申候處、相違無御座候、且地續木品等御買上も可相成趣、其外被仰渡厚御仁惠之御趣意銘々爲申聞候處、難有旨一同相辨候付、代金之儀も先般上笹尾村役人より奉申上候代金附減方篤き及掛合候所、今般甲金四拾五兩壹分多地主共承服仕候段少モ相違無御座候、今般御買上相成共、場所ノ儀ハ、巨細繪圖面ヲ以テ奉申上候、依之奥印仕奉差上候、以上

小淵澤村名主

多

膳

小林藤之助様

甲府御役所

御立林取締議定書

今般、別番御請書ノ通、金五拾五兩貳分永百九拾貳文三分小物成林持主より御手當被成下、以來御立林ニ被仰付、厚御仁惠之程難有奉存候、右御立林之儀ニ付、出入ケ間敷儀は勿論、都多不取締ノ儀無之様可致旨被仰度候間、一同篤き相談ノ上取極候條左之通り

- 一、上笹尾村地元人足氏子人足ニテ芝土手築立候圍内坪數合八千七百三十二坪餘有之候、御立林之儀大瀧權現別當ニ往々取持致可申候、尤別當方ニ多御請書其外書類ニ不振様取計可申事
- 一、御立林之内生木者勿論、立枯・風折木等有之候決多不伐採立腐ニ致可申事

- 一、御檢地社中者勿論御立林之内ニ殺生致間敷事
- 一、圍芝土手ノ内へ參詣之外猥ニ立入間敷、若し心得違

ヲ以テ立入、猥敷儀有之候ハ、差押、尤御差圖請、取計可申事

- 一、御立林落葉之儀ハ、年々十一月朔日より拾五日迄別當方迄往々引取可申事

- 一、小松手入并下草之儀ハ、年々八月十日より廿五日ヲ限り前同様、別當方ニ多御立林爲ニ相成様取計可申事

- 一、水掛堰役木之儀ハ、是迄仕來ノ通り取計可申事

- 一、毎歲祭禮ノ儀ハ、先規仕來ノ通是亦取計可申事

- 一、右權現氏子惣代四人ノ内年毎名前順番ニ一人宛隔年ニ取纏メ、社中御立林共ニ無油斷ニ見廻可申候、尤當番ノ者毎年居村名主元小淵澤村多膳方迄往々相届、聊モ御書面ニ不振様見廻り致可申候事

- 一、松向村外三ヶ村役人ニ多、御立林之内猥敷儀有之、見届度候ハ、其段地元名主別當方へ相斷リ、立會ノ上見届不取締ノ儀無之様可致候事

- 一、居村當名主右多膳子孫別當儀ハ、落葉下草引取候節は勿論、平日心附不時見廻、萬一此度ノ御趣意ニ相違候者有之候ハ、其段御調御差圖請可申候事

- 一、今般御請書其外書類ノ役儀元別當ニ控、尤毎年七月十八日權現祭日ニ付、地元役人別當并權現氏子惣代立會於三神前村内之もの迄も爲讀聞、銘々供吟味致、往々不平無之様急度取計可申候事

前ヶ條之通一同立會議定取極候上、子々孫々ニ迄厚御趣意忘却不仕急度相守、聊かも違變申間敷候、依て村々名前のもの一同連印仕候、爲後念ニ仍る如件

外書類ニ不_レ振様取計可_レ申事
 一、御立林之内生木者勿論、立枯・風折木等有_レ之候決_(共脱)
 多_レ不_レ伐採_ニ立腐_ニ致可_レ申事
 一、御檢地社中者勿論御立林之内ニ多_レ殺生致間敷事
 一、圍芝土手ノ内へ參詣之外猥_ニ立入間敷、若し心得違

弘化二巳年七月

上笹尾村

名主 武右衛門
 長百姓 閑太夫

百姓代 五郎兵衛
 ○外四名略

小前惣代 織右衛門
 ○外一名略

大瀧權現別當 瀧法院教道
 氏子惣代 六郎右衛門
 ○外三名略

前書之通り一同相談ノ上往々不_レ取締無_レ之様議定取極候處
 相違無_レ御座_ニ候、依_レ之奥印候、以上

小淵澤村
 長百姓 多膳

註一九三 【安政度御觸御書付留七】 ○内閣文庫

申渡

關東筋村々御林之儀、兩丸御普請其外引續多分之御用材出
 候ニ付、右場所者勿論、其餘之御林とも御試として天保十
 一子年以來御勘定方へ手入方掛り申渡、時々見廻り苗木植
 付、御林手入方取計候儀之處、最早荒方行届候趣ニ付、向
 後手入方掛りは相止め、此度寸間相改相達候間、夫々御林
 手入方之儀者支配々々よて引請可_レ被_レ申候
 右者久世大和守殿へ伺之上申_ニ渡之

章七 農業的林系 一 水源涵養林

會於_ニ神前_ニ村内_ニ之もの迄も爲_ニ讀聞_ニ銘々供吟味致、往
 々不平無_レ之様急度取計可_レ申候事
 前ケ條之通一同立會議定取極候上、子々孫々ニ迄厚御趣意
 忘却不_レ仕急度相守、聊かも違變申間敷候、依て村々名前の
 もの一同連印仕候、爲_ニ後念_ニ仍_レ如_レ件

申渡

御林之儀者地方ニ付、銘々主役之事故、支配被_ニ仰付_ニ候
 上者一と通致見分大數等相改、取締可_ニ申付_ニ者勿論ニ
 候處、御林帳ニ不_レ引合、不_レ取締ニ相聞候間、從來之仕來
 不_レ拘、見分改方等可_レ入_レ念旨、寛政度申渡置候趣も有_レ
 之處、荒地起返等御用向多端も可_レ有_レ之候得共、御林
 之儀は、兎角等閑勝_ニ有_レ之、左候は、主役之詮も無_レ之、
 右者手入次第御用材出來候ものニ付、此後枯痛・風折等
 ニて木薄之場所へは津出遠近等勘辨之上地味相當之木品
 植付可_レ被_レ申候、勿論相應ニ延立候迄者下草刈取・枝卸
 等厚世話無_レ之候者、良材成木不_ニ相成_ニ候ニ付、麥作見
 分序又は御用透を考、見分之上、村入用不_ニ相高_ニ様厚勘
 辨を加へ、無_ニ油斷_ニ手入方いたし、成木之分御林帳へ組
 入方之儀者、時々御勘定所へ可_レ被_ニ申立_ニ候、尤御勘定方
 外御用序又別段にも爲_ニ見届_ニ、不時_ニ被_ニ差遣_ニ候儀も可_レ
 有_レ之候間可_レ被_レ得_ニ其意_ニ候
 右者久世大和守殿へ伺之上申_ニ渡之
 (采書) 〔安政五午六月十三日奉行衆被_ニ仰渡_ニ候事〕

註一九四 【水戸藩 郡奉行 高橋多一郎書狀】

(日本山林史保護林篇上卷七四三頁參照)

註一九五 【山林法案材料取調書】

(同上)

註一九六 【山林共進會報告 履歷之部】

(同上)

註一九七 【定書】

(同上 七四四頁參照)

註一九八 【猿毛御林炭燒御留メ被爲下候一卷】

(同上 七四四—五頁參照)

註一九九 【天明七年 水元山林諸御用留】 ○平田重八氏

乍レ恐以三書付一御注進奉三申上二候

一 米山川水野村々御田地用水元山林之儀、去々辰年水野村ニ御冥加永上納炭燒出之儀御願申上候ニ付及三出入ニ去春中御檢使様御下向御見分被レ遊候上、土尻村源吉・家村清藏・尾神村條助・田尻村定六罷出、訴返願下、双方異見相加熟談内濟任、其趣先達ニ委細御届ケ申上置候、然ル處先達ニ水野村中水元山林ニ入込、伐荒申候ニ付、二月十二日水野村中水元山林見届ニ罷越候處、大勢入込、伐荒候ニ付、相糺候處、庄屋喜惣治申付ニ御伐採候之旨申立候ニ付、水野村見届ニ罷越候もの共、用水之障りに相成り候間伐刈相止メ可レ申旨申聞候處、水野村作右衛門・去郎右衛門・市郎兵衛頭取ニ相見込大勢立向ひ、高畑村組頭與五右衛門・上小野村百姓文六・下小野村百姓彌五右衛門・馬正面村百姓惣右衛門を相手取、

悪口仕、谷澤に押落し打たさき、其上右五人之もの冠候等杯引こわし大勢ニなる鎌等振上げ手向に候間怪我等仕候者如何も奉レ存、漸々谷澤を遁出、右之段水野村庄屋方に相届ケ候處、庄屋喜惣治申候者此方ニ申付伐採候段申レ之、剩噺證文ニ伐り刈可レ致有レ之儀を水野村庄如何相心得、差押ニ遣候哉杯と申、却る大勢之もの取押に去不レ仕、右之儀相糺度候ハ、水野村御願申上候様ニ申罷在、日々大勢入込、伐採申候、全體喜惣治心得違之儀を小百姓迄申渡置、理不盡之致方、尤水野村大勢罷越候ハ、追散し可レ申候得共、開作時節差懸り日々大勢罷出候者農業之差支ニ罷成り、其上大勢罷越、萬一双方怪我等仕候者迷惑之御儀ニ御座候間、迎多も前書之通り水野村ニ水元山林伐荒し候者出水絶、水野村々御田地早損亡所仕候儀歴然ニ御座候、左候得者大勢之百姓相續難レ仕歎敷奉レ存候、依レ之御慈悲之御威光を以、水野村庄屋喜惣治并ニ百姓作右衛門・去郎兵衛其外惣百姓御召出、水元山林入込伐刈不レ仕候様ニ被レ仰付一被レ下置一度奉レ願上二候、以上

頸城郡

米山川水野惣代

百木村

天明七年二月

三郎 左衛門

角取村

新兵衛

高畑村

太郎 左衛門

勢入込 伐荒修之付 相糾御處 戸屋善惣治申付之御
探候之旨申立候ニ付、水下に見届ニ罷越候もの共、用
水之障りに相成り候間伐刈相止メ可申旨申聞候處、水野
村作右衛門・志郎右衛門・市郎兵衛頭取も相見込大勢立
向ひ、高畑村組頭與五右衛門・上小野村百姓文六・下小
野村百姓彌五右衛門・馬正面村百姓惣右衛門を相手取、

天明七未年二月

百木村 三郎左衛門
角取村 新兵衛
高畑村 太郎左衛門

上小野村

和左衛門

川井村

彦兵衛

馬正面村

市郎兵衛

出雲崎

御役所

註二〇〇 【矢代村丸山文書】

(日本山林史保護林篇上卷七四五頁參照)

註二〇一 【佐渡御用書 人卷】

(日本山林史保護林篇上卷七四六頁參照)

註二〇二 【定檢地所舊記拔書】

(同上)

註二〇三 【天保八年御仕法】

(同上)

註二〇四 【河合録】

(同上)

註二〇五

【弘化二年 鳳至郡時國村岩倉寺沼申渡之覺】

○編者

章七 農業的林系 一 水源涵養林

鳳至郡時國村岩倉寺沼申渡之覺

岩倉寺儀は、白雉年中より同村ニ罷在、拜領地も申御印物
は所持不致候得共、年古き寺よて、所持之山も有之旨申
立、同村百姓故藤左衛門ニ有は、元和元年村より時國村
之百姓ニ相成、御私領時國村は、藤左衛門之持地ニ其
領ニ罷在候、岩倉寺之事ニ候得は、同寺沼地面を貸置候
ニ相違無之、暨同寺拜領山杯も申は無之旨申、双方相
争候ニ付、文政七年御郡奉行千羽故彦太夫等、右論所遂ニ
見分ニ候上、右論所山は領附宮林之振ニ相心得可申、岩倉
寺居屋敷之儀は、領附社堂同振ニ相心得候様、御算用場
より落着申渡、併其節同寺居屋敷歩數打立候ニ有も無
之、寺之地子米誰より可指出ニ申儀も不申渡ニ處、右
藤左衛門伴藤四郎代ニ相成、寺之地子米三斗六升相立候
旨申出、天保十三年ニ至り、又候右地元之儀及ニ争論ニ候
ニ付、去々年於ニ公事場ニ吟味之上、改作奉行并寺社方役
人・公事場附役人、時國村沼出役いたし、右地元遂ニ見分、
岩倉寺境内も相見込候場所歩數爲ニ打立候所、五百八拾
四歩八分六厘有之候ニ付、公事場全議之趣、年寄衆ニ相
達候處、岩倉寺居屋敷五百八拾四歩餘は、今般改る未進
地ニ被ニ仰付ニ候旨、被ニ申渡ニ候條、其通相心得可申、尤
右論所山は、水持林ニ有、領附宮林之振ニ候條、損木等
伐木いたし度儀有之候ハ、村方申談、双方より才許十
村沼相斷、指圖可請候、右水持林下刈之儀は、岩倉寺薪
用迄令ニ用捨ニ置候條、其通可ニ相心得候

但、水持林も申は、用水同様之譯ニ候得は、双方争候

譯るは無し之、追る改作奉行時國村に出役いたし、是より是は水持林を見極、尤岩倉寺居屋舖共分間繪圖面申付候筈候條、右繪圖面出來之上は、岩倉寺并村方は公事場より可相渡候條、相渡候ハ、繪圖通可相心得候

一、岩倉寺境内續有之比古神社は、同寺之持分も申立、鳳至郡粟藏村神主瀬野大和守ニ有は同人之持分も申立、双方相争候ニ付、右一件於公事場遂ニ吟味候處、神主よては前々右比古神社・白山姫大明神兩社之神主も相斷、吉田表江之添翰申請、官位昇進いたし來候得は、右社は大和守之持分ニ相違無之申聞、岩倉先住故眞旭申分證據無之ニ付、難ニ取揚ニ申渡置候條、右比古神社ハ、神主大和守之持分も相心得、向後岩倉寺持分之比古神社も相心得申聞敷候、且又是迄右比古神社之往來觀音堂も庫裏も之間を通候由ニ候得共、向後右往來指留候條、右社に通ニ候石壇取拂、先年石壇附有之所に附替可申旨、大和守に申渡候條、岩倉寺ニおゐても其心得可致候

但、比古神社參詣道は、觀音堂に向左之方罷越候條大和守に申渡候、且又右比古神社と前々より岩倉寺之鎮守も相心得罷在候處、今般大和守之持分も相極り、岩倉寺之鎮守無之事ニ相成、寺務之懸念も相成候條ニ候ハ、同寺居屋敷五百八拾四步餘之内ニ改る鎮守相建候儀を可爲其分候、併鎮守相建候共吉田家に通申儀ニ有無之候、將又右比古神社に先年釋迦・藥師・觀音を納有之所、右佛體と岩倉寺に納置候も傳承

有之旨、同寺先住故眞旭儀於公事場申聞、左候得と神主手前ニおゐて右佛體崇申譯と有之間敷候條、右三體共岩倉寺に相渡候條神主瀬野大和守に申渡候間可相請取候

右比古神社祭禮之節、神主方魚肉を備不申るを神祭之法式ニ相成不申ニ付、前々之魚肉を携、岩倉寺境内罷通、比古神社に罷越候旨申立候處、岩倉寺ニおゐて前々魚肉を携、同寺境内罷通候儀と無之、此後魚肉携、境内罷通候も潔齋之地及迷惑候旨申聞、同寺申分難ニ黙止、元來岩倉寺儀と數百年來之舊地、右神社も式内之儀ニ候得と、是又古キ社申もの、然處往古岩倉寺境内魚肉携、通行いぬし候と有之間敷、左候得往古と脇ニ道ニ有之通行いぬし候哉と遂ニ全議候處、岩倉寺境内不罷通、右神社に可參古道形も無之、又新タニ脇道を付ケ申所も無之旨改作奉行申聞候、然上往古と岩倉寺外ニ神主方之遙拜所有之其所に魚肉を備、神祭之式執行候儀相違無之相聞候ニ付、神主に遙拜所再建いぬし候様申渡候條、右遙拜所相建候場所之儀と、近々尺改作奉行出役いぬし水持林見極候上、右林之内ニ有四方之地面相極申る可有之、尤遙拜所中絶いぬし居候を、今般再建之譯ニ候得と、時國村ニおゐて舊年有之小堂ニ有地子米之不及沙汰御高之出入ニ不拘儀ニ候條、時國村之者共此旨相心得候様申渡候條、岩倉寺ニおゐても其通可相心得候、岩倉寺庫裏之横ニ有之新開畠、去々年改作奉行等遂見分步數爲打立候處、

倉寺之鎮守無之事ニ相成、寺務之懸念ニも相成候儀ニ候ハ、同寺居屋敷五百八拾四步餘之内ニ改修鎮守相建候儀を可レ爲其分ニ候、併鎮守相建候共吉田家ニ通申儀ニ有之候、將又右比古神社ニ先年ノ釋迦・藥師・觀音を納有之所、右佛體を岩倉寺ニ納置候も傳承

候を、今般再建之譯ニ候得、時國村ニおゐてを舊年ノ有之小堂ニ有地子米之不及ニ沙汰ニ御高之出入ニ不レ拘儀ニ候條、時國村之者共此旨相心得候様申渡候條、岩倉寺ニおゐても其通可ニ相心得候、岩倉寺庫裏之横ニ有之新開畠、去々年改作奉行等遂ニ見分ニ步數爲ニ打立ニ候處、

高畦并道を除貳百八拾四步貳分有之候、然所右畠地元藤四郎方ニ引揚候と、岩倉寺野榮作り候地面無之可レ致ニ難儀ニ候條、是迄之通請地ニいふし可レ申、尤請おろし之書キ物爲ニ取替、地子米立方之儀を相對之儀ニ候得共、時國村役人示合可レ申、此段村役人にも申渡候

一、岩倉寺ニ登り候往來ニ仁王門有之候、尤此門建下ニ地子米相立候筈を無之儀も村方ニ申渡候條、左様可ニ相心得候

右之趣共於ニ公事場ニ吟味之上、委曲年寄衆ニ相達候所、如此可ニ申渡旨申聞候條、各添書を以岩倉寺ニ御申渡請書御申付可有ニ御指越候、以上

弘化二年三月十三日

伊藤主馬印
奥野主馬佐印
前田兵部印

篠原織部殿
織田左近殿
品川左門殿

右之通申達置候條、此繪圖面岩倉寺ニ可有ニ御渡候、以上

公事場

一、地元見届候節立合候人々左之通

改作方御用 稻葉助五郎
改作奉行 河合清左衛門

寺社方役人

三田村 佐七郎

公事場役人

坂井權五郎

鳳至郡御扶持人

十村

狩野恒方

右同斷

伊藤八郎

同郡平十村

鈴屋村

茂八郎

同郡新田才許

中居村

作太郎

測量方御用

新田才許列

平七

以上

註二〇六 【社寺領高并未進高之儀ニ付詮議一件】

(日本山林史保護林篇上卷七四六—七頁參照)

註二〇七 【慶應四年小紙留】

○岡部恒氏

礪波郡福町村六郎：谷屋吉右衛門・河北郡淺野谷村七兵衛儀、羽咋郡寶達山字北谷等一山之内所々ニ有田形新開四百三拾三石五斗程、畑新開拾壹萬五千五百步程開發仕

度段御願申上候ニ付、右新開願之地元私共立會遂見分、隣村指構之筋等無之哉委曲詮義之趣御達可申上旨、前願書付ニ御付札を以被ニ仰渡ニ之趣奉レ得共、依る私共之内罷出見分詮義可仕儀ニ御座候得共、右ヶ所之儀、前々新開願ニ付指構之筋申立居候場所柄ニ付、地元分明、領付村々一往詮議仕、其模様ニ寄、出役地元見分可仕旨、先達彌五郎より申上、御聞届ニ付、今度右山入會村々相詰所ニ呼出、私共立會詮議仕候所、山下村々御田地養水之源ニる寶曆年中洪水之節山崩出、谷ニ石砂馳込、谷淺ク相成、其後之洪水ニも山崩等仕、連々出水乏敷御座候故、僅之日照ニも早損仕、御難題之筋不レ少、別々入會村々等稼出之品を以、渡世罷在候人々夥敷、且右稼出之代錢を以、諸御役錢等相勤居申旨申聞、右之仕合故、正徳年中之頃より度々新開願立有レ之候得共、指支之趣申立、御聞届無ニ御座、尤弘化二年嘉永四年ニも新開願立之節、同様指支申立、御聞届無ニ御座候、依る今度吉右衛門等新開願も御聞届無ニ御座ニ様仕度段等、別番口書之通押立願聞申儀も御座候

一、拾貳ヶ村入會之内、麥生村之儀、寶達山之外持山等も有レ之、稼方ニ罷越不レ申も深指支ハ無ニ御座、且用水之儀、末森村續谷より流出申ニ付、右寶達山ニる新開被ニ仰付候も敢る指支之儀無レ之段、是又口書之通申聞候

一、寶達山續九ヶ八ヶ入會村々之儀も、宇賀河川懸リニ罷在、山稼も仕候村柄ニ付、指支之有無詮議仕候所、拾貳ヶ村役人同様、用水等指支申旨、是又押立申聞候

一、寶達村役人等手前詮議仕候所、同村小前之人々山稼も仕候ニ付、全ク指支不レ申儀ニるハ無レ之候得共、同村之儀皆知所ニる、御田地無ニ御座ニ村柄故、弘化二年四月、右村より新開願出候得共、其節も入會村々指構申立御聞届無ニ御座ニ儀ニる、餘人願立候迎今更指構申立候了簡無レ之等別番口書之通申聞候

右之通何れも申聞、是迄新開ニ發方願出前條之通指構申儀相違無ニ御座、且第一用水指支并石砂流出、御田地ニ指障候儀、暨諸稼ニ指支候儀も相違も無ニ御座候、依る寶達村等拾貳ヶ村入合郡總名寶達山ニる田形新開發致度旨願出候向々も有レ之候得共、右場所は御詮議之趣有レ之、先ツ御詮議中御聞届難レ被ニ仰付ニ候條、願之向々ニ可ニ申渡旨、嘉永四年三月御紙面ヲ以被ニ仰渡、嘉永度御趣意新開之節も右様御聞届無レ之場所柄ニも御座候間、今度福町村吉右衛門等新開願之儀、寶達山下村々用水指支之趣等願立之趣有レ之、無レ據儀ニ付御聞届難レ被レ成段、御付札ヲ以御指返被レ下候様仕度奉ニ願上ニ候、依る取立候口書之通、御渡之吉左衛門等新開前願御付札物共、小紙相添御達申上候、以上

辰十一月 白田彌五郎 櫻井新左衛門
 北川尻村 孫 平 荻谷村
 菅原村 行 長 羽咋村
 高田村 山五郎 高島村
 又 八郎 小一郎

儀、末森村續谷より流出申之付、右寶達山なる新開被_レ仰付候事も敢_レ指支之儀無_レ之段、是又口書之通申聞候
一、寶達山續九ヶ八ヶ入會村々之儀も、字粂河川懸りニ罷在、山稼も仕候村柄ニ付、指支之有無詮議仕候所、拾貳ヶ村役人同様、用水等指支申旨、是又抑立申聞候

御改作所
十二月十日櫻井氏方より到來、十二日羽昨へ送ル

註二〇八 【明治三年御用留】 ○中川秀一氏

三州御林山之内、水持、雪持并風除之向ハ相省、其餘入札拂被_レ仰渡候儀御觸_レ付、出水場等相省キ相願候御林書上方相伺候處、御田地方ニ附候水持林等ハ、租税局_レ御達可_レ申、獵業等之ため立置相願候御林入札御省キ之ヶ所ハ、郡治局_レ御達方可_レ仕旨、今日租税局より被_レ仰候ニ付、爲_レ御承知ニ申進候間、否至急御達可_レ被_レ成候、此狀納より御返被_レ成度候、以上
午三月廿四日 石崎市右衛門

諸郡 御扶持人衆中
追々租税局御達之分、私共溜_レ御指出可_レ有_レ之候、以上

註二〇九 【御山方御法】

(日本山林史保護林篇上卷七四八頁參照)
(同 上七九〇頁註九ノ書名ハ十二、註十ノ書名ハ註九ナリ)

註二一〇 【大蟲大明神山割覺書の寫】

○福井縣丹生郡大蟲村岡野吉堅氏
大蟲大明神山わけの事
慶長年中、秀吉公御檢地之砌、鬼ヶ嶽を離れ西後之山を

北川尻村 孫 平 荻谷村 平右衛門
菅原村 行 長 羽昨村 又 八郎
高田村 山五郎 高畠村 小一郎

奥山と唱へ、其山之峰境安養寺村山境ニる壹百廿五人之社家を始め、氏子不_レ殘勝手儘ニ立入候山ニ付、立木無_レ御坐候儀ニ付、御檢地御奉行長谷川以眞様へ御見除被_レ下度旨、氏子四ヶ村より願出候所、左候ハ、村々家高ニ應_レ山手米相付可_レ申旨被_レ仰聞_レ御受申上候得共、山々ハ御竿入ニ無_レ御坐、仕來り之通四ヶ村氏子一同入會勝手ニ対伐仕候、立木等ハ生立不_レ申、柴草惣山割同様ニ有_レ之候所、谷々流水乏敷、御田地用水不足ニ付、村々相談し候ハ、立木生立無_レ之故雨露之潤ひを受け候儀も無_レ之、且地中之水氣を吸ひ上げ候も成り兼候、流水出兼候、用水ニ差支難澁ニ付、寛永十九年、村々山割符致し、第一山割を村々相定、其餘ハ家高ニ應_レし持山相定め、薪等ハ成丈ヶ山割ニる刈取、持山之分ハ以來立木生立候様致シ、御田地用水ニ指支無_レ之様ニ可_レ仕と、一同御神前へ寄り參り、神_レを捧げ神前御聞_レて譯け割り申候、尤も神主吉正祭主たり
尤御社山氏子立入候山ニ付、今般分け割り候迎も、御地頭府中_レへ御達不_レ申、大宮司并四ヶ村一同氏子相談ニる年限リニ割符致し候也

寫合の覺 谷の割

- 一 六口 宮之山の境よりいか谷之口尾境
- 一 六口 とう山入口稻場より荒谷大谷之向之いきれとまで境

- 一 六口 大谷向よりてうしの水わけまで境
- 一 六口 荒谷てうしより南水こばの上道境

奥之割

- 一 六口 南水谷東の又より坂ノ細谷水わけ境
- 一 六口 むまと一ト口そへて岩谷東の俣よりあかおとし迄境

- 一 六口 奥のかつら谷より西の又のけて、なまふ境

北之山之割

- 一 三口 古坂ノ尾よりさゝとう谷の西ノひら迄境
- 一 三口 さゝとう谷向より石小坂平迄境

- 一 三口 石小坂水わけより北水谷のねまり谷迄境

- 一 三口 北水谷のねまり谷東の平よりがらゝのけて

關取割

- 一 六口 むいか谷之わけ一番關
- 一 六口 西俣桂谷より、なまふ迄六口
- 一 六口 北西石小坂よりさゝとう谷のかけ迄三口

- 一 なゝしとう山より荒谷大谷の向口なゝし迄六口
- 一 はなか谷より水谷迄六口 栗ノ木坂古坂谷の口より笹とう谷の西平迄三口

あら谷のわり三番關

- 一 大谷口なしの谷よりてうし水わけ迄六口 北屋きさ
- 一 は細谷より岩谷の西平迄六口 北水谷三口

瀧の谷のわり四番關

- 一 てうし水わけより南水谷 東平こばの 六口 岩谷中尾 をくまで
- 一 東平よりかつら谷尾境 日向なまぶより 六口 北水谷 坂の細谷まで
- 一 東平よりからゝ藥種平の尾迄三口
- 一 右之通り先以て檢分之上割符致し置候多御神前ニ於て關引致し候處左之通り當り

- 一番 灰の谷之割當り上大蟲村
- 二番 なゝしの割當り下大蟲村
- 三番 荒谷の割當り四目村
- 四番 瀧之谷の割當り高義村

右之山々四ヶ村之年寄・小百姓立合、明鑑ニ□しとり仕り、互ニ證文取かわせ致し申候上は、少も申分無御坐候、爲後日一山割證文仍多如件

寛永拾九年午卯月十九日

むいか谷之わけ一番園

- 一 むいか谷よりいか谷迄六口 西俣桂谷より、なまふ迄六口 北西石小坂よりさゝとう谷のかけ迄三口

右之山々四ヶ村之年寄・小百姓立合、明鑑ニ□しとり仕り、五ニ證文取かわせ致し申候上は、少も申分無御坐候、爲後日ニ山割證文仍多如件
寛永拾九年午卯月十九日

上大蟲村 下大蟲村 四目村 高森村

- 奥右衛門 又兵衛 太郎五郎 十五郎
- 新右衛門 三右衛門 助右衛門 五兵衛
- 市右衛門 傳右衛門 太右衛門 茂兵衛
- 理右衛門 久左衛門 新右衛門 仁左衛門
- 彌兵衛

山割申四ヶ村証文之事

一 上大蟲・下大蟲・四目・高森、此村百姓衆立合、相談を以明鑑ニ割合申上は、少も申分無御坐候事

一 山悉あせはて用水出不申、御田地荒申ニ付て如斯山割申候御事

一 於此山一は子々孫々ニ至る迄少も存分申間敷候、自然何角申者御坐候ハ、連判之者御公儀様へ申上、急度右之通りニ不ニ相變ニ可ニ仰付候御事

一 山盗人御坐候ハ、見付次第ニ爲過錢米ト一納□壹俵ツ、御取可被成候、若盗人米遅く仕り候は、其村之庄屋辨相立可申候御事

一 山盗人見付隠申候ハ、其者同類ニ被成過錢米壹俵□御取可被成候御事

一 けすり草ハはき次第ニ仕、其上くろかりハ田より鎌とよきハかり可申候、用木ハ田地日かけニなし申所ハ用木立申間敷候御事

一 伐畑焼畑木の根こぎ申事致申間敷候御事
右四ヶ村之御高ニ隨て割分申上ハ、少も申分無御坐候、爲後日之ニ以連判ニ相究申候所實正也、仍如件

寛永拾九年

午卯年

- 上大蟲村 下大蟲村 四目村 高森村
- 奥右衛門 又兵衛 太郎五郎 十五郎
- 新右衛門 三右衛門 助右衛門 五兵衛
- 市右衛門 傳右衛門 太右衛門 茂兵衛
- 理右衛門 久左衛門 新右衛門 仁左衛門
- 彌兵衛

註二二一 【大蟲村新開地書類】

○福井縣丹生郡朝日村 内藤庄左衛門氏

間部下總守様御領分丹生郡上大蟲村ニおゐて新開并新畑田成いぬし候ニ付、當御領内同郡上四目・下四目・高森三ヶ村用水不足ニ相成難澁申立、御掛合之上御立會御見分之上諸方相成候規定書等一件寫

明治貳年巳四月

内藤庄左衛門控

乍レ恐以書付ニ奉願上候

私共三ヶ村御田地用水之儀者、三ヶ村持山并間部下總守様御領分隣村上下兩大蟲村ハ五ヶ村山谷ハ之出水ヲ以、右上大蟲村地内ニ多堰立仕候字宮井用水ヲ以テ往古ハ相養來候處、右村役人共如何相心得候哉、近來江上ニ多山裾伐開開田仕候ニ付、纒之日照ニも私共用水不足仕難澁おとび候間、新規開田之儀ハ差止り吳候様只願及ニ掛合候處、彼是申立ニ駭指止り候とも相見忍不申内又々追

々此節大造之開田仕、日々人差出田場伐開キ、其上字大久保・字合津・字竹安其外處々當春以來猶又新規大造之畑田成仕路ニハ宮井用水ノ引受候姿ニ相見込候ニ付、難ニ捨置ニ水下旱損之憂無シ之様數度懸合および候處、堀抜キ或ハ溜池等ヲ以相養可申積杯、當時之申拔ケ而已申立居、往々ハ宮井用水ヲ以相養可申工慮と相見込、數十反分之畑田成場所堀抜溜池等ヲ以相養可申場所トハ一向見受不申候得共、右村方トハ隣地トハ乍申萬端ニ付一村同様之儀ニ付、成丈ケ自愛ヲ以實誠右ニ相養、後年ニ至リ三ヶ村用水一滴も引入不申様慥ケ成治定仕候哉、又ハ宮井堰之上方堰所之分ハ何ヶ所ニ有るも漏水之節三ヶ村ハ實意ヲ以切落シ水下シ旱損不及安心仕候様取締等致吳候哉、愚昧之私共見通シ之安心出來候様精々懸合候得共、新開并畑田成共更ニ相止メ不申、只々附延し置、三ヶ村安心仕候様取計ハ聊も致吳不申ニ付、無據奉願上候、右様江上ニ有る新規開田畑田成仕候ハ、往古ハ相養來候私共御田地相續方ニ拘リ、水下差支難澁之儀ヲ不指構ニおゐてハ最早下方掛合方も無御座、次第ニ耕作仕時節ニ差向、右體新規事被企候者前顯奉申上候通少シ之日照ニも私共用水不足仕、古來之御田地一時亡所可相成ハ眼前之見詰メニ御座候間、新開并新規畑田成之儀ハ急速御差留メ被成下置候様何卒御慈悲ヲ以鯖江御役所ニ御文通被下置候様奉願上候、尤御双方様格別御時勢柄御掛合之儀奉恐入候得共、百姓第一之咽首ヲ差被塞候様成行候ハ露命ニ拘り候程之儀ニ

付、此上者暫時も難ニ捨置ニ付奉願上候、右願之通早速御掛合被成下置候ハ、難有仕合奉存候、以上

八三〇

高森村

惣代 彦右衛門印

長百姓 嘉平印

庄屋 久五郎印

上四目村

惣代 吉兵衛印

長百姓 仁左衛門印

庄屋 彌次兵衛印

下四目村

惣代 清右衛門印

長百姓 金右衛門印

庄屋 新六印

民事方

御役所

去月廿二日附之御剪紙致拜見候、如仰暖相成候之處、愈御堅固被成御勤珍重奉存候、然者當御領分上下大蟲村近來山裾等切開キ多分の開田致候ニ付、其御領分上下四目村高森村組合用水、右開田所自然可引入様子相見、難澁之趣ヲ以願出候寫壹綴御廻達、委細右ニ承知、宜取計旨御紙面之趣致承知候、兩大蟲村之儀、近來開田願等差出候儀無之候得共、若々内分ニ有開田等致し候儀も可有之早速兩村役人共呼出し取札、開田等

時亡所可相成ハ眼前之見詰メニ御座候間、新開并新規畑田成之儀ハ急速御差留メ被ニ成下置ニ候様何卒御慈悲ヲ以鯖江御役所ニ御文通被ニ下置ニ候様奉ニ願上ニ候、尤御双方様格別御時勢柄御掛合之儀奉ニ恐入ニ候得共、百姓第一之咽首ヲ差被ニ塞候様成行候多ハ露命ニ拘り候程之儀ニ

目論見候儀も有レ之候ハ、隣村故障之有無篤も取糺、役場開濟之上取掛り可レ申答ニ御座候間、若無沙汰取懸り候次第ニも候ハ、急度差止り候様可ニ申渡ニ候間此段御承知、高森村外貳ヶ村ニ宜被ニ仰渡ニ被ニ下候様致シ度奉レ存候、右御報可レ得ニ御意ニ如ク斯御座候、以上

(明治二年) 四月朔日

芳野傳兵衛

三井直作

小磯波治

青柳 棟

西脇良輔様

乍レ恐以ニ書付ニ奉ニ願上ニ候

間部下總守様御領分隣村、上大蟲村人共江上ニ有私共用水ニ落込候谷水ヲ喰留、新規開田新畑田成仕候ニ付、濁水之節用水不足仕及ニ難澁ニ候間、急速御差止メ被ニ下候様先般奉ニ願上ニ候處、乍レ恐如何御掛合被ニ成下ニ候哉、先方ニ有ハ一向指止り候姿無ニ御座ニ彌増日々田場ニ者人數差出、糶時付等仕、田毎ニ畦等ヲ拵ヘ居、追付植付も可レ仕手段ニ相見ニ、左様之儀等閑ニ被ニ成下置ニ候多ハ終ニ者古田荒所起返し候杯と取紛し候工慮之程も難レ計ニ付、此間も急々再願仕度罷出候處、御先方様御沙汰無ニ御座ニ付指控候様被ニ仰聞ニ候之處、其後私共御呼出之上被ニ仰聞ニ候ハ御先方様ニおゐて村役人御取糺ハ無レ之趣ニ候得共、開田等目論見候儀も有レ之候ハ、隣村故障之有無得と御取糺之上御役場御開濟

章七 農業的林系 一 水源兩養林

分上下四目村高森村組合用水、右開田所ニ自然可ニ引入ニ様子相見、難澁之趣ヲ以願出候寫壹綴御廻達、委細右ニ有承知、宜ニ取計ニ旨御紙面之趣致ニ承知ニ候、兩大蟲村之儀、近來開田願等差出候儀無レ之候得共、若々内分ニ有開田等致し候儀も可レ有レ之早速兩村役人共呼出し取糺、開田等

之上取懸り可レ申答、若無沙汰ニ取懸り候次第も有レ之候ハ、急度御差留可レ被ニ仰付ニ御返報之趣被ニ仰渡、御先方様ニ被ニ爲置候多誠ニ御嚴重御取締被ニ成下ニ候儀と三ヶ村役人共一同恐入難レ有仕合奉レ存罷在候、然ル處如何之御儀ニ御座候哉前顯奉ニ中上ニ候通、田場ニ者未夕日々人數差出、植付等之支度仕居候ニ付、斯體ニ有ハ迎込差止り候様子無ニ御座、彌私共用水不足仕候ハ眼前ニ有御田地相續方ニ相拘り可レ申答小前共一同人氣立迎込落付不レ申候間無レ據奉ニ再願ニ候、御用繁中奉ニ恐入ニ候得共何卒御慈悲ヲ以此上者新開場并新畑田成場所御双方様御立會被ニ成下ニ御見分之上急速御嚴重御差留被ニ成下置ニ候様奉ニ願上ニ候、此上御差留も無ニ御座ニ有るハ村人共彌增人氣立何様之異論出來可レ申哉も難レ計御座候間、右願之通早速御掛合之上場所御立會御見分被ニ成下置ニ候様偏ニ奉ニ願上ニ候、以上

下四目村

惣代 清右衛門印

長百姓 金右衛門印

庄屋 新六印

上四目村

惣代 吉兵衛印

長百姓 仁左衛門印

庄屋 彌次兵衛印

高森村

惣代 彦右衛門印

長百姓 嘉平印

八三一

民事方 御役所

奉差上規定證文之事

一 松平和泉守様御領分丹生郡上下兩四目村・高森村御田地用水之儀者、右三ヶ村持山并間部下總守様御領分同郡上下兩大蟲村持山都合五ヶ村山奥谷より出水ヲ以、上大蟲村地内より川上用水七ヶ所堰立川下字宮井用水ヲ以、往古より相養來候處、上大蟲村人共近來開田いゝ候付、纔之早も右三ヶ村用水不足いゝ難澁之旨申立上大蟲村よりハ字宮井用水ニ差障り候場所より開田等不致天水利池等ヲ以相養候付、開田之爲下村々用水不足致候次第ハ無之旨申立、双方村役人共及ニ應答候得共、相寄り兼候ニ付、下三ヶ村御訴訟申上候ニ付、御懸合之上御双方様御立會相成場所悉御見分之上種々御談判ニ、訴答村役人共被召出御立合ニ被仰渡候御規定左之通り

一 上大蟲村此度目論見候字大久保畑田成之儀ハ、堀抜水ヲ以相養可申旨申立候ニ付、新江筋字宮ノ後堀抜江筋之内字宮井用水同水いゝ候場所、大蟲村仁右衛門前田主長太夫田面ハ江底高サ九寸五分幅壹尺五寸長拾三間貳尺江底高いゝ候し、宮井用水と同水不致様急度取極メ被仰付候事

但八兵衛持地本田ノ十右衛門畑田成場所宮井用水ニ被引入不申定之事

一 右村字合津地主市兵衛畑田成壹枚元形ニ埋潰シ、以來畑田成致間鋪事

一 右村字竹安畑田成之儀、堀井戸或ハ天水ヲ以いゝ候義ハ格別、宮井用水一滴も引入不申三ヶ村疑念無之様、道裏宮井江筋添南之方長三拾四間半長太夫仁右衛門持主北之方長右同斷、八兵衛久四郎半右衛門持主右間敷之間高畦田主共築之宮井用水一滴も引入不申漏水等不致様本田懸り之もの共江浚致し、本田相養可申定之事

一 右村字拾四繩邊畑田成場所之儀者、信廣用水ヲ以相養、宮井用水一滴も引入不申定ニ付、萬一右用水引入候様紛敷取計候節、三ヶ村申立候通ニ大蟲村ニおゐて畑田成取拂可申事

一 上大蟲村川上左右山手ニおゐて年來新開并畑田成等之内皆出來相成候分ハ其儘ニ指置、此節取懸り候内字猫ヶ額口之内ニ吉兵衛持主壹ヶ所字片が道南之内ニ嘉左衛門持主壹ヶ所右貳ヶ所相止メ可申候、以來本田用水ニ差障り候様之場所決る致間敷、若指支無之場所と見込候共川上ニ新開田目論見候節、双方實談之上故障之有無得と相糺候上開發可致旨被仰付候事

右之通御立會之上御規定被仰付候儀相違無御座候、双方共難有仕合奉存候、右ヶ條之通、急度相守、以來双方異論之間敷儀致間敷候、爲後日之御規定書一札連印を以奉差上候處依テ如件

間部下總守様御領分
上大蟲村

前田主長太夫田面江底高サ九寸五分幅壹尺五寸長拾三間貳尺江底高こいふし、宮井用水と同水不致様急度取極メ被仰付候事
但八兵衛持地本田ノ十右衛門畑田成場所迄宮井用水ノテ添引入不申定之事

天王御出役
郡御奉行
西脇良輔様
御代官
谷崎孫次郎様
同斷
武藤萬壽藏様
御同心 田口十一郎
内藤庄左衛門
上大蟲村
御宿 谷口彌左衛門
御宿 三好祖平
若黨 寺田 簾次

明治貳己巳年四月

松平和泉守様御領分

惣代 八兵衛 門印	惣代 吉兵衛 門印	惣代 清右衛門 門印	惣代 彦右衛門 門印	惣代 嘉平 門印	惣代 久五郎 門印
長百姓 惣兵衛 門印	長百姓 仁左衛門 門印	長百姓 金右衛門 門印	長百姓 嘉平 門印	長百姓 嘉平 門印	長百姓 久五郎 門印
同斷 辻右衛門 門印	同斷 重右衛門 門印	同斷 嘉左衛門 門印	同斷 嘉平 門印	同斷 嘉平 門印	同斷 久五郎 門印
庄屋 同斷 門印	庄屋 同斷 門印	庄屋 同斷 門印	庄屋 同斷 門印	庄屋 同斷 門印	庄屋 同斷 門印
上四目村	下四目村	高森村	惣代 彦右衛門 門印	惣代 嘉平 門印	惣代 久五郎 門印

松平和泉守様御領分

西脇良輔様
谷崎孫次郎様
武藤萬壽藏様
間部下總守様御領分
小磯波治様
堀勘七様

章七 農業的林系 一 水源涵養林

右者四月十四日晝九ツ時頃三好祖平宅迄天王御出役様御着、同日八ツ半時頃御双方様御立會、上大蟲村奥新開場所御見分、夫ノ字宮ノ後掘抜場ノ字大久保字合津字竹安等御見分相成候處、薄暮ニ相成候ニ付御引取相成申候一 同十五日朝五ツ半過頃鯖江小磯様并堀勘七様等三好宅迄御出被成種々御談判御座候趣ニ有、規定書之儀ハ大庄屋千秋鶴兵衛内藤庄左衛門、兩人ニ有相認メ候様被仰

八三三

付候ニ付、則兩人申談之上種々御双方様御窺、規定書出來上り候ニ付、同廿二日猶又御双方様ニ三好宅御打寄之上、御役所御立被成双方様御讀聞之上調印御取可被成之處、數日御出張も相成御双方様共格別御用向も出來候由なる、内藤庄左衛門・千秋鶴兵衛兩人立合る訴答を爲讀聞候上調印可爲致旨被仰渡候ニ付、則庄左衛門爲讀聞調印相濟訴答共引分申候

一 右相濟候付天王鯖江御役人様御銘々御宿早々御引取相成候事

内藤庄左衛門 控

註二二二 【公事吟味之心得】

(日本山林史保護林篇上卷七四九—五〇頁參照)

註二二三 【赤城山論御見分諸夏留帳】

○前橋市 赤城興業組合

一札之事

一 赤城山南表圍立木出入一件ニ付、於御奉行所炭役上納之村方御糺之上、御奉行所様御呼出ニ相成、訴訟方同意之趣にて拾七ヶ村引合ニ相成、是迄御吟味奉請候處、今般右地所御改御見分御出役様御出候所、横澤兩村之儀御申立落ニ相成、此度私共相願訴訟方同意之趣御吟味奉請度申來り候ニ付、前段御出役様御窺申上候處、御聞濟之上、都合拾九ヶ村相成申候、然ル所圍立木境之儀、字小俣東西大穴入迄境にて御用水立木と相心得候間、

勿論私共よりも巨細申上、御吟味可奉請候得共、引合にて後より罷出候得共、初發之儀辨無之候間、右同意圍立木ニ相違無之旨御申立被下候様相願候、爲後證一札仍て如件

松平大和守領分

上羽勢多郡上増田村

引合十九ヶ村惣代年寄

文化十四五年 十月五日

利左衛門

同領分

同郡富田村

佐五兵衛

女淵村

惣 太 夫殿

三十ヶ村惣代 惣 板橋村

新 兵 衛殿

註二二四 【議定書之事】

○前橋市原田龍雄氏

議定書之事

一、當國赤城山南表之儀は、往古谷水潤行之村々、田方爲用水大切成御圍立木之地ニ御座候處、中奥度三夜澤社人御朱印地林續申、外澤谷峰横領致候ニ付、組村百三拾餘ヶ相談之上御公訴奉願上、則御裁許繪圖面頂戴仕、現在野付三ヶ村ニ年番預り申候事

一、其後勢多郡實村澤孫兵衛、南表山守累年被仰付罷在候處、字梨木澤ニおゐて御運上炭焼出し、伐木いたし候

付、自然出水不足ニ相成、里村々難澁ニ及、去明和度

砌諸入用之儀を伐木人ノ村方無違變差出可申候事

同前、今般右地所御改御見分御出役様御出候所、横澤兩村之儀御申立落ニ相成、此度私共相願訴訟方同意之趣御吟味奉レ請度申來り候ニ付、前段御出役様御申上候處、御聞濟之上、都合拾九ヶ村相成申候、然ル所圍立木境之儀、字小俣東西大穴入迄境ニテ御用水立木と相心得候間、

ニ付、自然出水不足ニ相成、里村々難澁ニ及、去明和度訴訟奉ニ申上候處、炭焼出シ候義者御差留被ニ成下、夫々市ノ關村東野付拾ヶ村山守被ニ仰付、御運上炭百俵者願村々代永御上納被ニ仰付、至今ニ相納、南溪ハ如三元之御圍地ニ相成居候事

一、文化度、湯之澤薪伐取候ニ付、炭役永上納之村々より亦々用水へ障、難澁之由を以公訴ニ相成、御見分之上御裁許、薪伐場境相定り、外山澤ニは先年之通り御圍ニ相成候事

一、嘉永二四年又々三夜澤社人御朱印之内峰續申荒山立木賣拂候ニ付、前組村百三拾餘ヶ村相談之上相斷一決重る出訴欲ニ致モ一候處、前橋様御役所より伐木御差留ニ相成、組村一同出訴之儀ハ相慎り、右賣拂場所を御圍地且入會秣場迄無レ紛相分り候事

一、勢多郡粕倉村重兵衛赤城山前麓横野ニ於テ、去ル文久度小馬飼度段御公邊に願立る候處、野付村々に故障有無御尋ニ付申上候モ、昔々百三拾餘之組合村入會秣場ニ有、右場所ニ飼立候るモ一同難澁至極之趣御返答申上、御裁斷ニ後可ニ相成ニ之處、訴答出府任、初發飼始メ候粕倉村地内字堀久保限ニ土手成、行馬成補理候様示談行届承知罷在候事

右之條々村々篤々相心得不レ意様可ニ罷在ニ之處、近頃忽ニ相成、御圍地に狼ニ立入伐木致候者有レ之ニ付、百三拾餘候箇村談評之上堅議定いたし、以來伐取候もの有レ之を見付次第ニ差押相斷、時ニより組村一統相談之上急度取計、其

澤社人御朱印地林續申、外澤谷峰横領致候ニ付、組村百三拾餘ヶ相談之上御公訴奉ニ願上、則御裁許繪圖面頂戴仕、現在野付三ヶ村ニ有年番ニ預り申候事

一、其後勢多郡實村澤孫兵衛、南表山守累年被ニ仰付罷在候處、字梨木澤ニおゐて御運上炭焼出し、伐木いたし候

御諸入用之儀を伐木人ノ村方々無ニ違變ニ差出可レ申候事

附り
野火付候もの同様あるをき候

右之件々相定候上は、村々小前末々迄心得違無レ之様諭置可レ申候、爲ニ後日一議定一札依多如レ件

稻葉美濃守領分
上州勢多郡
柏倉村
名主 彌 右 衛 門

慶應三卯年三月
御繪圖面預り主
重 郎 兵 衛

小等原六五郎知行所
同州同郡
鼻毛石村
名主 治 兵 衛

御繪圖面預り主
源 兵 衛

堀田攝津守領分
同州同郡
苗ヶ島村
名主 佐 兵 衛

御繪圖面預り主
平 右 衛 門

秋元但馬守領分
同州同郡

堀越村

名主 清 兵 衛

松平大和守領分

同州同郡

市の關村

名主 文 左 衛 門

大岡主膳正領分

同州同郡

上茂木村

名主 駒 右 衛 門

倉橋惣次郎知行所

同州同郡

下茂木村

名主 文 次 郎

堀田攝津守領分

同州同郡

西横澤村

名主 勝 右 衛 門

本多能登守領分

同州同郡

東横澤村

名主 八 郎 右 衛 門

稻葉美濃守領分

同州同郡

江木村

名主 源 太 郎

松平大和守領分

同州同郡

富田村

名主 又 右 衛 門

松平大和守領分

同州同郡

今井村

名主 彌 太 夫

松平大和守領分

同州同郡

上増田村

名主 彦 右 衛 門

堀田攝津守領分

同州同郡

下増田村

名主 彌市右衛門

土岐備後守知行所

同州同郡

二の宮村

名主 傳 兵 衛

松平大和守領分

同州同郡

二の宮村

名主 彌市右衛門

東横澤村
名主 八郎右衛門
稻葉美濃守領分
同州同郡
江木村

松平大和守領分
同州同郡
二の宮村
名主 彌市右衛門

岩鼻附御料所

同州同郡

新井村

名主 代

吉

佐々木源四郎知行所

同州同郡

飯土井村

名主 五十兵衛

秋元但馬守領分

同州同郡

荒子村

名主 傳兵衛

稻葉美濃守領分

同州同郡

荒口村

名主 彌兵衛

秋元但馬守領分

同州同郡

泉澤村

名主 勝右衛門

稻葉美濃守領分

同州同郡

樋越村

名主 利兵衛

大岡主膳正領分

章七 農業的林系 一 水源涵養林

同州同郡

東大室村

名主 桂

輔

大島捨五郎知行所

同州同郡

右同村

名主 幾太郎

松平大和守領分

上州勢多郡

西大室村

名主 伴右衛門

大岡主膳正領分

同州同郡

下大屋村

名主 清藏

倉橋宗三郎知行所

同州同郡

上大屋村

名主 覺藏

松平大和守領分

同州同郡

宮關村

名主 太兵衛

大岡主膳正領分

同州同郡

八三七

下川原村

名主 甚五衛門

小笠原六五郎知行所

同州同郡

上川原村

名主 紋右衛門

稻葉美濃守領分

同州同郡

室澤村

名主 孫兵衛

本多能登守領分

同州同郡

板とし村

名主 彦八

酒井紀伊守領分

同州同郡

高泉村

名主 七左衛門

五拾五ヶ村合

一 高貳萬五千七百八拾三石六斗三升六合七勺

一 丁錢百拾四ヶ四百五拾六文

内三ヶ五百拾六文

内殘

百拾四ヶ九百四拾文

高百石ニ付

諸入用
藤屋ニ多飯料取過引

丁錢四百三拾七文

此譯

一 錢拾貳ヶ文

一 同貳拾八ヶ五百文

一 同壹ヶ文

一 同壹ヶ六百文

一 金壹兩貳分也

一 錢參拾ヶ文

一 金壹兩也

一 金貳分壹朱

一 錢五百文

一 同六百四拾八文

一 同壹ヶ貳百文

一 金壹兩三分也

一 錢四ヶ五百文

一 金四兩三分壹朱ト

一 錢八拾ヶ文

八三八

三ヶ村拾五人出役

但、壹人ニ付八百文

三ヶ村役人出役

但、九拾五人分

壹人ニ付三百文宛

茶菓子代

市之關村

堀越村出役

前橋領惣代方へ

謝禮

三ヶ村役人

飯料

但シ壹飯三百文ツ、

大胡集會之節

茶代貳百文

室澤村へ行

集會飯料

土州壹狀

四分延壹狀

西之内

三ヶ村役人

中食代

伐木差止人足

高貳百六拾三石三斗八合

大久保村

一 丁錢百拾四ノ四百五拾六文 諸入用
 内三ノ五百拾六文 藤屋ニ多飯料取過引
 内殘 百拾四ノ九百四拾文
 高百石ニ付

一 金壹兩三分也 三ヶ村役人
 一 錢四ノ五百文 中食代
 一 金四兩三分壹朱ト 伐木差止人足
 錢八拾ノ文

爲金拾五兩貳分壹朱ト

錢四百四拾八文

但、錢相場七ノ四百文

一 高五百參拾貳石貳斗壹升八合 室澤村

錢貳ノ四百貳拾貳文

外ニ六百七拾文

金壹朱ト五百文

差引 貳百八拾六文

同殘 貳ノ百參拾貳文

一 高貳百三拾八石貳斗壹升 板橋村

錢壹ノ八拾壹文

外ニ六百七十文

金壹朱ト五百文

差引 貳百八拾六文

同殘 七百九拾壹文

一 高百四拾石九斗貳升貳合 高泉村

錢六百四拾文

外ニ六百七十文

二口

一 壹ノ三百十四文 可出分

一 高貳百九拾七石三斗三升壹合 奥澤村

錢壹ノ三百五十壹文

外ニ六百七拾文

二口

一 貳ノ貳拾五文 可出分

章七 農業的林系 一 水源涵養林

一 高貳百六拾三石三斗八合 大久保村

錢壹ノ六百拾五文

外ニ六百七十文

金壹朱也

差引 貳百十文

一 同殘 壹ノ八百貳拾五文 可出分 馬場村

一 高三百九拾五石七升壹合

鏢壹ノ七百九十五文

外三百三文

三百六十七文

ノ六百七拾文

内金壹朱ト五百文

差引 貳百八十六文

同殘 壹ノ五百九文

註二二五 【山林共進會報告 履歷之部】

(日本山林史保護林篇上卷七五〇—一頁參照)

註二二六 【御用印御觸寫】 ○前橋市勢多郡誌編纂所

一 當國之儀は、西北ニ大山有て、藪澤之出水利根大川を
 なし、村里耕作之用水實ニ可ノ尊之天幸ニ有レ之、就中赤
 城・榛名之廣野は、御領中跨り秣刈取は勿論、農家有益
 之兩山ニ有レ之候處、何もの之所業ニ有レ之哉、冬春野火
 を起し候々草木之生立を失ひ、野火無レ之連年生蕃候ハ

、自然ニ水氣を含、谷々之水も流増し、村々旱損之患ひも無レ之、殊ニ薪は勿論大材を伐出し候事ニ相成可レ申、右様當國大益之山々を徒らニ焼野致し候ハ、民財を破るニ等敷實ニ可レ惜儀ニ有レ之候、方今御一新之御主意難レ有奉戴致し、是迄之弊風速ニ相改候様可レ致候、依るは以來野火付候者ハ嚴科申付候間心得違無レ之様、村々召仕共ニ至迄急度申付置、自然及ニ業ニ候もの及ニ見聞一候ハ、可レ訴出候

右之趣村々小百姓ニ至迄不レ洩様可ニ申聞、尤寺社並浪人帶刀人、直支配迄も可ニ申聞一者也
(明治元年)
辰十二月 郡代所

註二二七 【乍恐口上書を以奉願上候御事】 ○岐阜縣廳

乍恐口上書を以奉願上候御事
一、久々野郷宮村百姓孫七郎・孫助・太郎兵衛・孫作・小左衛門ト申者ニ御座候、拙者共儀ハ、宮村之内山下と申所ニ御田地相控、御田地用水之儀、御地頭様御代より字やきやう谷・戸洞谷・せきすい谷、則此三洞之谷水ニ御田地養來り申候、依レ之此三洞之木草之儀ハ、拙者共御田地之水持林ニ有來り所持仕來り申候ニ付、少々林銀等も上納仕來り申候、御田地懸り種四拾間掛ケ水取來申場所ニ御座候、此種木儀も只今迄者、右之持山之内ニ取掛ケ來り申候、然處ニ四年以前寅之年、山下之百姓申拙者共持山ニ猥入候ニ付、其節名主・組頭・山見方へ相届候へ共、内々ニ明不レ申候故、御公儀様へ御願申上候得ハ、相手之方へ御差紙ニ返答致、對決被レ爲ニ仰付

候、依レ之扱ニ罷成、高山町村田屋物右衛門 ○外十二名略此者共取扱申候ハ、字やきやう谷・戸洞谷・せきすい谷此三洞兩平共、五人之持山之所ニ、此度出入ニ罷成候上者、右三洞之日影山者右五人之持山ニ致、日面之儀者村方之山ニ致、出入相濟候様ニと達る扱申候ニ付、無レ是非三洞之日面ハ、村方へ遣シ、其節書違証文致、内々ニ相濟證文ニ通拙者共方ニ所持仕罷在候御事

一、四年以前寅年濟口證文ニ連判拾五人ニ御座候、此内
□七〇外七名略 八人之者共は證文相守干レ今無沙汰成仕懸ケ不レ申候、相殘る庄助 ○外六名略 此七人之者共、惣兵衛・七兵衛・七郎右衛門ト一身仕、拙者共持山へ猥入伐荒申候ニ付、驚入迷惑仕候得共、いきおひつよき者共ニ御座候故、手向仕留申儀も得不レ仕候、名主・組頭・同名中ニ相届候得は、打寄相談致くれ候得共、拙者共五人共ニ困窮者殊ニ大勢無勢故、拙者共申儀埒明不レ申、彼是ト延々ニ相成候内ニ、正月十二日より同廿三日迄ニ拙者共控之水持林を伐取申候、依レ之拙者共ひしと潰ニ罷成候并種木等立置候迄伐取候へば、拙者共御田地日損可レ仕と旁以潰ニ罷成至極迷惑仕候、依レ之無レ是非一乍恐御敷申上候、何とぞ御慈悲之上被レ爲ニ聞召分ケニ貳通之定證文之通相守、此度伐取候薪相返シ重る悪行仕懸ケ不レ仕候様ニ被レ仰付ニ被レ爲レ下候ハ、百姓ニ相續可レ仕と難レ有可奉レ存候、偏ニ御慈悲を奉願上候、以上

久々野郷宮村之内山下百姓
享保十一年午二月 孫 七郎 郎

等も上納任來り申候。御田地懸り榎四控間掛々水取來申
場所ニ御座候、此種木儀も只今迄者、右之持山之内ニ多
取掛ケ來り申候、然處ニ四年以前寅之年、山下之百姓中
拙者共持山ニ猥入候ニ付、其節名主・組頭・山見方へ相
届候へ共、内々ニ多々明不申候故、御公儀様へ御願申上
候得ハ、相手之方へ御差紙ニ返答致、對決被爲ニ仰付

之定證文之通相守、此度伐取候薪相返シ重多惡行仕懸ケ
不仕候様ニ被ニ仰付ニ被爲下候は、百姓ニ相續可仕と
難有可奉存候、偏ニ御慈悲を奉願上候、以上
久々野郷宮村之内山下百姓
享保十一年午二月 孫 七 郎 郎 印

高山御役所

○外四名略

註二一八 【編輯國史料寫 政治部】 ○編 者

○上略 松代城南西條山ハ、往古樹木森鬱良材ヲ出セリト
云、其都城ニ郊タル久シク且寛保洪水ニ懲リ、樹木多キハ水
多シト云謬説行ハレテ遂ニ伐盡シテ秃兀タル秣山トナリ、
用水又欠乏ニ至リ、民有ノ雜木薪柴ヲ出スノ外一ノ良材ア
ルコトナシ、弘化三丙午歲先藩主特旨ヲ以、此山ニ樹藝スル
コトヲ命シ、重職恩田頼母以下之ヲ擔當シ、村民ニ懇諭ス
ルモ頑固ノ風慣、種々ノ疑惑ヲ懷テ輒ク奉命セス
嘉永二巳酉ノ春、頼母、郡奉行以下ヲ率テ登山巡視シテ實
地ヲ檢査シ、村民ヲ集テ更ニ説諭シ、曰從來所有ノ薪柴萱秣
等ノ有用物ヲ生元地ヲ除キ、荆棘蕪穢終ニ斧鎌ヲ入レサル
棄地ヲ變シテ檜・杉・諸木ノ林ヲ成シ、地分ヲ竭シテ國益ヲ
興サントスルノ意ナリ、故ニ成木ノ後官林トナシ用木トス
ルコトナク、山林稅ヲ課シ或ハ益スコトナカルベシ、苗ナキ
モノハ之ヲ與へ或ハ之ヲ貸スヘシ、斯ノ説諭スルモ尙不服
ハ、其棄地ヲ取テ藩費ヲ以テ樹ヲ植エ官林ヲ作ル可シト懇
諭強迫兩途ヲ用ヒ、始テ承服シ連ノ請書ヲ出ヘク、於レ是荆
棘草莽ヲ一時ニ燒拂ヒ測量檢地シ、闔村ノ戸數ニ割賦シ、
毎戸遠近ニ所ヲ與ヒ、翌春ヲ期シテ悉ク杉・檜木・檜柏等諸
木ヲ植エ、是ヨリ人々多ヲ競ヒ二三年間ニシテ杉十萬本ヲ
栽タルモノアリ、十八・九年ニシテ虹梁ヲ出スニ至レリ、是
ニ尋テ割山ヲナスコトヲ諭タレ共、世間多事ニ赴キ果サス

章七 農業的林系 一 水源涵養林

註二一九 【大日本農功傳 卷三】

(日本山林史保護林篇上卷七五三頁參照)

註二二〇 【山林共進會報告 履歷之部】

(同上)

註二二一 【山林共進會報告 履歷之部】 ○編 者

滋賀縣近江國滋賀郡中の莊村 馬杉莊太郎 四等賞

近江の國滋賀郡中の莊村馬杉莊太郎所有山林は、往昔より
傳來の山地三町餘歩を除くの外二百餘町歩は悉く祖父莊兵
衛の買得せしものよして、當時濫伐せし跡地なりしかば、
爾來樹實を播し苗木を植栽し其他肥料を施す等培養保護に
盡力せし事數十年、就中龍門村山林の如きハ、文政年間持
主に於て皆伐せし爲め水源を涸渴せしめ、山麓の耕地年々
早損ニ罹り、甚しき年は三百石餘の水田にして一粒の收穫
たも見ざる事あり、莊兵衛其困難を見るに忍びず、該山
の繁殖に一層盡力せしより追年樹木繁茂し、隨て水源も漸
次舊に復し、今や三百餘石の水田年々收穫を全ふるを得
たりと、莊太郎亦能く祖父の志を繼ぎ愈力を山林保護に盡
し又他人の濫伐して一時の小利に走るものを誠め將來の公
利を期せしむ、其所有林の如きは鬱蒼々として一目以て他
の山林と判別し得るに至れりと云ふ

【同上 經驗之部】 ○同 上

滋賀縣

馬杉莊太郎

文政年間より櫟の栽培をなせしに、先づ其初めは冬の内に潤氣ある沙中に埋め置、翌年春分に至り芽を萌すを以て畑地に移し一年を経れば七八寸より一尺計に長す、此時初て肥しを施すなり、其法は水を以て人糞を薄く融解し用ゆ、下種より三年を経てその半根を剪り去り、更に又畑地に植置く、此時また肥料を施すこと前の如し、三年を経て又半根を剪り去りて山中適宜の地に移植す、尤注意して嘗て沃地となさんために、枯枝落葉を收拾するを禁せし場所故、其平常蓄積せる枯枝落葉塵芥を掃き去り、少しも塵芥なきやうにして後ちその地所を掘り植付たり、若し木葉等土中に在るか又は根邊に積み重れば必ず蚯蚓を生ず、然るときは猪鹿兎の類其蚯蚓を喰はんと欲し掘起し、之か爲に根株遂に枯朽に屬すること少なからず、是培養の尤切要とする處なり、又蟲害は其著しき害を蒙りたるを覺へすと雖も、毎年三四月以後常に猪鹿兎等の萌芽を喰ひ荒すには甚た困却す、故に従前は威銃を以て驅逐せしも近年は夜中發銃を禁止せられたれば猪鹿兎の來て損害をなす一層甚し、故に人を雇て驅逐し、或は人髪を燻焼して狼を招き以て猪鹿兎を驅逐するの術とす、是地方の風習にして其効あるを以て常に之を施用せり、弘化二年に至て櫟樹の幹枝漸々生長し已に柴薪の用となり培養の結果を得るに至れり、且櫟樹は伐採するに其年限適度あり、若し老長に過れば再芽生育する少し、故に其剪伐の適度を失はざるを肝要とするを以て弘化二年初て斧を下し、其内長大なる者を伐採す、これ該

山買得以來斧を試るの初なり、此間十八年とす、爾後順序後生のもの七八年毎に伐採するを期限とせり、又年々適宜に地を區畫し壹斗の種子を播種して以て枯闕を補ふなり、此の故に年々繁茂して敢て減損することなし、其得るところの利益毎年凡七百圓に下らず、又松杉檜の三種は非常の需用にあらされは、猥りに伐採せざるなり

註二二二 【山林沿革史 卷之十】

(日本山林史保護林篇上卷七五三頁參照)

註二二三 【若林農書 卷二】

(同上 七五三—四頁參照)

註二二四 【山林沿革史】

(同上 七五四頁參照)

註二二五・二二六・二二七 【山林共進會報告履歷之部】

(同上 七五五頁參照)

註二二八 【水持林裁許狀】 ○鳥取縣若美郡本庄村恩志區

裁許狀

其村方榜示山入會之儀ニ付、高山村も及ニ爭論、此度場所見分遂ニ吟味ニ候處、高山村を、其村榜示領坂・小堤・飯部三谷ハ、對ニ山元ニ何も無く用捨致し居申候得共、其餘を一

真草・薪共入會期來候處、其村之者共刈尾畑致し、並ニ種

致居申、立木者村惣持致し居申段申立候得共、右等御加

常に之を施用せり、弘化二年に至て櫟樹の幹枝漸々生長し
已に柴薪の用となり培養の結果を得るに至れり、且櫟樹は
伐採するに其年限適度あり、若し老長に過れば再芽生育す
る少し、故に其剪伐の適度を失はざるを肝要とするを以て
弘化二年初て斧を下し、其内長大なる者を伐採す、これ該

註二二八 【水持林裁許狀】 ○島取縣若美郡本庄村恩志區
裁許狀

其村方榜示山入會之儀ニ付、高山村も及ニ爭論、此度場所見
分遂ニ吟味ニ候處、高山村も、其村榜示領坂・小堤・飯部
三谷ハ、對ニ山元ニ何も無く用捨致し居申候得共、其餘一

圓草・薪共入會刈來候處、其村之者共刈尾畑致し、並ニ種
々之以ニ申立ニ松等爲ニ生立ニ候故、追々草刈場減し、剩山口
明不致内、勝手ニ草刈取、其後口明之儀及ニ通達ニ候ニ付、
刈跡而已拾ひ刈致し候様成行及ニ難儀ニ候間、以後者、右用
捨之場所迄も入會申度旨申立、其村も、惡田御年貢惑之
手當、並山添御田地渴水之場所爲ニ水持、先年木草立置候
場所も有之、且山田手間入之場所迄も山口明以前、山裾少
々刈入れ候得共、連田井之場所開作致し候者も、山元より
共決多刈取不申儀定有之、全體百四十五年以前、高山
村石谷家繁榮之節追々入會之姿も相成居申候得共、決
る入會も申譯ニ者無之旨申立、此餘兩村申立之次第も
有之、双方申口致ニ齟齬ニ候、然ル處、眼目鎮坂・小堤・飯
部三谷之外草薪共入會刈來之儀ニ相違無之ニ付、此度左之
通定遣し候間、其旨相心得、和順第一、農業可致ニ出精
候、若於ニ相背ニ可爲ニ曲事ニもの也

致居申、立木者村惣持致し居申段申立候得共、右等御加
損付相成、殊ニ惡田付之林、村惣持ニ致し候段不相當ニ
付、此度不殘伐拂、惣草山ニ致し、高山村ニ爲ニ入會
可申事

一 山之口明を、毎年五月節十日前を定日致し置、前
廣嚴重ニ高山村ニ致ニ通達ニ入會爲ニ相働ニ可申、尤夫とり
二三日以前山田手間入之場所作致し候者丈、山裾七間通
柴草刈入ニ候儀者不苦事

一 字高鳥尾割谷兩所願之上、惡田附林ニ致し居申、尤惡
田江者御加損被ニ仰付ニ候得共、字飯部并東法寺兩所田地
之儀ハ猶作人無之、依右林夫々割合遣し、漸開作爲致
候旨申立候ニ付、是迄之通被ニ仰付ニ候事

一 字鎮坂・小堤・飯部三谷を、其村内山相違無之事
但、林ニ紛敷儀致間敷并尾畑致候儀一切不ニ相成ニ事
一 惣名吉谷之内、奥八ヶ谷・口八ヶ谷兩所之儀者、惡田
附林ニ相願、字用呂五社之宮惡田作人無之ニ付、先年ハ
添居申候處、當時御加損付ニ相成候得共、矢張作人無
之ニ付、右兩谷下草爲ニ刈取、其價ニ斗爲ニ差出ニ開作爲

一 高山村ハ其村榜示之山江罷越候畦道之儀も、相互ニ讓
合通行可致事
附り、高山村之者共、牛牽川渡致候儀、渴水之節者致
間敷旨申渡し置候事

一 山崎村之者共、其村榜示山江薪隈致し置候儀者不ニ相
成旨同村江申渡し置候事

多羅尾喜兵衛(花押)
文久元年酉十月九日
神戸大助(花押)

岩井郡 恩志村

註二二九 【鐵方御用留】

○島根縣飯石郡吉田村
田邊長右衛門氏

一、大吉鑑中絶いたし候多、殘木伐り盡し方、外ニ仕向
候考ハ無之哉、有無申出候様被ニ仰付ニ奉ニ畏候
此御請

八四三

仁多郡五ヶ所株鑪ニ多炭粉鐵拂底、吹方相休候場所
 淡有之、右大吉沼場所替吹方仕候得は、立木伐盡候儀
 ニ御座候得共、五ヶ所鑪の儀は、先年より諸構ひに付
 奥筋人別稼來、猶又諸人別へ仕入米錢或は鐵穴等悉元
 入仕込ミ居候儀、大吉へ場所替仕候も、自分之家督
 は少しも無御座、悉皆他人之構ひ入込ミ候儀、其上大
 吉ニ永々相續出來候場所ニ無御座、彼是及越し之大
 吉沼場所替難ニ出來儀ニ御座候、且新夕ニ鍛冶屋ニ
 も御願申上、殘木伐盡し候譯ハ、無之哉と考量も仕見
 候得共、同所澤山數十年來立籠候ニ付、大木ニ相成、
 小炭ニ燒取候儀出來不仕、たとへ入用相加へ親木は根
 たをし爲致候連、枝木之外小炭ニ相成、不少し失費
 有之、大木ハ都山ニ殘し置候様相成、何れ大炭ニ燒
 取不申、伐盡し之手段無御座、甚以難澁仕候、右
 殘木伐盡し候得ハ、第一御田地冷水懸り相凌、且ハ人
 別大炭燒木并ニ鐵穴流し方或ハ繩も礎等仕出し男女
 共稼仕候處、鑪中絶ニ相成、細民共稼を失ひ、其
 上鑪年中吹方仕候得は、細民共錢貳百貫文宛出錢遣
 し候分無之相成、別難澁可仕儀奉存候

右は此度川内村大吉鑪追年數奉願候ニ付、御尋被仰付候
 譯、夫々御受申上候間、何卒願書差出置候通、大吉鑪是迄
 之通私共兩人へ今暫之中、吹方御免被爲仰付候様、御
 仕向之程奉願上候、以上

田部 長右衛門
 櫻井源之丞

註三三〇 【鐵方御用留】 〇同 上

慶應三卯八月
 梅木草山之儀ニ付、下郡傳九郎へ遣候演說書左
 之通

御内々演說代

此度吉田村梅木・杉戸兩免、人別難澁之譯柄、上沼御愁訴
 申上候旨ニ多、村役人願書面内見いたし吳候様持參仕、
 見合候處、右願書相添有之候頭書之内

梅木免ハ、大體土惡之土地柄ニ多草種惡敷、多分荒草、
 殊ニ三田原輪ハ田地最寄之壤山ニ多苧足不申、遠方仁多
 郡境近く道法貳拾丁カ一里位罷越候ニ付、朝は未明ニ出
 掛、四ツ頃ニ漸一駄之草を刈入候様之仕合ニ多、就中
 精出相働キ不申、ハ行届兼、追々御田地相衰ひ候成行ニ
 相成居申候間、左之通壤草刈入飯料御惠被下度

右ケ條モ得考量仕見候處、杉戸免は、都御鐵山内ニ多、
 壤山は御田地縁を見合境を立刈入、若苧足不申節は右木
 口より境を延し遣し、又苧餘り立木出來候へ、鐵山へ伐
 取候成行、人別手前薪を素々普請用木等入用之節は、此方
 へ願出候得は夫々見計ひ、鐵山カ惠遣、毛頭不自由ハ無
 御座候、梅木免之儀も、人別所持腰林纒宛有之、鐵山中
 ニ挾れ居候處、同處草山之儀も、先年人別入相ニ刈來居候
 へ共、中古分跡いたし置候得、壤草餘分相立申譯銘
 々分ケ向いたし居候事ニ相聞候處、其後追々人別自由を構
 ひ、自然分跡之草山も、御田地縁カ立木相立、中ニ自分
 之林採名を付、壤草を鐵山カ重ニ刈出し候カ追々遠方へ

草刈ニ罷出候様相成、實ニ此方手當之御鐵山中へ入込、年

(圖版文面)

掟

之通私共兩人へ今暫之中、吹方御免被_レ爲_二仰付_一候様、御仕向之程奉_二願上_一候、以上

(寛永六年)
丑八月

田部 長右衛門
櫻井源之丞

之扱れ居候處、同處草山之儀を、先年人別入相_二刈來居候へ共、中古分跡いたし置候得を、穢草餘分相立申譯を銘々分ケ向いたし居候事_二相問候處、其後追々人別自由を構ひ、自然分跡之草山を、御田地縁_レ立木相立、中_二を自分之林杯名を付、穢草を鐵山_レ重_二刈出し候_レ追々遠方へ

草刈_二罷出候様相成、實_レ此方手當之御鐵山中へ入込、年々不_レ少_レ荒し鐵山之憂不_レ輕次第_二御座候處、右御田地縁_レ先年之草山へ立木立置候分は都多伐取、杉戸免同様田縁_レ草山_二相成候へは、近邊_二の穢草刈入候様相成、就_レ冷水之憂相凌、御田地出精、地直り_レ淡出來可_レ申、加_レ之御鐵山之障_レ淡相減、上下之爲筋不_レ少_レ儀も奉_レ存候、依_レ近頃恐入候御願_二御座候得共、夫々土地柄御見分立木伐採、草山_二相備候様、人別御諭_レ被_レ爲_二下_一候様奉_二願上_一候、左候は_レ前_二之淡奉_レ願候通百性_レ之爲筋、私方_レ御鐵山之憂相除候儀_二御座候間、萬々御賢察被_レ下置_一宜敷御仕向之程奉_レ仰候、以上

卯六月

田部 長右衛門

註二二一 【舊藩山林制度調書】

(日本山林史保護林篇上卷七五六頁參照)

註二二二 【山林共進會報告 履歷之部】

(同上)

註二二三 【御山方内考書】

(同上 七五七頁參照)

註二二四 【掟札】 ○德島縣勝浦郡多家長村大久保駒三郎氏

(日本山林史保護林篇下卷圖版 頁參照)

章七 農業的林系 一 水源涵養林

(圖版文面)

掟

宮谷
殿林
勝浦郡八多村
犬飼

一、當山林爲_二用水_一先年よりはやし置之條、猶以自今以後他郷之者ハ不_レ及_レ云、在所之者を初、一切伐取る間敷候、若相背者於_レ在_レ之ハ忽可_レ爲_二曲事_一ニ付、草かや刈儀、所之者ハくるしかるまじき者也
寛永三年六月三日忠鎮(書判)

註二二五 【憲章簿 山方之部】 ○高知市高知圖書館

家懸林并無貢物場所_レ竹木生育開發等改正之章

覺

○中畧

一 (縣多郡) 同村々ニ多、底地無年貢之場所ハ、無願を以、新_二竹木林立候_レ、控山或ハ水持林・家懸林杯ト相唱、宰來候村柄モ有_レ之趣粗相聞へ、不_レ埒之至_二付、依_レ此度ハ屹度遂_二詮議_一、是以來辰二月限有無兩様之處可_レ届出、追_レ同斷穿鑿被_二仰付_一候_二付、向後右等之事跡於_レ有_レ之ハ右同斷被_二仰付_一候_二付、郷浦共支配々々不_レ洩様可_レ觸聞_一候、已上

天保十四卯十二月廿三日

御 山 方

註二二六 【自寛延三年 山方】

八四五

(日本山林史保護林篇上卷七五八頁參照)

註二二七

【自文政元年
至弘化元年 御用場日記】 〇同 上

一 御庄組之内、長月村帆柱尾御山、并ほば藪、近年御手
山ニ相成候處、右村之儀ハ、不_レ通_レ渴水之場所ニ付、
右兩御山共、村方受所水持山ニ被_レ下置_レ度旨願出候處、
何分難_レ吟味互_レ尤水持山ニハ不_レ相障_レ様被_レ成下_レ候間、
可_レ致_レ安心_レ旨申聞候様、郡奉行へ申聞、願書相下候事
一 右之通、郡奉行に申聞候間、承知之上不_レ相障_レ様取計
可_レ申旨、山奉行へ申聞候様元へ申聞事

註二三八

【自弘化
二年 御用場日記】

(日本山林史保護林篇上卷七五八―九頁參照)

註二二九

【自弘化四年
至安政六年 山方ノ事】

(同上 七五九頁參照)

註二四〇

【栽樹金仕法帳】 〇福岡縣京都郡犀川村永井興三氏

古人此云、一年の計ハ穀を種、十年の計ハ樹を種、百年之
計を徳を種るにありぞ、宜なるかな、郡宰和田正脩君、深
く郡事よ心をを用ひ給ひ、曩_レ治水の法を設け、今又山林生
植の備を立んとて、事を予か輩に謀らせ給ひて曰、我仲津
郡ハ山遠く谷深して、材木の運輸も自由ならず、別けて里

邊の山々を近頃「」ためよ半ハ伐減しぬれそ、池川道
「」家造等の材ハ更なり、民家日用の薪よ至迄、大ニ不足
去ぬらむ、夫樹ハ水の氣を聚む、水の源ハ山よして、山に樹
盡_レハ水も亦涸る理なれハ、自然旱魃の患無_レまもらね
とも、是迄山方之備之けれハ、其策を施し難し、依_レ去年
ハ郡費取縮たる彼是の見出金を以、五百兩乃備をなし、栽
樹金を名付、諸事治水の法よ倣ひ、是を用ひ新_レ山方此役
を設け、樹藝を專になさしめんとぞ、誠ニ難_レ有事ならず
や、今よ我輩此役々申合、勸農の暇障に山野荒蕪之式川
土手屋敷の空地能々見積り、初春此頃土地相應の諸木植付、
苗物仕立方等時を失ハさるよ_レ供_レ力_レを盡しなハ、十年の
後必ず其功顯ハれ、徳澤も亦百年此後に及_レん、依_レ其故
をあるす

覺

一 金五百兩

右栽樹金利息壹割五分ニ_レ貸付、元利十二月十日限取立、
年々大庄屋順番ニ引請相立、致_レ勘定_レ翌年當務_レ譲渡可_レ
申事

一 山方掛之者、冬春致_レ廻村_レ諸木植付相應之地味取調可_レ
申出_レ候者、伺出之上場所ニ寄、備金利息之内_レ致_レ出銀_レ
遣可_レ申事

但、引受村役者、常々植付場所見繕、草伐場又者隣村
差障等可_レ有_レ之見込之所者篤_レ遂_レ吟味_レ可_レ申、其外心
付候儀者早速山方役_レ申出、懸_レ評議_レ可_レ申、且又植付
致候場所_レ生立茅草下_レ新葛_レつし等、時を失_レハ_レ様世

古人此云、一年の計ハ穀を種、十年の計ハ樹を種、百年之計を徳を種るにあり、宜なるかな、郡宰和田正脩君、深く郡事ハ心を用ひ給ひ、曩ハ治水の法を設け、今又山林生植の備を立んとて、事を予か輩に謀らせ給ひて曰、我仲津郡ハ山遠く谷深して、材木の運輸も自由ならず、別けて里

遣可申事、但、引受村役者、常々植付場所見繕、草伐場又者隣村差障等可有之見込之所者篤々遂々吟味可申、其外心付候儀者早速山方役申出、懸ニ評議可申、且又植付致候場所ハ生立茅草下刈葛とつし等、時を失ハす様世

話可致、尤七月中より下夕刈致、梅雨前ニ葛を切取候様致度事

一 毎年冬内より正月を限、定式四ツ高夫ニ多植松致可申、地式無之村方者、最寄御山式植付候様可致事

一 杉・檜・榎・柏・榎等之苗物仕立方、一手永一箇所宛相極、年々無之怠植繼培養之世話可致事

但、杉・檜者、九月節前後、雜木者十月中實を取、蒔付者正月中旬より下旬を限可申、尙杉雜木者濕地ニ植付、松・檜・榎・柏・榎者乾地ニ植付申度事

一 竹植付之儀者、場所見立、四月ハ梅雨中、笋土中より少し延出る頃を好時節と心得、無ニ手拔ニ植付可申事

但、笋拔取候儀別る手堅縮方可致事

一 願山木渡之節者、御手代山方掛立會、渡方致可申事

一 村々御山、或者勿論銘々仕立山藪式ニ至迄、一村限手堅申合縮方可致、若不埒之族有之候者、見當次第召捕、申出候者相當之過代可申付事

但、過代之儀者、大體注連繩諸木植付等之儀可申付、尤時宜ニ寄、伺出之上重科をも可申付事

右之通、此度栽樹之仕法相立候上者、關係之役々申合、世話行届候様可致者也

宮市村
濱田助五郎
節丸村
和田伴平
上高屋村

明治二己巳四月

宮市村
濱田助五郎
節丸村
和田伴平
上高屋村

章七 農業的林系 一 水源涵養林

註二四一

存置 上毛郡
拂下 官林箇所取調帳

○福岡縣廳

〔長紙裏書〕
明治七年甲戌六月實地検査之上内務省ニ御届相成候下書也

豊前國企救郡湯川村字榑山
東當村字壹升水私林塚
南當村字壹升水野原塚
西、當村字石野原塚
北、當村五ツ石仕立山塚
反別八反歩
小木不詳

清田 辨吉
山鹿村
山田利兵衛
矢留村
末松祐右衛門
高瀬村
進 太次藏
本庄村
白石 時助
國作 治右衛門
平湯 甚左衛門
節丸 二右衛門
元 永正内
長 井又藏
和田 卓藏

地勢嶮

下草稅無

拂下故障無

上富野村字内ヶ畑

東、烏越上り山

西、當村字立石仕立山塚

南、當村字陣尾上り山塚 北、當村内豐後往來塚

反別拾四町五反步

松 一尺廻り以上 三百拾三本

六尺廻り以上 貳本 合三百拾五本

地勢嶮

下草稅無

保護方法

存置事故

○中略

從前山林守四人、給料米壹石六斗五升内八斗郡

辨八斗五升村相渡

田畑水源涵養之爲

上貫村字權現山

東、當村字權現山私林境 西、當村字野山塚

南、當村字上畑野山境 北、當村字貫山野山塚

反別拾七町步

檉 一尺廻り已上 三百四本

三尺廻り已上 百十本 合五百五拾八本

六尺廻り已上 百五拾四本

楓 一尺廻り已上 四拾五本

六尺廻り已上 四本 合五拾三本

杉 一尺廻り已上 貳本

五尺廻り已上 拾六本 合拾八本

松 一尺廻り已上 壹本

六尺廻り已上 三本 合四本

雜木不詳

小木不詳

地勢嶮

下草稅無

保護方法

存置事故

○下略

從前山守貳人、給米八斗六升内八斗郡辨、六升

村辨相渡來

田畑水源涵養之爲

註二四二 【律令要略】

(日本山林史保護林篇上卷七五九—六〇頁參照)

註二四三 【貞享五辰年日記】

○大分縣北海部郡日杵町 稻葉子爵別邸

一 當秋、溜水山之儀ニ付、持丸竹邊村之百姓共口論仕出候ニ付、近所之御百姓共出合取扱、口論一通リハ相濟候得共、山出人之儀同心不仕趣有之、其段遲御耳之處、不レ及ニ理非、御領分中として數人集、口論仕度打合等之儀双方共不届之儀ニ候、急度可被ニ仰附ニ候得共、先其通ニ被ニ差置ニ候、乍レ去不届ニ付、三村之者入來候山之分、被ニ召上候、心得宜者哉候ハ、前々之通可被ニ仰付ニ之旨、段々御意之趣、書付を以申渡候處、何迄至極仕、向後三村之者申談、山出入仕度旨三ヶ村之辨差共連判之願書差出候、則其通被ニ仰付ニ候、以後相違之儀も候ハ、下ニて申分不仕、郡奉行迄可ニ申達ニ候、心得惡敷者も候ハ、山御取上可被ニ成旨、可ニ申渡ニ由、於ニ會所ニ御郡

槻 一尺廻り已上 四拾五本 合五拾三本
 六尺廻り已上 四本
 杉 一尺廻り已上 貳本 合拾八本
 五尺廻り已上 拾六本
 一尺廻り已上 壹本
 六尺廻り已上 三本 合四本

旨、段々御意之趣、書付を以申渡候處、何迄至極仕、向
 後三村之者申談、山出入仕度旨三ヶ村之辨差共連判之願
 書差出候、則其通被_レ仰付_二候、以後相違之儀も候ハ、
 下_二申分不_レ仕、郡奉行迄可_レ申達_二候、心得惡敷者も候
 ハ、山御取上可_レ被_レ成旨、可_レ申渡_二山、於_二會所_一御郡

奉行_二月番申_二聞_一之、

註二四四 【利光村庄屋覺書】 ○大分縣大分郡戸次町 高橋愼八氏

覺

一 長河原_ラ井水御山 大塔村中名持ツ
 一 同所 利光村源兵衛名持
 右之井水御山、來春松枝取申度奉_レ願候、尤モ此節初メテ
 ノ枝打_ニる御座候_ニ付、下枝二三尺宛取申候ハ、松ノ盛
 長宜敷相成申_ト奉_レ存候、何卒奉_レ願通被_レ仰付_二被_レ下候ハ、
 難_レ有奉_レ存候、此段御願申上候、以上
 (安永九年)
 子十月十日 利光村庄屋 源 兵 衛

安田 黒右衛門 様

註二四五 【諸御用留記】 ○大分縣北海部郡丹生村原區

一 井水山之儀、以來山奉行・山林方受持_ニ被_レ仰付_二、御山
 帳面之内、前段井水山者書記置候様被_レ仰付_二候間、町數相
 改引渡可_レ申 井水御用伐出之節、山奉行申談候様、川岸等
 水損_ニる急急切出、箒等就當度大崩_ニ不_レ相成_二様補置候
 得者、右是迄其村々_ニ不_レ及_レ伺取計來候由、左様之儀
 者、下方不_レ差間_二様、山奉行山林方へ兼_レ可_レ及_二相談_一
 一 野伐所新地_ニ相願候_ケ所も候ハ、吟味之上可_レ相渡_二
 候間、下方へ相觸候様、井水奉行_二可_レ申聞_一候、已上

章七 農業的林系 一 水源涵養林

一 井水山之儀者、以來山奉行・山林方引受、井水御用之節
 者伐出し可_レ申候、枯竹等御拂又者下方ヨリ無_レ據受竹木
 相願候節者、井水奉行申談伐出可_レ申候、此處町數等相
 改、御山帳之内_ニ、別段井水山者書記置候様可_レ申聞_二候
 已上
 (天保三年)
 三月四日 會 所 口 達 三浦彌五左衛門

註二四六 【慶應二年留書】 ○大分縣大野郡新田村 多田雄次郎氏

井水山林、以前御代官御支配被_レ下候通、郷中限り御引受
 被_レ仰付_二被_レ下候様、乍_レ恐御内々御願申上候、以上
 南北
 五月六日 御代官 申様 大 庄 屋

註二四七 【山林古老傳上】

(日本山林史保護林篇上卷七六〇頁參照)

註二四八 【治茂公御代御改正御書付】

(日本山林史保護林篇上卷七六〇—一頁參照)

註二四九 【文政三年日記】

(同上)

註二五〇

【天保十一年御役所日記】

(同上)

註二五一

【弘化二・三年日記】

○佐賀縣西松浦郡伊萬里町片岡芳太郎氏

乍恐奉願口上覺

いまり郷中ノ原村之儀、御山方持合耕作相營、御蔭を以、押々相續仕難有奉存候、然處近年新募到近頃拂底ニ相成甚難澁仕居候、就るは去冬大川内山手傳釜燒中へ被ニ相渡候竹ノ山引續、雜木立之内畝方三町程、當節百姓薪用少懸銀ニメ被ニ仰下候道は有御座間敷哉、右ニ付爲其伐跡之儀松木相仕立度奉存候得共、右竹ノ山最寄御山方御田地數多有之、出水ニる作方仕居候處、松木御仕立相成候半は、出水自然も手少相成、作方差支候ニ付、伐跡之儀打追、雜木立ニメ被ニ召置被ニ下度旁奉願上候、依之近頃御用繁御半重疊奉恐入儀ニ御座候得共、御見分之上願之通被ニ仰付被ニ下度伏奉願候、於然は御蔭ニ難澁相凌、御重恩之程猶又難有仕合奉存候條、此段御筋々宜被ニ仰達可被ニ下儀深重奉願候、以上

午九月

惣百姓中

噯長

藏

横目村右衛門

庄屋武助

片岡殿

右點合

註二五二

【諫早日記寫】

○長崎市縣立圖書館内諫早文庫
御立山樹木仕立方等、尙又綿密相整候様每度御出之者も有之ニ付、私領山々ニるも益多其手當可有之儀ニる候へ共、其間ニハ荒否之場所も相見候付、先以往來見張の場所□□山等ハ尙又差寄相應之樹木植付相整候様、去ル子年に相達置候、就てハ其手當相整居可申、一體御山繁茂之儀ハ御國體ニ相懸候處、終年相荒候故よて候哉、出水寡、川々水勢乏しく耕作の支ニモ相成由相聞、山氣之盛衰は樹木繁茂ニ相懸、水除之事も付、荒否之場所無之通、奥山内共一般仕立方專用候様、尙又今般被ニ仰出之旨も有之候ニ付、御立山之儀者於ニ役筋ニ其手當被ニ相整儀候、就る者取分山々とても成丈急ニ繁茂いたし候通無之ニ相濟儀候、仕立方場の緩急見計り則今より口奥共仕立方取懸相成候様、左候る子年以來仕立方相整居候向々、畝方扱又松杉木雜木之分書載、當年中達出相成候様、其上ニる役筋を見分被ニ仰付儀も可有之候條、此段筋々可被ニ相達置候、以上
未十一月十四日

御山方

中島一太夫

彌永勘太夫

早田喜左衛門様

註二五三

【鹿島日記】

○佐賀縣藤津郡鹿島町鍋島子爵邸
一 佐嘉御山方に杉植立ニ相成候付、本城山炭山ニ御賣方ニ相成候跡ハ惡木相見候、右御伐取ニ不ニ相成候得者

杉植立ニ差支候由、并奥山筋者木懸不申候尋者、御私領

は斬々多く出る様ハ覺る由 ○下略

嘜長
 横目村右衛門藏
 庄屋武助
 片岡殿
 右點合

早田喜左衛門様

註二五三【鹿島日記】○佐賀縣藤津郡鹿島町鍋島子爵邸

一 佐嘉御山方杉植立ニ相成候付、本城山炭山ニ御賣方ニ相成候跡に悪木相見候、右御伐取ニ不_レ相成_レ候得者

杉植立ニ差支候由、併奥山筋諸木懸不_レ申候得者、御私領川々_レ夏向水保不_レ申由_レ、去春炭山ニ被_レ差出_レ候儀御斷有_レ之候、此節右悪木伐取ニ相成候者支所等者有_レ之間敷哉之否、御山方役所_レ呼出_レ尋有_レ之候段、西岡兎毛_レ申越候、本城山不_レ懸候得者濕氣薄、川々_レ水不_レ深儀者、當年之處ハ不_レ中向迄候も同然之儀候間、何卒右悪木御伐取被_レ相止被_レ下候様急度御山方役所_レ相達候様兎毛_レ申越候

は漸々_レ多く出る様_レ覺る由 ○下略

註二五五【山林沿革史 卷一】

(日本山林史保護林篇上卷七六三頁參照)

註二五六【山林共進會報告 履歷之部】

(同上)

註二五七【覺】

○熊本縣上益城郡朝日村藤岡有太郎氏

註二五四【疏導要書】

○東京市澁谷區細川侯爵邸内 中野禮四郎氏

一、○上略 廿年^(文化十二年)ばかり以前、小城領岩藏谷の上_レ木を仕立たる事あり。○中略 祇園川は岩藏の谷より打出す川_レて水上なる_レ、以前と違ひ水勢衰へ、耕作の辨利なき_レより、山_レ木を仕立なば、漸々_レ水多く出て、後年_レ及ては耕作の助ともなり、又木山茂りては薪其外の勝手も能なるべしと思ひ、右谷の近所禿山ある所立山_レ取立べき境を限り其最寄の村々_レ渡し、每春_レ山燒をする時、右の立山_レ火の入らざる様_レ心遣ふ事を、村の役目とし、點役を除くへき間、立山を專_レすべしとなり、尤山を燒く_レ過て留山_レ火を入れ、科代として點役を申付る事の由、惣して木立茂りては、薪其外の村の入用の分は、勝手_レ支配いたす事を免_レけるより、山を燒く時は、境を切りて、留山_レ火の入らざる様、心掛ける_レ、兩三年_レして自然と木立出來、今_レまでは三四尺廻りの雜木生茂りて、村々の辨利よく、夫故_レか、水も以前より

矢部手永、山林繁茂ニ隨、自然も雲霧之氣盛ニ相成、寒霜相募り、田方_レ之さたち強ク、逐年_レ秣かしき難澁之由_レ付るは、内意之書附被_レ相達置_レ候、水源繁暢^{チカ}は、其手永之見通し迄_レ無_レ之、他御郡_レ障り、不_レ輕事_レなる、大矢御仕立_レ付るは、元水相増、新井手懸り_レなるは、餘斗之上、畝物_レ出來いたし、近十年_レ早損之患_レ免_レ不_レ容易_レ儀_レ候處、大矢附之村々_レ次第_レ勸農_レ基キ、草場難澁_レ之次第等は相違_レ無_レ之、其上場廣大矢杉檜御仕立之場所、萱薄_レ交、第一野火入之_レ有_レ之場廣_レ之ヶ所かたち切_レ後屆兼、折角御仕立之御山片附兼候を、向後御仕立より片_レ野火入を防、御山床取堅_レ之仕法、御惣庄屋_レ御山支配役申渡、委細相達候通_レ付、左之通

一、下大谷之儀、輪地廣上り手_レ、八拾町程之杉檜御仕立之ヶ所は暢立宜敷、而は餘追々と御仕立之場所は、地味

あしく、御仕立之詮無之由ニ付、右御山野火入之害無之様、別段場廣形切いたし、其餘は秣萱場ニ被ニ仰付

一、上大矢之儀は、先大見通りニ有、眼目之町數、凡四千四百五拾町餘之内、萱薄雜木立等伐除ケ、一圓杉檜仕立方被ニ仰付、櫻檜仕立之儀は、左之通

一、櫻檜七拾五萬本

但、壹ケ年七萬五千本宛、壹ケ年之内仕立方被ニ仰付、夫賃錢等は相達候通り取斗被ニ仰付候

一、同貳拾五萬本

但、村方出夫を以、仕立方被ニ仰付候

右之通、十ケ年ニ無ニ相違ニ相仕立、夫賃錢且仕立方ニ付るは、御山支配役以下飯米筆紙墨代等、此節下大矢山立番除ケ候ニ付、右給錢減方を以取賄、及不足ニ候分は、大矢新御仕立上畝物徳米備之内より取賄候様

一、前條之通り、仕立方相濟候上、御所道より新道迄、杉檜百萬本、十ケ年ニ仕立相達候通被ニ仰付候

一、御山形剪之儀、是迄之通ニ有は、究通り後届兼、外野焼拂之節追々焼入飛火之るい等不々輕事ニ付、一際取掛り火除之仕法筋、委細御惣庄屋共申渡、相達候通り、輪地際十間内外火除ケニ相成竹木等仕立方致し候様、物體此節下方辨利之趣意を以、御山床御手を被ニ付下、廣圓之かたち切も追々とは相減、所柄後年訖ト爲令ニ相成御筋ニ付、眼目之御山床繁暢いたし候様、重疊人を用取斗、かたち間延ニ切方致し、十ケ年之内ニは見込之通、火防之仕立方及ニ卒業ニ候様

一、百五拾町

右は萱落と申所より平まきも申所迄、杉檜立いたし大數壹萬三千本餘之内、見込ニ候處、野附ニ有草場辨利之所付、袖方御役人被ニ召出、追々も板并材木類袖取被ニ仰付、跡床草場被ニ仰付候、尤歩板取出方致、辨利筋之見込ニ付、右御取出しニ付るは、山子屋取建、金送人馬等之儀は、其所柄より成丈ケ御辨利ニ申渡候積

一、七百四拾町

一、百町

一、百五拾町

一、四百町

右同東ノ手

右之場所、杉檜槻等は追々袖取被ニ仰付、雜木は炭焼取取被ニ仰付、右體之儀は出來兼候分は燒潰、其儘萱場ニ被ニ仰付候、尤大造之事業ニ付、場所限得斗見斗、一ケ所限漸々ニ取懸候様、右ニ付るは、御役人被ニ差出、見込之ケ所々は方

限之際、目究被ニ仰付ニ答ニ候條、下迄分通致し相達候様、夫々可有ニ御達ニ候、以上

七月廿四日

御郡方

御奉行 中

右之通ニ候條可有ニ其取計ニ候、以上

七月廿四日

荒木甚四郎

布田保之助殿

矢部

御山支配役 中

右は、御内意相達置候趣有之候處、右之通ニ被レ及ニ御達ニ

候條、左様可レ被ニ相心得ニ候、大矢御山仕立之御用木片附

地川水源ニ有玉名・山鹿ニ懸、御田地養水ニも相成申候所

七月廿四日
荒木甚四郎
布田保之助殿
矢部
御山支配役中
右は、御内意相達置候趣有之候處、右之通之被及御達
仕立方及卒業候様

候條、左様可被相心得候、大矢御山仕立之御用木片附兼候を片□せ御山床被取堅野火防等、各別之御仕法被仰付、於下方は辨利之御趣意なる、御手を被附下候、持繼且向後形之節、飛火防之任法筋、兼る野火取締等共、各は勿論村役人野火取拵師共至迄、深心を用、一致之心力を盡、出情致し、眼目之御山床繁茂致し候様、右伐拂、燒潰之場所、境目立之儀、向後火防第一に付、谷々或は風除ケを見立、境目とりまらへ、伐拂可申、諸木之内御取出可相成二分之御辨利筋取斗等は、不及申、其餘は、可成薪取炭焼出等、御國益を量、聊なるも、上下之御辨利ニ成ケ様心を用 ○以下欠文

註二五八 【大屋繁茂の記碑文寫】
(日本山林史保護林篇上卷七六四頁參照)

註二五九 【山林共進會報告 履歷之部】
(同上 七六四—五頁參照)

註二六〇 【深葉山一卷】
○熊本縣菊池郡隈府町同町外十村組合 覺

深葉山御山之儀は、往昔一圓之木立なる夥敷繁茂仕居候由之處、七十年已前ニ炭焼并木地之者等入込候由ニ漸々荒ニ相成り、其已後峯尾・平向等は年々野火ニ燒亡仕、稍谷ニ火かこひ宜敷場所迄相殘居申候儀ニ御座候、然處右之菊

地川水源なる玉名・山鹿ニ懸、御田地養水ニも相成申候所柄ニ御座候間、右之通及荒申候は川筋旱損之患不_レ少被_レ思召上_レ依_レ之右之場所ニ輪地かこひ仕、年々差穂等仕候は、不_レ年ニ御山立ニ相成可_レ申候間、場所等見まらべ御達申上候様被_レ仰付候間、私共立會、夫々見まらべ、輪地場所之分は別紙圖面ニ相認、御仕立御入目之儀は積書を以御達申上候條、乍_レ恐宜敷被_レ成_レ御參談_レ可_レ被_レ下候、爲_レ其連名之覺書を以申上候、已上
文政六年九月
坂梨順左衛門
河原次郎兵衛
緒方傳内

町 市郎左衛門殿
竹内清太郎殿
西村半助殿

覺

- 一 ツ橋道より南狸山迄拾間幅ニメ
- 一 貳千七拾八間〇
- 一 此輪地剪夫百三拾八人
- 一 此賃錢四百拾四匁
- 一 榎山狸山中程兩中輪地拾間幅ニメ
- 一 六百貳間〇
- 一 此輪地剪夫四拾人
- 一 此賃錢百貳拾目

一ツ橋より北小の岳押廻、地藏ノ下迄、五間幅ニメ

一 貳千五百八拾壹間〇

此輪剪夫八拾六人

此賃錢貳百五拾八匁

仁田ノ山見魚津往還小の岳廻地藏ノ下迄五間幅

一 千六百五拾三間〇

此輪地剪夫五拾五人

此賃錢百六拾五匁

右同所より草剪渡瀬迄右同

一 四千八百貳拾間△

此輪地剪夫百六拾壹人

此賃錢四百八拾三匁

小の岳下より中輪地七間幅ニメ

一 千七百拾間〇

此輪地剪夫八拾五人

此賃錢貳百五拾五匁

孫九郎谷中輪地五間幅ニメ

一 五百貳拾八間△

此輪地剪夫拾八人

此賃錢五拾四匁

外ニ所々小輪地五間幅ニメ

一 千間

此輪地剪夫三拾三人

此賃錢九拾九匁

間數合壹萬四千九百七拾貳間

夫合六百拾六人

此賃錢壹貫八百四拾八匁

一 形燒夫百五拾人

此賃錢四百五拾目

文政六年九月

犬塚 小左衛門
坂梨 順左衛門

覺

一、本小屋貳軒 内 壹軒

此造用六百目

但、壹軒三百目宛

一、山番小屋四軒

此造用四百目

但、壹軒百目宛

内

貳軒 阿蘇地藏ノ下一ツ橋

但、此分出小屋御免被ニ仰付ニ被下候ハ、春、

内牧は往來等も少々は御座候所柄ニ御座候間、

無勤料ニ定詰ニ仕遣置可申と奉存候

一、七百貳拾目 山番給

内 三人 阿蘇 任市成壹人・外記二人・中堂壹人都合四

壹人 菊池 八分、壹人付ニ百八拾目宛年々被渡

候様奉願候 阿蘇

一 輪地貳千七拾八間

外之所々小輪地五間幅ニ
一 千間
此輪地剪夫三拾三人
此賃錢九拾九匁
間數合壹萬四千九百七拾貳間

一、七百貳拾目 山番給
內 三人 阿蘇 仕市成壹人・外記二人・中堂壹人都合四
壹人 菊池 人分、壹人付之百八拾目宛年々被渡
候様奉願候
一 輪地貳千七拾八間 阿蘇

但、幅八間ニ

此剪夫百拾壹人

此賃錢貳百七拾七匁五分

但、壹人ニ付貳匁五分宛

五畝剪

一 同六百七間

幅五間

阿蘇

此剪夫貳拾人

此賃錢五拾目

但、右同斷

一 同三千五百七間

幅三間

阿蘇

此剪夫七拾人

此賃錢百七拾五匁

但、右同斷

一 同千三百拾三間

幅三間

菊地

此剪夫貳拾六人

此賃錢五拾貳匁

但、壹人貳匁宛

物間數合七千五百五間

燒坪三萬四千百拾九坪

此燒賃錢三百七拾五匁三分壹厘

但、百坪ニ付壹匁壹分宛

三萬百八拾坪

阿蘇

內 此燒賃錢百三拾壹匁九分八厘

章七 農業的林系 一 水源涵養林

三千九百三拾九坪

此燒賃錢四拾三匁三分三厘

一 指穗拾萬本

此持賃壹貫目

阿蘇

但、壹人ニ付貳百本指貳匁宛

一 杭木五拾本

內 九本
四拾壹本

菊地
阿蘇

此建賃錢貳拾五匁

但、壹本ニ付五分宛

一 本小屋見扶給

此錢四百目

阿蘇

一 錢百目 阿蘇御山ノ口壹人御心附錢

一 同貳百目

內 百目
百目

阿蘇
菊地

但、鍋釜其外桶椀類品々
代

合四貫三百七拾四匁八分壹厘

內 壹貫貳百目 小屋掛并鍋釜桶椀
類入目分

當年分御出方

殘三貫百七拾四匁八分壹厘

年々御出方分

一 最寄村々獵師共之儀、札運上御免被ニ仰付、平常御山内
見扶候様被ニ仰付ニ被下度、尤名所等は追取去らべ
御達可ニ申上ニ奉存候、一、御山杭木之儀ハ、乍恐大矢

八五五

同様、上々御紋を附置候様被_レ仰付置_レ被_レ下度奉_レ存候

一 一切御山内ニ_レ獵仕候節ハ、御山番江相_レ候之上、獵仕候様被_レ爲_レ及_レ御達置_レ可_レ被_レ下候

一 御山輪地圍内たり共、萱・薄・馬草等御用木障不_レ申候様剪取候儀は支不_レ申様被_レ仰付置_レ被_レ下度、尤右草萱剪共御山内ニ_レ多火道具等堅取扱不_レ申様、乍_レ恐御奉行衆より御建札被_レ仰付置_レ可_レ被_レ下候

一 御山本小屋前ニ_レは突棒・差俵被_レ建置_レ被_レ下候様有_レ御座_レ度奉_レ存候

一 右之通御山立_レ被_レ仰付_レ候得は、當時迄、内牧より薪取仕來候所も、都_レ輪地内ニ_レ相成申候得共、其儀ハ小前々々江も委申聞、心得違等不_レ仕様制止可_レ申候、然處右輪地藤塚榎山と申所、三百町程之雜木ハ、後年御用よ立候程之立木も無_レ御座_レ候之間、右之ヶ所ハ、是伐拂、杉檜仕立替可_レ申、仍_レ右伐除申雜木ハ、右仕立替之代り_レ被_レ爲_レ拜領_レ被_レ下候様、左候得は、薪之難澁も無_レ御座_レ、小前々々難_レ有彌以御山立方念を入_レ可_レ申候間、旁右之通被_レ仰付置_レ可_レ被_レ下候

右之通一書を以_レ申上候間、乍_レ恐宜敷被_レ仰付_レ可_レ被_レ下候、爲_レ其連名覺書を以_レ申上候、已上

文政六年九月

坂梨 順左衛門
河原 次郎兵衛
緒方 傳 内

菊池阿蘇兩郡懸、深葉御山仕立添之儀ニ付、委細書付并造用等之積書共ニ被_レ相達置_レ候處、及_レ兼儀、來春より十ヶ年之間仕立方被_レ仰付_レ候_レ付、左之通

一 かたち夫賃錢并杉・檜指付賃・御山見抄小屋造用・番賃・御心付ともニ積前之通被_レ渡下_レ候間、格別御米銀方承合請取候様

一 御山内見抄之ため、最寄之獵師共、札運上被_レ成_レ御免_レ候間、無_レ油斷_レ見打候様、尤御山内江入込候節は、御山番江相答候様

一 本小屋江突棒等大矢御山同様建方被_レ仰付_レ候、且かたち内下草等刈取候儀は、到_レ不_レ容易_レ儀ニ候得共、馬草・かしき等難澁之所柄ニ付、別段を以_レ被_レ指免_レ候、且又建札之表、別紙之通出來候様

一 かたち内藤塚榎山と申處、三百町程之所、雜木内牧より薪取之儀、願之通被_レ差免_レ候間、年々方限候宛、村方江引渡、杉・檜指付を有_レ付候上ニ_レ、其分見計薪取いたし候様

一 見抄小屋内地藏之許一ツ橋ニヶ所江は、本小屋商品被_レ指免_レ候様被_レ相達_レ候、右ハ至_レ多_レ不_レ容易_レ儀ニ候得共、右之所は小國津_レ方江越候山道ニ_レ、村方より里數を隔、人家離ニ_レ、右品物有_レ之候得共、自他往來之諸人を助候由、委細書面之通ニ_レ、別段を以、如_レ願被_レ指免_レ候、依_レ多_レ右兩小屋江居候者江番賃者不_レ被_レ渡下_レ候、右兩所外之見打小屋者番賃御出方被_レ仰付_レ儀ニ候得共、成丈右近ヶ邊ニ_レ相應之空地等見立相達候様、左候は、及_レ兼

議一開明被_レ指免、右開明地_レ番賃可_レ被_レ渡下_レ候

但、杭木五拾本之内、四拾壹本代、阿蘇

由、委細書面之通ニ多、別段を以、如願被指免候、依
多右兩小屋江居候者江番賃者不被渡下候、右兩所
外之見打小屋番賃御出方被仰付儀候得共、成丈右
近ヶ邊ニ多相應之空地等見立相達候様、左候は、及、兼

議開明被指免、右開明地番賃可被渡下候
右之通候條、各并御惣庄屋より、急度繁茂い
たし候様夫々可有御達候、以上

十月廿三日 御郡方 御奉行 中

菊地阿蘇當り

右之通候條、左様被相心得、其達有之夫々可有取斗
候、尤今度御山仕立方之儀、各別御僉議を以、大造之御
出方を被仰付候事、各儀ハ勿論、其已下仕立方
ニ携候者共、厚心を用、逐年蕃茂いたし候様可有取計
候、且又御山番之儀者、早々人物相究、名前可有被相達
候、已上

十一月五日

御郡代 中

坂梨 順左衛門 殿
犬塚 小左衛門 殿
岩下 百平 殿
猶々最寄之獵師共、札運上役被指免候分者、是又名前
可有被相達候、以上

○前文缺

一 同三百三拾壹匁九分八厘

但、輪地燒夫賃錢本行之通

一 同壹貫目

但、差穂賃錢本行之通

一 同貳拾目五分

章七 農業的林系 一 水源涵養林

但、杭木五拾本之内、四拾壹本代、阿蘇
内江建方分本行之通

但、本小屋見扶給、本行之通

一 同百目

但、阿蘇御山ノ口壹人、御心附錢、本行
之通

一 同百目

但、鍋釜其外桶椀類品々代、本行之通

ノ三貫四百九拾四匁九分八厘

右は、菊地・阿蘇兩御郡懸深葉御山御仕立方ニ付、小屋掛
并わち切夫賃錢等都雜用御入目錢、右之通御渡被仰付受
取申處如件

文政六年十一月

坂梨 順左衛門

竹内 清太郎 殿

西村 半助 殿

小物成方

極別御米銀方

御銀支配役衆

假切手を以請取申御道具之事

一、壹本

突棒

一、壹本

差俣

一、壹本

ひねり

右者、菊池・阿蘇兩御郡懸深葉御山御仕立方ニ付、本小屋
貳軒之内、壹軒阿蘇内江建方被仰付、右本小屋前ニ建申御

用假切手を以、受取申候、御用相濟次第返納仕、此假切手
取替置申處如件

文政六年十一月

坂梨 順左衛門

竹内清太郎殿

西村半助殿

御勘定所

諸御道具方

御紋

此御山内、無用之輩堅入申間敷、尤野火堅入申

間敷事

掟

一、此御山内馬草・かしき刈方ニ入込候節々、火用心堅
相守、木之芽立等ニ障申間敷候、尤右外之間敷事

一、野火堅入申間敷事

一、燒狩堅仕間敷事

右之條々相守可申候、若違背之輩は、御山方役人より
擲置、其段相達候様被仰付候條、此旨可被相心得也

年月日

御奉行 中

彌御平安被成御勤奉賀候、扱深葉山仕立添願之通
被仰付候ニ付、東小前山番小家掛方等夫々御寄ニ
相成申多儀御心配之程奉察候、御間合申候處、貴地一同
渡方之心組之段申參、此元之儀本小家掛方元懸段々渡
方も不仕難成、急々受取申度奉存候之間、御元より

御手附之内一人熊本御差出被下候ハ、此元よりも指
出可申、いつ比御指出可申奉存候、何分急々御指出
可被下候、此段御回答爲得貴意如^(度脱カ)此ニ御座候、以上

十一月十日

河原次郎兵衛

緒方傳内

坂梨 順左衛門様

猶々河原定宿、坪井廣丁平川屋吉兵衛門ニ御座候、

御元御宿ハ何方ニ御座候哉被仰知可被下候、以
上

向寒之節御座候へとも、彌御平安被成御勤奉賀候、
然は追々被仰付下候萱・薄場所出錢之儀、村々積々申
談候處、御先代双方申談候ニ付、出錢仕居候節は、林
かしき・萱・薄一切剪方ニ付、兩手永東野ニ參候村々、
惣輪卷ニ出錢仕、年々六百七拾五匁宛指送り來申候處、
追々御承知被成下候通之次第、當時は林・かしき
を刈相成、萱・薄迄之事ニ付、右萱薄切方仕候村
々者、少より一村之内ニも遠野迄伐方ニ罷越候者は又
稀ニ有之候ニ付、何分以前通之出錢得仕不申、内輪取
計至多難澁仕儀ニ御座候、且又届方之儀も、追々席ニ見
繕申候處、先年方限被極置候内は、段々伐懸、手少相
見、尤此節尙又廣々方も被仰付趣ニは御座候得共、次
第ニ野遠ニ相成候ニ付、夫丈ケ罷越候牛馬澁難澁仕、
別る村々も進兼申候綾有之、旁以私とも手元ニおゐて

彌御平安被_レ成_レ御勤_レ奉_レ賀候、扱深葉山仕立添願之通被_レ仰付_レ候_レ付_レるハ、東小前山番小家掛方等夫々御寄_レ相成申多儀御心配之程奉_レ察候、御問合申候處、貴地一同渡方之心組之段申參、此元之儀淡本小家掛方元懸段々渡方も不_レ仕_レ難_レ成、急々受取申度奉_レ存候之間、御元より

之取計致し兼、成行當惑之次第_ニ御座候、依_レ之私共内談仕候者、右野禮錢之儀、已前と違、右之通宣、薄迄_ニ相成候事_ニ付、此節より半方宛指送り候之様御取計被_レ成下_レ候ハ、内輪右之通_ニは御座候得共、夫_レ長ケ之儀は如何様卒取計、出錢仕せ度奉_レ存候間、御地村々江も宜敷御揃被_レ下候様奉_レ願候、右_ニ付_レる者、於_ニ御元_ニも御取計御心配之御儀も有_レ之段は、追々御尊も被_レ下候通_ニ付、種々心配仕見申候得共、右之通之次第_ニも、何分是迄通之出錢と申儀者如何體_ニも取計出來兼申候間、重疊宜敷御取計可_レ被_レ下候奉_レ願候、右之段追々之貴答旁御頼爲_レ可_レ得_ニ貴意_ニ如_レ此_ニ御座候、以上

十一月十一日

河原次郎兵衛
緒方傳内

坂梨順左衛門様

申渡

御山番 茂 七
御山番札筒兼 宇 助
札筒 和 吉
右同 卯 吉
右同 源左衛門
右同 五藤次

章七 農業的林系 一 水源涵養林

計至多難澁仕儀_ニ御座候、且又届方之儀も、追々席_ニ見繕申候處、先年方限被_ニ極置_レ候内は、段々伐懸、手少相見、尤此節尙又廣メ方も被_ニ仰付_レ趣_ニは御座候得共、次第_ニ野遠_ニ相成候_ニ付_レる者、夫丈ケ罷越候牛馬_ニ難澁仕、別_レる村々も進兼申候綾淡有_レ之、旁以私とも手元_ニおゐて

右藤塚より東北小の岳押廻し請場境之方限を以、見扱方申付候間、平日無_ニ油斷_レ打廻、嚴重_ニ見扱_レいたし候様、尤野火等候節ハ、方限受持_ニ不_レ係_レ早速駈付可_レ申候

未
十一月

申渡

御山番 市右衛門
札筒 惠 吉
同 嘉 藤
同 清 八
同 吟 助
同 平左衛門
同 市郎兵衛
同 次郎右衛門

右藤塚より南西請場境迄方限を以、見扱方申付候之間、平日無_ニ油斷_レ打廻、嚴重_ニ見扱_レいたし候様、尤野火等入候節は方限_ニ不_レ係_レ早速駈付可_レ申候

未
十一月

湯浦村
御山口 孫 助

八五九

右者、今度深葉山新御仕立ニ付請込申付、爲ニ心付ニ御仕立中毎年百目宛被ニ渡下ニ候之條、諸事嚴重ニ心懸、逐年御山繁茂いたし候之様、出精相勤候様

小園村

御山口

形右衛門

右者、右同斷ニ付、同所御山ニ加役申付、爲ニ心付ニ御仕立中毎年九拾目宛被ニ渡下ニ候條、右同斷出精相勤候様

外記御山番

折戸村

茂七

同所右同

宇助

西湯浦村

中堂右同

茂三

小園村

右者、右同斷ニ付、御仕立年限中、爲ニ心付ニ百五拾目宛被ニ渡下ニ候條、諸事不忝之儀無之様、嚴重ニ心懸出精相勤候様

畢多宇助儀ハ、本小屋被ニ差置ニ候間、小屋懸料者不ニ渡下ニ候、茂七儀ハ、小屋懸料百目此節被ニ渡下ニ候條、早々小屋元建可申候

西湯浦村

市右衛門

右者右同斷ニ付、一ツ橋御山番申付、御仕立年限中、別

段を以、在中御免之品々商札被ニ指免ニ候之條、右同斷出精相勤候様

西湯浦村

畢多小屋懸料百目此節被ニ渡下ニ候、條札高品々取建可申候

同村右同

卯助

同村右同

和吉

同村右同

卯吉

同村右同

源右衛門

狩尾村右同

五藤次

同村右同

惠吉

同村右同

嘉藤

同村右同

清八

同村右同

吟助

同村右同

平右衛門

同村右同

市兵衛

渡下候、茂七儀ハ小屋懸料百目此節被渡下候條、早々小屋元建可申候

西湯浦村

市右衛門

右者右同斷ニ付、一ツ橋御山番申付、御仕立年限中、別

同村右同

同村右同

市兵衛

市兵衛

同村右同

次郎兵衛

小園村右同

仁藤次

右者右同斷ニ付、野火見抄申付、御仕立年限中札運上被成ニ御免ニ候條、平常共ニ嚴重ニ見抄相勤候様
右之通候條夫々可被申渡候、尤右御山番并札筒之も
の共江者、場所方限を以、請持被申付、追方限名前付
可被相建候、以上

阿蘇

十一月十七日

御郡代中

坂梨順左衛門殿

犬塚小右衛門殿

猶々右小屋懸料之儀、願之通被仰渡下候條、至急ニ取計有之、番人共早々詰方可被申付候、且又地藏之下御山番、人物後早々見込を附、名前可被相達候、將又西湯浦市右衛門江商札被差免候ニ付、格之通請書申付、札根帳共可被相達候、以上

十一月廿二日

御郡方

御奉行中

菊地合者阿蘇小國宛

右之通候條、左様被心得ニ村々小前々々は勿論、獵師共江も不洩様其達有之、御家人中并支配之土席、且他支配之面々江達方之儀も例之趣を以、取斗可被申候、以上

十二月六日

御郡代中

阿蘇

御惣庄屋中

西湯浦村

龜次

右者、今度深葉山新御仕立ニ付、地藏ノ下御山番申付、御仕立年限中別段を以、在中御免之品々商札被差免候條、諸事不抄之儀無之様、嚴重ニ心掛相勤候様可被申渡候、以上

阿そ

十一月廿四日

御郡代中

坂梨順左衛門殿

犬塚小左衛門殿

尚々小屋掛料之儀願之通被渡下候條、至急ニ取斗有之、早々詰方可被申付候、且又右高札被差免候ニ付、格之通、請書申付、札根帳共可被相達候、以上

申渡

八六一

御山番

清 八

右者藤塚より南西請場塚まで方附を以、見扨申付候條、平日無_レ油斷_二打廻_一、嚴重_ニ見扨致候様、尤野火等入候節ハ、方限_ニ不_レ係早速駈附可_レ申候

未

十二月

小園村

茂 三 次

右者深葉御山新御仕立_ニ付、中堂御山番差免候

狩尾村

清 八

右者今度深葉御山新御仕立_ニ付、中堂御山番申付、御仕立年限中爲_ニ心附_二百五拾目宛被_ニ渡下_一候條、諸事不_レ扨之儀無_レ之様嚴重心懸出精相勤候様

右之通可_レ被_ニ中渡_一候、尤小屋掛料之儀願_レ之通被_ニ渡下_一候條、至急取計有_レ之、早々詰方可_レ被_ニ申付_一候、以上

阿蘇

十二月七日

御 郡 代 中

坂 梨 順 左 衛 門 殿

犬 塚 小 左 衛 門 殿

覺

輪地外廻大數八千六百間程

一 中輪地九千間程

合壹萬七千六百間

幅拾七間_ニメ壹人_ニ付三拾間剪

此夫五百八拾七人

此賃錢壹貫七百六拾目

壹人_ニ付三匁_二□

十年分拾七貫六百目

形燒夫百五拾人

此賃錢三百七拾五匁

壹人_ニ付貳匁五分宛

十年分合三貫七百五拾目

一 惣畝貳千七百町

内

五百四拾町

此指總百六拾萬本程

但、壹人前壹本

此指附賃貳千四百三拾貫文

七錢_ニメ三拾四貫七百目

但、指繼迄壹本_ニ付壹文

半宛

一 木拂夫壹萬八千人

此賃錢五拾四貫目

但、壹人_ニ付三畝剪

三年分合百六拾貳貫目

一 御山見扨御家人三人

御扶持方壹人前、貳人扶持被_ニ下置_一候様奉_レ願候

犬塚 小左衛門 殿

覺

輪地外廻大數八千六百間程
一 中輪地九千間程

此賃錢五拾四貫目

但、壹人ニ付三畝剪

三年分合百六拾貳貫目

一 御山見扨御家人三人

御扶持方壹人前、貳人扶持被ニ下置候様奉願候

一 御山ノ口壹人

御心附勤料百五拾目

一 定詰下見扨貳人

此勤料五百目

御入目合七拾壹貫貳百七拾目

御扶持方六人扶持

外ニ

一 御山詰小屋壹軒

御入目三百目

一 御家人番所三軒

此御入目六百目

定入目百六拾七貫百五拾目

右は深葉御山新御仕立大積、右之通ニ御座候、然處輪地間

數等は、是迄申傳へ里數より取出申候間、竿入仕候は、増

減も可有御座と奉存候、畝數之儀は、谷々窪土を委敷

積立申候は、唯今之見積よりは、二三割も相増可申く

見込ニ御座候、爲其大積書調上申候、以上

文政七年八月日

竹内清太郎 殿

西村半助 殿

犬塚 小左衛門

坂梨 順左衛門

註二六一 【和仁山石碑文寫】

(日本山林史保護林篇上卷七六六頁參照)

章七 農業的林系 一 水源涵養林

註二六二

(同上)

【久住手永御山々文化三子春
去辰春迄仕立方仕候小前帳】

註二六三 【疏導要書】

(同上)

註二六四 【山林舊規慣行調】

○熊本縣廳

水上山 栽培保護

一 水上山トハ山林ノ名稱ニアラス、別段栽培セシモノニ

非ス、何鹿倉ト唱フル山林中水源涵養ノ場所ヲ水上山

ト稱ス

一 該山ハ郡務會計掛ノ管轄スル處ニシテ、竹木上目付山

留役監守保護ス

立木使用

一 平常禁伐ナリト雖トモ、官費修繕ヲ要スル岩野村幸野

大井手多良木百太郎大井手等修繕ノ際、大材ヲ要シ、他

ニ需ムヘキ木品無キトキハ、止ムヲ得ス僅ニ其木品伐採

スルコトアリ

盜誤伐木處分

一 立山 圍林ト同シ

枯損燒木處分

一 燒木ハ立山ト同シ

一 枯損木一般望人へ拂下、其代金會計掛へ收入シテ官民分收セス

火災ノ蟲害防禦

一 立山
圍林ト同シ

伐木跡地處分

一 立木僅ニ伐採ト雖トモ、林相衰頽セサルヲ以テ、別段植栽ヲ要セス
課税ノ有無

一 無税

舊藩處分

一 右水上山鹿倉山ナルヲ以テ、藩政改革ニ際シ官有地ト相定ム
井川杉

栽培保護

一 井川組合或ハ水田主ニ於テ植栽ス

一 該杉ハ會計掛ニ於テ管轄スル處ニシテ、竹木上目付山留役監守保護ス

立木使用

一 飯用・田養ノ水勢増加スル爲メ植栽シタルモノナレハ、伐採ヲ禁シ、以テ干損・飲用欠乏ノ患ナカラシム

盜誤伐木處分

一 現在ノ木品處分方
立山
圍林ニ同シ

一 貯物既ニ費消ニ屬スル處分方右同シ
枯損燒木處分

一 枯損燒木共、汎ク公賣又ハ該村民ノ請願ニ依リ、拂下代金會計掛へ收入シテ官民分收セス

火災蟲害防禦

一 僅少ノ立木ナルヲ以、別段ノ方法ナシ
伐木跡地處分

一 禁伐ニ付跡地處分ナシ

一 無税
課税ノ有無

舊藩處分

一 右井川杉、藩政改革ニ際シ官民ノ別ヲナサス

註二六五 【莊内地理志 四十五】

(日本山林史保護林篇上卷七六六頁參照)

註二六六 【續日記集】 ○鹿兒島市縣立圖書館

一 山奉行ハ差杉之儀場所旁之儀、田地用水之爲ニも相成候ニ付、郡奉行申談取計候筋、享保十五年十月二十日鎌田太郎右衛門御證文

註二六七 【莊内地理志】 ○都城市男爵島津久厚氏

都城 中尾口 十一 横市村
北郷 安永 西嶽村 牟禮野牧

此節御牧御引取被ニ仰付ニ候ニ付左之通申付候
一 平地開方宜場所ハ、願之作人相志ラヘ吟味之上開方可ニ申付ニ候、岡平へ當分茅立宜場所者竹立居候場所者走先

を召置、用水山ニ申付候、其外楠・杉・くぬ木類素立方

より尋有之、用・養互ニ相用候旨、尤御條目ニ候用

盜伐木處分
 一 現在ノ木品處分方園林ニ同シ
 一 貯物既ニ費消ニ屬スル處分方右同シ
 枯損燒木處分

都城 中尾口 十一 横市村 牟禮野牧
 北郷 安永 西嶽村
 此節御牧御引取被ニ仰付ニ候ニ付左之通申付候
 一 平地開方宜場所ハ、願之作人相まらへ吟味之上開方可ニ
 申付ニ候、岡平へ當分茅立宜場所者竹立居候場所者走先

迄召置、用水山ニ申付候、其外楠・杉・くぬ木類素立方
 可ニ申付ニ候間、方限分を以、近在之者共へ見締可ニ申付ニ
 候

○中略
 「寛政三」
 亥二月十六日 北郷彦右工門
 取次 北郷傳五左衛門

註二六八 【栗孝行芋植立下知書】

(日本山林史保護篇上卷七七六頁參照)

註二六九・二七〇 【牧野郡古文書類謄寫】

(同上七六八頁參照)

註二七一 【井水大綱錄 春】 ○德島縣廳

壹年中勤向大綱序

井水方之儀、元祿十五年三月廿一日、御普請御奉行御指除、
 公事之儀は、裁許御奉行被ニ仰渡ニ并郷中へ罷越候節、以後
 横目御指添被ニ仰付ニ旨、於ニ御屋敷ニ 稻田九郎兵衛殿被ニ仰
 渡ニ之由、木村井譜ニ有レ之、勤向之儀は、時世ニ隨ひ古今
 少々宛替り有レ之候得共、大體御條目を元ニ相建、猶又
 御成來を以、取行候事ニ候、當御國之儀、根元嶋御國ニ多
 深山無レ之、常水流候川鮮候ニ付、專溜池を以、用水相貯、
 立毛相養候儀第一ニ多、御所務御元入之事ニ候
 用水之文字、以前ハ養水互ニ相用候處、文化十四年本

より尋有レ之、用・養互ニ相用候旨、尤御條目ニ候用
 字相認有レ之候旨をも申述候處、以後用字相用候様申
 聞之儀有レ之
 依多翌秋之御元入として前年用水濟より兼多用水不足之村
 々ハ御普請願出候、是を夏井普請と唱來候

註二七二 【阿波郡下】

(日本山林史保護篇上卷七六八頁參照)

註二七三 【地方秘書】

(同上七六八—九頁參照)

註二七四 【御郡奉行より堤守に交附
せられたる公文書の一節】

(同上)

註二七五・二七六・二七七 【郷政錄】

(同上七六九—七〇頁參照)

註二七八 【水源涵養林ノ理由ニテ
開墾ニ異議上申ノ一例】

(同上七七—七二頁參照)

註二七九 【山林法案材料取調書】

(同上)

註二八〇 【山林共進會報告 履歷之部】

(同上七七一一二頁參照)

註二八一 【公用拔書】 ○岡部恒氏

口郡邑知組一宮寺家村・一宮村・瀧村入會地字寺家山ト唱候
林山凡二拾四萬歩程有之體ニ付、今般一宮寺家村三郎右衛
門畑新開願出候處、一宮村等より新開ニ願出、彼是申分筋
有之、先達石崎彦三郎等遂ニ僉議ニ候得共、双方落合兼候
體ニ有、此上拙者共可遂ニ詮議ニ處、左候者彼是日間取候
趣も可有之、然處今度諸郡共蕎麥并麥等何成共夫食ニ可
相成ニ品、寸地たり共増時方、專遂ニ僉議ニ候時節之義、元來
右場所已前申分有之、役所より縮山申付置候地元之儀ニ
付、先一作爲ニ試精農者相撰、蕎麥種等夫々爲ニ蒔植ニ可申
候、時節指懸リ候儀急速詮議ニ取懸、其様子追々可申聞
候、尤勢子方無ニ油斷ニ可ニ相心得候、猶三郎右衛門等願之趣
追々遂ニ僉議ニ可申渡候條可ニ得其意候、以上

戌六月廿三日

安田新兵衛

崎田達之助

口郡 惣年 寄中

猶以一宮社家共より申聞候者、右地元新開ニ相成候時ハ、
尿物おのつから神木ニ落流、穢ニ相成候ニ付、花松山ニ立
置候八石も唱候場所も神水水上等打替之願有之候得共、先
當時右社家指障ニ相成候地面ハ除去蒔植可申、此段も入念
可ニ申渡置候、以上

當社境内之外御林山ニ罷成候場所一圓新開仕度段、當村方
より願出候所、則御聞届ニる百姓共ニ先一作蕎麥蒔付候様
被ニ仰渡之由及承候、右場所之内神水之穢ニ相成候ケ所
も私共拜領之花松山も打替之儀者、御聞届無ニ御座ニ候得共、
神水之指障相成候ケ所者御指留被ニ仰渡候段、御算用場よ
り被ニ仰渡之趣奉レ得ニ其意候、就夫社家月番役之者、
右一作被ニ仰付候場所見分ニ遣候所、神水之穢ニ相成候
所ハ蕎麥蒔付居申候、尤御役所より先達ニ嚴重ニ被ニ仰渡
儀御座候上、右等之致方不都合之至ニ奉レ存候得共、唯致方
も無ニ御座ニ此上ハ、不埒之尿物等取入不申様急速被ニ仰渡
御座候様仕度奉レ存候、猶重ニ蕎麥たりとも神水之穢ニ相
成候ケ所ハ蒔付不申様嚴重ニ被ニ仰渡被ニ下候様奉レ願上
候、依前段之趣御達申上候、以上

七月

能劔一宮座主 長福院

同斷同斷

神主 申

寺社御奉行所

能劔寺家村一宮村瀧村等入會領縮山、今度右村方より新開
ニ願出候ニ付、同所一宮座主長福院等より新開ニ相成候
ハ、神水之指障ニ相成候趣ニ付、當時花松山も神水之水上
も打替之儀、願書付爲ニ僉議ニ御座候、然處右地元村方
申分ニ儀有之候ニ付、新開之儀ハ、いまだ何等も不_レ及_ニ裁
判、先當一作役所引揚、蕎麥等精農之者相撰爲ニ蒔込_ニ申
候、依前者右種蒔入候節、社家申聞之所者指除、故障無_レ之

猶以一宮社家共より申聞候者、右地元新開ニ相成候時ハ、
尿物おのつから神木ニ落流、穢ニ相成候ニ付、花松山ニ立
置候八石も唱候場所も神水水上等打替之願有レ之候得共、先
當時右社家指障ニ相成候地面ハ除去蒔植可申、此段も入念
可ニ申渡置候、以上

ハ、神水之指障ニ相成候趣ニ付、當時花松山も神水之水上
も打替之儀、願書付爲ニ僉議ニ御渡御座候、然處右地元村方
申分之儀有レ之候ニ付、新開之儀ハいまだ何等も不レ及ニ裁
判ニ先當一作役所引揚、蕎麥等精農之者相撰爲ニ蒔込申
候、依多者右種蒔入候節、社家申聞之所者指除、故障無レ之

様ニ可ニ相心得旨申渡置候、尤新開ニ申付候時ハ、不ニ指
障ニ儀ニ何も款可レ遂ニ証議ニも存候間、右之趣寺社御奉行所
ニ被ニ仰遣候様ニも奉レ存候、以上

七月八日

駒井丹之丞
崎田達之助

御算用場

能劬一ノ宮御祈禱用神水之水上御林山ニ寺家村等より歛入
御指留之儀、長福院等申聞之趣、先達其御場ニ相達置候
處、右ニ付改作御郡奉行別御指越ニ付、其段長福院等ニ
申渡候所、重多別紙之通申聞候ニ付相達し申候、尙神水之
指障ニ不ニ相成様、夫々御申付候様致度候、以上

七月廿四日

品川左門

御算用場

尙以先達御指越之御郡奉行紙面致ニ返達候、以上

二 草 立 林

註一

【小淵澤村小物成場四組割合帳】

○山梨縣北巨摩郡
小淵澤村役場

當村内山棒道下加倉割地議定書之事

一 八ヶ嶽五ヶ村入會猶西山之分儀、昔と違、段々草盡山
に相成、一統難溢仕に付、字加倉棒道下内山之分、割地
をいたし、藪切等銘々念入候は、村爲筋にも相成可申
哉と四組一同相談之上、割地をいたし、夫々條を以議
定取極候趣左之通り

一 加倉通り植木上より棒道迄之内山之分、當未より辰迄
拾ヶ村記に相定メ、四組一統軒別割合可申候、然上
は、人前に藪切等銘々相勵ミ、はんの木等植立、相成へ
く丈草生繁り候様心懸ケ、大切ニ守護仕べく事

尤拾ヶ年相立、村爲筋に益不に相成、不益之儀に有之候
は、村方一統談事之上、元形地に相潰し、是迄之通り四
組入會をいたし可申候、猶又組々村爲に相成候、四組
談事之上、年季相定、右割合之姿を以、大切ニ進退可仕
候事

一 植木下内山之分にも、屋敷續最寄、麻干場、草干場、
馬立場之儀は、村役人見積り、是迄之姿をいたし置、其
餘差支りなく場所之儀は、平均をいたし軒別を應し、四
組に引譯、其上組限り軒別割をいたし可申候事

附り 組々之最寄に、少々宛空地并に入狂候境、是又

村役人見斗を以、四組役人差圖に任せ取斗可
申候事

一 組々神佛領と號し、勝手次第に開地いたし、且は自儘に
圍山いたし置候得共、今般四組村役人見合以談事之上、
可然様、爲筋相成候様可取り斗候、格別之甲乙有候と
是又夫々折合熟談仕り、双方自己不申立に役懸り取斗に
任せ行届候様可致候事

一 四組軒別割取り調之儀は、組之草高小前帳を以、家數
取り調割合可申候事

附り、新百姓出來候共、又は以來潰百姓出來候共、其
組限り取り斗可申候事

一 東千駄久樂之上笹尾村山境、西は長谷澤入會山地境之
儀は大境之場所とも有之間、澤之分は殘し置、片通しよ
り割合可申候事

一 今般家別割地所之儀は、當村之内、小物成場所之儀に
付、以來賣買決多仕間敷候、若心得違を以、賣買仕候者有
之候ハ、賣候組合親類より買主に相届ケ、代金返済な
しに多地所は元形に引取、聊も不正之儀無之様取り斗
可申候事

一 四組割合之儀は、組々役懸り之者并に小前之内よりも
人撰いたし、爲立會に甲乙なく、四組大割引譯割取り可

申候、且組々家別割之儀は、其組限り取り斗割合可申事

註五

【明治二年爲取替規定書之事】

馬立場之儀は、村役人見積り、是迄之姿をいたし置、其餘差支りなく場所之儀は、平均をいたし軒別を應し、四組を引譯、其上組限り軒別割をいたし可申候事
附り 組々之最寄を、少々宛空地并に入狂候境、是又

一 四組割合之儀は、組々役懸り之者并ニ小前之内よりも人撰いたし、爲ニ立會ニ甲乙なく、四組大割引譯割取り可

申候、且組々家別割之儀は、其組限り取り斗割合可申事

註五 【明治二年爲取替規定書之事】

一 地所見積り方は勿論、割合取り調中、朝五つ時には腰辨當なる場所を罷出、相成丈抄取方相成候様取斗可申候、且役懸り并ニ場所を立合候者は、調中二日宛出潰し、外村方之者は觸書通り軒別を罷出相勤メ、一日宛出潰し、都る差圖之通り取斗可申、其餘場所取り調中罷出候役懸り之者、日懸り之儀は、合帳を控置、飯料代共一日ニ甲銀三匁宛之積りヲ以、軒別を割合出銀可致候事、右は四組一同談事ヲ以、夫々儀定取り極候上者、聊も心得違之儀仕間敷候、若相背候者有之候ハ、四組一同ニ談事之上、取り締方相成候様、急度取り斗可申候、依之四組惣百姓承知對談仕、連印仕候上は堅相守可申、爲ニ後日儀定仕候、以上

安政六年未年七月 日

六郎兵衛 〇外三百八十一名略

註二 【山林古老傳上】

(日本山林史保護林篇上卷七九九頁參照)

註三 【慶應二年戸次庄屋御觸諸願書控帳】

(同上)

註四 【天明四年鈴木文書】

(同上)

三 畦 畔 樹

註一

【連鑑下卷】○滋賀縣廳
公事物語

築瀨村宛作取上る事

○上略 又築瀨村より作候愛知川の畠の儀、去年の秋、愛知川へ被相渡、今又築瀨へ作らせ給ふは、いか成子細よて候と、此兩様御返事承らんと有けれハ、御筋方より御返事、檢地の儀ハいかよも止可申候、畑の儀も急度愛知川へ相渡し可申と御返事被成けるとぞ聞へし、此事愛知川も夢聊もあらざりしよ、築瀨のもの共はやく聞付て、扱は御老中より御意よて、愛知川へ畠を返すからハ、永代築瀨へは作るまじ、然は彼畠よ累年養育置たり、畔木桑迄も此方へ伐取て畑斗を返さんと、三月六日ハ築瀨のものとも五十人、斧・鐮・鎌なした手々持出て、畠の邊の畔木ハいふよや及、其他明地の大木古木茶藨桑よ至迄、木數大小貳百六拾本伐取りける、悪行の程こそ怖けれ ○下略

註二

【江芴神崎郡殿様條目年々記】○滋賀縣廳
市田村庄屋所持

極り之過代米出させ、其輕重より御奉行様迄御斷可申上事

○中略

一 田畑之陰ニ成、立毛之妨罷成候畔木榮候様ニ仕間敷候、

繁り植申間敷候、此段郷之役人頭立候者年々見廻り無依怙最負一切せ可申候、萬一我儘之者候ハ、御奉行様迄訴可申上事

一 畔木之儀、享保四己亥年御奉行様より御改被遊、不殘伐り申候様ニ被仰付候ニ付奉畏、村々役人頭分之者共數度見廻り不殘きらせ、壹間ニ壹本宛ハ中伐ニ致しはさ杭ニ殘申候、此段人々立毛相續之ため其上被仰出之趣大切成御事ニ候間、毎年見廻り生出候様、又者芽出し立毛之影ニ罷成候者不殘伐せ可申候、屋敷廻り之木淡可爲同前事

註三

【布施文書寫】○滋賀縣
御觸書寫

一 畔木茂り甚作方之障相見候、畢竟畔木者稻ヲ干候爲ニ候得者、五・六尺ニ壹本ツ、立置、高サ八尺限り候様ニ可致候、枝茂り候分ハ、伐拂可申候、尤地主より伐可申候

註四

【貞享二年日記】○弘前市津經伯爵別邸

一 御歩行目付・足輕目付罷下候節、松種・はんの木之種、檜申木種差下候、廣須御新田迄遣候はんの木は、濕氣地

市田村庄屋所持 殿様條目年々記

極りの過代米出させ、其輕重より御奉行様迄御
斷可申上二事

○中略
一 田畑之陰ニ成、立毛之妨罷成候畔木榮候様ニ仕間敷候、

註四 【貞享二年日記】 ○弘前市津經伯爵別邸

一 御歩行目付・足輕目付罷下候節、松種・はんの木之種、
檜申木種差下候、廣須御新田迄遣候はんの木は、濕氣地

ニ能立候木ニある候、御新田之田畔ニ一間程宛間を置候様
ニ可申渡之旨申來候ニ付、其段廣須御代官迄申渡之、

註五 【矢代村丸山文書】 ○新潟縣中頸城郡矢代村丸山善助氏

相極申惣百姓立合證文支

一 銘々持分之林・田・畑少成共切取申間敷候事
一 田畑之畔ニ先年ノ無御座候木植間敷候事
右相定通り少も相背申間敷候、若左様族有之を見付、かく
し置候ハ、後日脇ヲ相知候ハ、常人ハ不レ及申かくし候
者共急度曲事可爲者也
享保貳年酉ノ二月

庄右衛門
○外四十名略

註六 【田地割符ニ付村極證文】 ○福井縣足羽郡社村
廣瀬又兵衛氏

相極申證文之事

一 田畠之杭木こき中間敷候事
一 田端之畠ニ貳尺五寸通り桑木植申間敷候事
附リ、桑木有之候ハ、貳尺五寸廻リハ田主がきり可
申事
一 堤之分ハ、惣多諸木壹本ニあるも立申間敷候、若立候ハ
、□□□爲立申間敷候事
一 道繕之儀照敷所有之候ハ、地懸リニよく可仕事
一 江筋之分ハ、杭ヲ四方ニあせ致可申事
一 江筋之分ハ、大小ニよらす江さし少ニあるも申間敷

章七 農業的林系 三 畦畔林

之事

相背ウヘ申者有之候ハ、こぎ捨可申事
一 桑木ウヘ申節ハ、境ヲ貳尺五寸除ウヘ可申事
一 新法ニ田畠ノ上ニ諸木一本もウヘ申間敷事
一 道端ニ桑木有之候ハ、荷ニ掛リ不レ申様ニ可仕候、猶
又向後ウヘ申儀ハ四尺通り除ケウヘ可申事
一 馬こぎの分ハ、手畔ヲ致し水通申様ニ可仕事
附リ、出入高クナリ不レ申様ニ吟味可仕事
一 黍ウヘ之儀ハ、境ヲ貳尺通り除ウヘ可申事
一 木之分ハ長貳間之まを留可申事
右ハ江守中村御田地大川筋ニ所持仕候ヘハ、田畠川缺ケ玉
ハ川つきに罷成、御田地不同ニ罷成候、殊ニ道筋橋又ハ用
水江筋玉ハ居屋敷境等紛敷罷成候ニ付、今度御公儀様ニ御
願申上候ヘハ、彌内檢仕候様ニ被ニ仰付ニ難有奉存、則丑
年ノ卯春迄ニ段々我々毎年立合、御田地割符仕、面々持高ニ
配當仕リ、歩畝少も無相違ニ慥ニ受取申候、此上ハ於ニ以
後何角ト少も申分無御座候、依之惣百姓相談之上右ケ
條相極、奉得其意候、少も相背申間敷候、若相背申者
有之候ハ、此證文を以御上次第ニ可仕候、爲後日ニ我々
加判仕申處如件

中村

享保七年卯三月廿一日

又 兵衛
○外八名略

一 わかさ橋ふちの上ニハ勝手次第
木ウヘ可申事

八七一

淵村

宇右衛門 ㊦

○外九名略

舞屋村

吉兵衛 ㊦

○外五名略

種池村

七兵衛 ㊦

吉右衛門 ㊦

中村長百姓

甚左衛門 ㊦

同村庄屋

作兵衛 ㊦

註七

【農書大全 農譚拾 穂草稿】

(日本山林史保護林篇上卷八〇三頁參照)

註八

【田地判定書申渡】 ○石川縣羽咋郡種川村岡部恒氏

一 畔木等之儀ハ、伐取候様先達より嚴重申渡置候得共、中々伐残り格別田陰ニ相成候分ハ、地割取懸以前、村中一統示合之上猶更夫々伐拂可申事
附リ、蔭引ニハ植木一圓不ニ相成、若心得違之者植木致置候ハ、何時ニモ見附次第こぎ取可申事

註九

【御布告物頭書】 ○石川縣能美郡金野村石黒勝治氏

正月十二日

一、諸郡架木等伐木方前々より度々御申渡置之處、兎角無謂繁茂爲致候儀ニ付御布告、謂繁茂爲致候儀ニ付御布告、

【明治四年御用留】

○石川縣石川郡蝶屋村 中川秀一氏

諸郡架木等伐木方前々より度々申渡置候處、兎角無謂繁茂爲樹蔭、往々田地之障得不レ少儀ニ候之條、村々へ篤と申諭、至急伐木いたし候様可申渡候、斯申渡候上ニモ等閑相心得罷在候之族於有之ハ、正租掛之内追付出役之節急度遂ニ詮議ニ速可致伐木管候間、此段不洩可申渡候也

辛未正月

別帝御渡ニ付相渡之候條得ニ其意ニ至急夫々可申渡候也

辛未正月十三日 廳掌

加越能諸郡

里正等江

一統示合之上猶更夫々伐拂可申事
附り、蔭引ニハ植木一圓不ニ相成、若心得違之者植木致
置候ハ、何時ニも見附次第こぎ取可申事

四 猪 鹿 除 林

註一 名取郡北方富澤村、御城林之内、金剛澤
御山守高山幸之助儀自分入料を以、持前
御林等ニ杉弱檜植立候分本數御改帳
○宮城縣名取郡
西多賀村
高山覺治氏

一、杉七百八拾四本
但、右同人御締持前鹿除土手竝杉薄立見透之所ニ杉苗千
本、天保十二年より末五年植立、下子刈拂養育指上候分、
古根等障出、性無然枯失相出、右高本數御改、此度御召上
ニ罷成候分如レ斯

註二 【八郷木庭作之儀ニ付覺書】 ○長崎縣嚴原宗伯爵別邸
十月十日
御郡役中迄以ニ手紙ニ申遣候趣左ニ記ス

○中略
以ニ手紙ニ申達候、八郷川端之作所ニ麥作を仕付候ニ、川
岸を引取候仕付ケ、川ニ土之流レ下り可申所ハ、掘浮
シ不申除キ、岸之下ニ有レ之木庭之床ニ麥作を仕付ケ候
淡、岸之下を引取り候仕付ケ、岸之根迄ハ掘明ケ不
申、物體之木庭之内ニ多水筋ニ成り可申くほミハ、麥作
を仕付ケ不申、土を掘浮し不申、木庭を伐り候ニ、上下
ニ長キ木庭ハ、上下之中程ニ横ニ一筋木を殘し置、一木庭
を二木庭ニ仕候様ニ、村々惣作人中ニ急度申付候得と、
八郷奉役迄可被ニ相觸ニ候、其儀相守候様、相守不申候

章七 農業的林系 四 猪鹿除林

款ハ、追る可レ及ニ檢分ニ候間、此儀淡申越可被ニ置候、
已上

十月十日
御郡 役 衆 中
大浦 忠左衛門
尙々此書付之趣ニ不レ宜所有レ之候ハ、可被ニ申聞ニ候、書
改候多遣し可申候、今程麥作仕付ケ之節ニ候故、先此分
を申下置度候、以上

追る申達候、先頃より折々聞及候ハ、御郡中ニ多木庭を伐
り候ニ、伐りはさミと申候多、上下左右之木を殘し置、
其木を牆之下地ニいたし候所、猪荒止ミ候後は、少も殘
し不申候故、大雨之節一面ニ水押通り、土砂流し或ハ山
拔有レ之候と申儀を聞及候、此儀得と難ニ落着ニ所有レ之
候、木庭之上下左右伐留め之所ハ、いつととも木立居申筈
ニ多候を、右之通ニ申候ハ如何様之譯ニ多候哉、手代足
輕草使ニ淡被ニ相尋、申分被ニ聞届ニ書付可被ニ差出ニ候、
以上

十月十日
御郡 役 衆 中
大浦 忠左衛門
右手紙之返答ニ申來候は、八郷川端之作所并木庭地耕作
之仕形ニ付、申遣候趣別存寄も無レ之故、早速八郷奉役
迄可ニ申渡ニ旨申來候、且又已前木庭を伐候ニ伐りはさミ

八七三

と申候、上下左右之木を残り置候儀に付、相尋遣候處、於御郡役所ニ手代足輕草使等被相尋、申分之趣被申聞候は、猪荒之時分猪防ぎ之牆用ニ木庭之上下左右之惡地之所ニハ木を立置、木庭を内端ニ作り申たる由ニ候得共、猪荒止ミ候後牆を仕ル儀無之、已前木を立置候惡地之所を成ルたけ作り、兩方之木庭際リ之隈なとよ、右之通殘し置候木、猪荒止候後ハ、多クハ殘し不申、伐明ケ作仕候故、掘浮シ候地面、其分相増、土砂流レ下リ候儀淡相増申候と申説有之、此儀は左様可有之之事と被存候由、然共木庭を伐明候よ、上下左右木山ニ候か、又者木庭ニ明ケ不申木を立テ荒し置候間之木庭を明ケ候ニハ、明ケ様之多少ハ有之候、淡申遣候通、伐留め之所ハ何つても木立居申管之儀ニ候ゆへ、右之説ハ不委説ニ候と被存候由返答ニ申來ル

註三 【御立山之事 十一】

(日本山林史保護林篇上卷八〇八頁參照)

註四 【野人私草 中】

(同上 八〇六頁參照)

註五 【文政九丙戌年龍華院安國日記】

(同上)

註六 【御制度之趣以山方被仰渡覺】

(同上 八〇七頁參照)

註七 【高屋勘八郎外一覺書】

(同上)

註八 【明見村文書】

○山梨縣南都留郡明見村役場
(山梨縣林制史資料掲載)

爲取替議定一札之事

近來猪鹿發向致、諸作喰荒難儀仕候ニ付、今般新古兩組惣百姓一同相談之上猪鹿除キ垣仕立申候、然ル上者村方柴山御年貢地之山跡者格別、新古夫々大場持林に相懸り候場所者惣百姓ニ借貸致、輪路臺相仕立、除キ垣結立可申候、管ニ取極メ申候、尙亦輪路臺之立木等猥ニ伐取申間敷候、扱又從古來有來候道筋ニ相懸り候場所有之候ハ、差障不申様ニ是又念入可申候、且又輪路臺立ニ入用等淡相懸り候節者新古一同相談之上割賦致可申候
右之通取極メ議定候上者惣百姓一同相談仕、和融致壹ケ年春秋兩度結立等可致候、爲後日ニ仍る議定書爲取替置申處如件

天保十二年丑七月日

小明見村中連印

註九 【御用場日記】

(日本山林史保護林篇上卷八〇七頁參照)

註一〇 【櫻井文書】

○茨城縣那珂郡湊町櫻井義氏

酒門村

大和田東割御立山

註五 【文政九丙戌年龍華院安國日記】

(同 上)

註六 【御制度之趣以山方被仰渡覺】

(日本山林史保護林篇上卷八〇七頁參照)

註一〇 【櫻井文書】 ○茨城縣那珂郡湊町櫻井義氏

酒門村

大和田東割御立山

一 枯松 拾三本

但し廻り壹尺より三四尺位

猪除並木

一 枯松 三本

但し廻り貳尺より三尺五六寸位

千束御立山

一 枯松 九本

但し廻壹尺より三尺位

右は御立山枯松風折等、前書之通り相改メ奉書上候、以上

右村

嘉永五子年十一月

小山守 久 兵衛

同 藤次衛門

庄屋 作右衛門

大御山守

櫻井惣太夫様

註一一 【山林慣例調書】 ○群馬縣廳

碓氷郡上増田村入會林場取締向聞書

○中略

林刈取人及炭燒營業者ニ論ナク、栗樹ハ一切伐採ヲ禁止セリ、是ハ安中藩ニテ栗樹ヲ用材ニ算シ、専ラ之ヲ保存ス、一ハ上増田村ハ山野ニ接地スルニ因リ、猪鹿來リテ田畑ヲ荒スコトアリ、然ルニ山野ニ栗實アレハ、猪鹿之ヲ食料トシ、田畑ヲ荒スコト「」ニ栗樹ハ専ラ保護ヲ加ヘ、且其實モ干落タルヲ拾フハ敢テ禁セスト雖モ、一時ニ打落等ノ

所業ハ之ヲ禁止セリ、若シ右野ニ於テ栗ノ立木ヲ伐採スルカ、或ハ之ヲ枯ラス等ノ所業アル者ハ、村法ニテ戸ノ罰ニ處ス、戸ノ罰ハ青竹ヲ表ノ戸ニ十文字ニ當テ釘付ニナシ、罪ノ輕重ニ因リ三日乃至七日間ニ置クナリ、其旨ハ時々村役人ヨリ領主役所ニ届出タリ

○中略

右上増田村戸長上原松彌ヨリ諮問スル所ヲ登録ス

五放牧林

註一 【御家被仰出二】

(日本山林史保護林篇上卷八〇一頁參照)

註二

【寶歷年間及寛延年間 御用留】

○岩手縣九戸郡侍濱村久慈毅一郎氏

乍レ恐以ニ口上書ニ願上一事

北御野近邊殊之外、狼荒出、往來道筋も出居申候故、七ツ過より往來之者も通兼候様ニ御座候、依レ之御野馬所々木立引込散居、見揃も成兼候様ニ候間、おとし鐵砲討、狼追散申度奉レ存候間、被ニ仰付ニ被ニ下置ニ度奉ニ願上一候、尤御預筒覺兵衛方ニ壹挺御座候、孫兵衛方ニ御預筒無ニ御座ニ候ニ付、壹挺ニては届キ兼候譯ハ、侍濱村之者共廻御場所桑畑掘切熊之澤頭ツハかう平通相廻申候、白前村之者共相廻候ハ横沼正前林通鴨澤本波山境通其外御野通相廻候故、白前村之者共も壹挺御預ケ被ニ成下ニ、兩村々者共申合、狼追候様ニ仕度奉レ存候間、右之趣被ニ仰上ニ前々之通ゑんまやう火繩御渡被ニ成下ニ候様ニ奉ニ願上一候、已上

北御野守

寶曆八年三月二日

孫 兵 衛

同

覺 兵 衛

工藤 左右衛門 様

佐藤 末 人 様

註三 【北三崎御野垣被成方御請次第書留覺】

○同 上

一 三崎御野切拂之儀ハ、五百人程ニある一日切拂可レ申と奉レ存候、右切拂之場所ゆか々の鼻、きをふ石、さす石、右四ヶ所切拂被ニ仰付ニ候場所ニ御座候

一 北野御野ハ切拂之場所、松長根カ馬乗久保・高清水・赤石川・白前道通五ヶ所、此通切拂被ニ仰付ニ候場所ニ御座候、一日五百人宛ニ而三日程相掛リ可レ申哉と奉レ存候
一 三崎御野火燒キ仕候之儀ハ、私共兩人并ニ子共下人召連燒切仕置可レ申候、御中野火相通し候儀ハ、三月中ニ壹度四月中ニ壹度兩度野火相通不レ申候得と、草生不レ宜候間、例年右之通私共兩人子共・下人召連風相見合野火通し候へ共、此末垣被ニ仰付ニ候儀ニ御座候得者、私共斗ニて成兼候筋御座候間、三月四月兩度野火通候節、御村人足三拾人斗宛被ニ仰付ニ被ニ下置ニ度奉レ存候

一 北御野野火燒仕候儀御尋ニ御座候、大場之垣、風之儀相替、萬一右垣沼も火入候ハ以外之儀ニ御座候間、人足六十人斗宛被ニ仰付ニ被ニ下置ニ度被ニ申候、尤只今迄ハ年々兩村御百姓共私共相添野火燒仕候得共、其節ハ野

火所々沼ち候得多も垣無ニ御座ニ候故、兩村御百姓共私

故、遠方山通ハ見廻兼申儀ニ御座候、夫故冬中死馬等可レ

寶曆八年三月二日

北御野守 孫 兵衛 同 覺 兵衛

工藤 左右衛門様

一 北御野野火燒仕候儀御尋ニ御座候、大場之垣、風之儀
相替、萬一右垣にも火入候るハ以之外之儀ニ御座候間、
人足六十人斗宛被ニ仰付ニ被ニ下置ニ度被ニ申候、尤只今迄
八年々兩村御百姓共私共相添野火燒仕候得共、其節ハ野

火所々江ち候得るも垣無ニ御座候故、兩村御百姓共私
共相働キ留リ次第野火ふせき申候、七月之内にも風相替、
火走り等有レ之候得ハ、兩村御百姓共私共斗ニてハ野火燒
仕兼申候間乍レ恐申上候

一 三崎御野馬見廻之儀御尋ニ御座候、私共兩人日替リニ
下人子共召連御野中所々見廻候、尤八戸御領之内長内山
平澤山通にも御野馬參居候故、右御馬共御野中江追入申
様ニ只今迄相廻候、此末垣被ニ仰付ニ候得ハ長内山・平澤
山通江御馬洩參候儀有ニ御座候間、御馬共見掛等并
死馬有レ之候節骸見出候にも宜可有ニ御座候と奉レ存候、
縱御馬見得不レ申候るも尋方仕候にも宜敷儀と存候、然
共兩人共ニ近年不手廻ニ被レ成殊ニ人不自由之時節故、前
々之通下人等も差置兼候儀ニ御座候故、可ニ罷成ニ御儀ニ
御座候ハ、御野近所小袖澤と申所ニ御百姓家貳軒御座候
間、私共立合御野見廻り吟味仕候様ニ被ニ仰付ニ被ニ下置
度奉レ存候

一 北御野見廻候次第御尋ニ御座候、私共兩人日替ニ白前
村侍濱村御百姓共之内四人宛召連手分仕、野通者不ニ申
及ニ八戸御領之内、鳥屋山通・夏井山通・大蘆山通・片之
澤山通・二ツ屋山通迄見廻候儀ニ御座候、右之場所二十
里三十里五十里斗所迄御座候故、日々不レ殘ハ廻兼候儀
ニ御座候、尤御馬見掛之儀暑氣強有レ之候得ハ、不レ殘
御野通江出不レ申、木立々々ニ引籠致候御馬共多分御座
候故、常々御馬立所も見届兼候儀ニ御座候、十一月中ハ
翌二月迄雪御座候節ハ、御野通ニ淡相廻兼候場所御座候

故、遠方山通ハ見廻兼申儀ニ御座候、夫故冬中死馬等可
有ニ御座候得共見届兼候筋ニ御座候、就中巳午凶作以
後段々御百姓共困窮仕、殊ニ亥之年凶作ニ多ニ拾軒有レ之
候家數只今ニ多ハ私共兩人之家共ニ拾三軒御座候程ニ相
成候故、大場之御野見廻候儀前々之通ニハ及兼罷有候所、
此度御野ち、め垣等被ニ仰付ニ候趣被ニ仰渡ニ候ニ付、所々
切拂等淡被ニ仰付ニ候ハ、此末御馬見掛等之儀不人數之
儀相成可レ申積ニ奉レ存候へ共、垣被ニ仰付ニ候内、共ニ十
四五里餘も可有ニ御座候様ニ奉レ存候故、暑氣之節ニ無
御座候多々月々御馬數等見掛改候様ニハ相成兼可レ申哉
と奉レ存候、乍レ去垣被ニ仰付ニ候以後之儀ハ、其節御吟味
次第兩村御百姓共申合猶又無ニ油斷ニ見廻候様ニ可レ仕候
一 北御野垣出來仕候多兩所之木戸番人如何様ニ被ニ仰付
可レ然哉之段御尋ニ御座候、右場所先達申上候通晝夜
人馬往來仕候所故、一ヶ所ニ家貳軒宛兩所ニ多ニ四軒、兩
村御百姓共申合小屋掛仕、木戸番人勤候者一月壹軒ニ付
貳ハ六百文宛淡被ニ下置ニ候儀ニ御座候ハ、兩村申合右
家主才覺年中無レ懈晝夜急度相勤候様ニ私共兩人心添可
仕候

一 北御野垣被ニ仰付ニ候御高杭之根入并垣之横幾通被ニ仰
付ニ可レ然哉之段御尋ニ御座候、高サ之儀ハ垣之上七尺位
イニ被ニ仰付ニ候て可レ然と存候、杭根入ハ貳尺位イニ多
丈夫ニ可有ニ御座候奉レ存候、乍レ去垣杭突込兼候場所も
御座候間、つりさひ三十本位も被ニ仰付ニ突込兼候場所ハ
つひさびニ多杭穴被ニ仰付ニ可レ然と奉レ存候、尤杭數之儀

ハ一川ニ□拾本位イ被ニ仰付ニ可レ然と奉レ存候、横之儀ハ五通ニ被ニ仰付ニ可レ然と存候、右之内三通ハ内外ノ貳本宛被ニ仰付ニ一通ハ片あをちニ一川壹本宛被ニ仰付ニ候も控杭御座候故可レ然と奉レ存候

一 右之通垣被ニ仰付ニ明後年ノ御野取年々ニ歳取ニ被ニ仰付ニ候ハ、垣々之内ニ居候御馬共故、御野取御人足只今ノ過半相成、相減候も御野取相成可レ申哉之段御尋ニ御座候、北御野之儀ハ、垣被ニ仰付ニ候内共々右申上候通、場廣殊ニ御馬共所々冬籠仕候木立之御山も數ヶ所御座候事故、四百人ノ内ニテハ牧木場ニ追入兼可レ申儀ニ御座候

一 三崎御野之儀ハ垣被ニ仰付ニ候得ハ、長内山平澤山通ニ御馬共參不レ申候故、明後年ノ御野取御馬數見掛置候ニも相成可レ申様奉レ存候、是共ニ御野取御人足四百人ノ内ニテハ牧木場ニ追入兼可レ申と奉レ存候、御野取日數之儀ハ三日程相懸候ハ、御野放迄相濟可レ申哉と奉レ存候

一 白前村侍濱村御百姓共并私共下人、巳午凶作已來段々相減候ニ付、如何様ニ被ニ仰付ニ候ハ、前々之通家數ニ御野御用無レ滯相勤可レ申哉と御尋ニ御座候、右之儀ハ御存知被レ遊候通、野畑斗ニテ巳午凶作已來荒地ニ相成、當時畑數も無レ之、白前村ニ土鹽釜壹工、侍濱村ニ鐵鹽釜壹工御座候多鹽煮方仕、相拂飯料相調相續仕罷在候間、恐多申上様ニ御座候得共、右鹽釜御役七ヶ年中半役ニ被ニ仰付ニ被ニ下置ニ候ハ、段々兩村申合、前々之通兩村鹽釜貳工宛ニ仕、御百姓共家數共ニふレ候様ニ相成可レ申哉と奉レ

存候間、右之通奉ニ申上ニ候
一 前々兩村ニ漁船有レ之岸漁等仕候所ニ近年一向漁船無レ之候、此儀ハ如何と御尋ニ御座候、右漁船之儀も御百姓ども困窮仕、繕も成兼、段々破船仕候も猶更新規とぎ立成兼候事故、當時ハ丸木船壹艘ノ外無ニ御座ニ候得共、段々家數人共ニふレ候ハ、追々願上候積ニ仕度奉レ存候

一 御野取之節、白前村侍濱村御百姓共相勤候御用筋并ニ人馬何程相成候哉と御尋ニ御座候、乍憚左之通ニ御座候御傳馬五疋、口付五人、右ハ御代官様御一人、御野馬別當様同御立合様共ニ御兩人、三戸御馬方様御兩人御宿ノ御野取場所まで毎日右之通御野取相濟候迄相出し申候
一 人足 五

右ハ小使薪取共ニ御代官様御宿ニ貳人、御野馬別當様同御立合様御一所被レ成ニ御座ニ候故、右御宿ニ三人、御野取相濟候迄毎日爲ニ相詰ニ申候

一 御野馬牧木ニ追込候節御馬立所爲ニ案内之御村御人足ニ八人宛毎日相加り、外ニ私共子共兩人合多拾人宛毎日追勢子之者ニ加り、山先追入御用共ニ相勤申候、此末年々御野取被ニ仰付ニ候儀ニ御座候ハ、尙又御百姓共難儀可レ仕と奉レ存候、此度御尋ニ付テ恐奉ニ申上ニ候、以上

三崎御野守

又 十 郎

同

半 左 衛 門

北野御野守

時畑數も無之、白前村之土鹽釜壹工、侍濱村之鐵鹽釜壹工御座候多鹽煮方仕、相拂飯料相調相續仕罷在候間、恐多申上様ニ御座候得共、右鹽釜御役七ヶ年中半役ニ被ニ仰付ニ被ニ下置ニ候ハ、段々兩村申合、前々之通兩村鹽釜貳工宛ニ仕、御百姓共家數共ニふヘ候様ニ相成可申哉と奉レ

三崎御野守 又 十 郎
同 半 左 衛 門
北野御野守

孫 兵 衛
同 覺 兵 衛

寶曆九年卯十月廿五日

工藤 全右衛門 様
佐 藤 末 人 様

註四 【久慈文書】 ○久慈毅一郎氏

一筆申入候此度被ニ仰付ニ之趣左ニ申達候
○中略

一 御野元毎年春野火通候由、乍然半々ニ燒或ハ人數入申由ニ多、其澤ニ草立置候ハ、草生不レ宜候、殊ニだ虫生、御馬爲ニ惡敷候、依レ之毎年春無ニ懈怠ニ野火通候様ニ可レ被ニ申付ニ候、立林有レ之所ハ、火入不レ申様ニ急度可ニ申付ニ候、右之段々具ニ御野馬別當ニ申付候間可レ被ニ申談ニ候向後此旨可レ被ニ得ニ其意ニ候、以上
(寶曆十年九)

下戸米 小四郎
漆戸甚五郎
桂 源五左衛門
印東彌茂市

本堂 源左衛門 殿
又重 三郎兵衛 殿

註五・六 【御野御用留帳】 ○久慈毅一郎氏

章七 農業的林系 五 放牧林

野田御代官
御野馬別當

北御野、先年迄、木立茂リ、御野と母隠れ居、御野取御用日數相懸、早俄取不レ申候付、安永三年御野之内右木立之場所を取除被ニ仰付ニ候所、此節御馬數ニ淡相成、御野狭ク、草等も早く喰盡、艸生不レ宜、第一御馬と母冬ニ至候得ハ、濱山斗重ニ居候故、御馬狹候多は、御馬之爲ニ相成申間敷、依る菅澤より家川端橋迄、御足野被ニ仰付ニ被ニ下候様、右御場所不レ殘壹ヶ年ニ御普請被ニ仰付ニ候多は、御百姓共迷惑可レ仕ニ付、一先冬立よろしき場所中、野道より高家川端橋場迄之處、杭垣被ニ仰付ニ候様仕度、尤菅澤ニ掘切迄之處、追々時節を御見斗被ニ仰付ニ候様仕度、且柵垣仕候多は、別御人足も相増候付、杭垣ニいたし候得は、成木之木品も剪取不レ申事故、旁被ニ仰付ニ被ニ下候様、委細口上書繪圖面を以、去年申上候處、伺之通被ニ仰付ニ候間、一先中野道より高家川端橋場迄之處、明年御野取序を以、御足野可レ致候、猶其節可ニ申出ニ候、右之通被ニ仰出ニ候間可ニ申渡ニ事
卯十月

註七 【牛馬定目留書】 ○南部伯爵別邸

牧馬取扱方問答個條書
寛政十一巳歲十一月、上杉様衆より牧馬取扱方問合箇條書ニ依ニ御沙汰ニ御答書附札書上帳

十一月八日、卯ノ刻付、御用人方より之御用狀到來、左之通

松尾 紋左衛門
八七九

一筆申達候、上杉彈正大弼様より、別旨之通問合之趣、江戸表より申來候處、一體指圖いたし差越候儀者難相成一事と被_レ存候得共、先心付之儀共、附札仕、自分被_レ相越候砌、持參可_レ被_レ申候、是又爲_レ心得申入候、以上

十一月八日

御用人 中

松尾 紋左衛門 殿

一、其許様御領内ニ有、牧馬之事者、御地も雪國之由ニ候得者、冬分ハ、放牧之馬共、皆以民家之既ニ牽入候事之由、何月頃牧_レ相放、何月頃既ニ牽入候事ニ御座候哉

(附札) 當地牧馬之事、海邊之内、雪吹拂枯草冬も相見得候程之場所ハ、四季押通置附_レいたし候放牧も有_レ之候、雪多降積、冬置附難_レ相成場所ハ、三四月草萌候頃見合、牧_レ馬共相放、九月頃既ニ牽入候

一、牧之廣狹ニ依_レ有、放馬多少可_レ有_レ之、又草生之多寡ニも依_レ申、大凡積四月より九月迄、日數百八十日、馬壹疋壹日一坪_レ多し多百八十坪、十二丁位之地_レ馬貳百疋も相放可_レ申哉、草ハ一箇年四度ハ萌可_レ申候得共、雪國三度と見、馬壹疋一日三坪位之積ニ可_レ有哉

(附札) 馬壹疋一日之喰草刈取與へと違、牧_レ有者、場廣ニ差積不_レ申候_レハ、不_レ宜候、大凡三四丁四方壹疋之積_レ多し多堅貳里積、横壹里程之牧_レ馬貳百疋程放候積ニ御座候、右牧之内、風雨之節驅入凌候爲、木立又ハ谷合_レ多し無_レ之候_レ多者不_レ宜候、且水無_レ之地者放牧ニ難_レ成候

○中略

右之通其御役筋_レ御達委細御附札被_レ成御教示被_レ下度と存候、尤此外_レも心得_レ相成候箇條も御座候ハ、被_レ仰知_レ被_レ下度存候

九月

上杉彈正大弼内

高橋 平左衛門

右御答書、此度出府_レ付持參、御馬懸御用人中村左中方_レ差出候處、書取方思召相叶、其儘一箇條限御附札被_レ成、未_レ至_レり別段御附札ニハ放牧之場所□所、山野地理之様子ニ寄、書面之通_レ難_レ至儀も有_レ之趣、一箇條御書加へ、早速江戸表_レ御立罷遣候旨承_レ之

寛政十一年十一月

松尾 紋左衛門

註八

【宇部文書】○岩手縣久慈郡宇部村宇部辰郎氏

御山預_レ置申手形之事

一、三崎御野之内_レよる之澤木戸口より去_レケ平イ丹内_レふり頭迄、但シ木戸口より向イハ長根割限り、外は鼻割限り右之通預_レ置申候、其方共一統立林可_レ仕候、尤御沙汰_レ付境分預_レ置候、後日爲_レ念仍_レ始末如_レ件

三崎御野守

年月

新 兵 衛 ④

甚 兵 衛 ④

小袖下夕村

巳 之 助 殿

同村老イ戸

吉 殿

○中略

○中略

御座候、右牧之内、風雨之節驅入凌候爲、木立又ハ谷合ニ多モ無レ之候多者不レ宜候、且水無レ之地者放牧ニ難レ成候

小袖下夕村
巴 之 助殿
同村老イ戸
庄 吉殿

同 同
長 作殿

註九 【文久四年正月御用留】

(日本山林史保護林篇上卷八一〇頁參照)

註一〇 【御山守指上手形】

○青森縣三戸郡向村留目政治氏指上手形之事

一 此度よろい神御山、御新田ニ願上申候人御座候ニ付、此場所御野近所御山ニ御座候、此場所御新田ニ被ニ仰付一候ハハ、御野馬之指合ニ罷成候、就レ夫指遣如レ此ニ御座候、以上

享保十一年午三月二日 住や御野馬留又二郎領
御山守 八 兵 衛
小野寺源七様
江柄九郎兵衛様

註一一 【五戸市川新田附御山諸木改帳】

○青森縣廳五戸市川御新田附御山諸木改帳

市川村御山守
東ハ山崎坂ノ下堰限 右衛門治郎
西ハ百石村より町道限 彦 市
雷臺御山 南ハ御新田用水堰限 才 藏
北ハ御新田所谷地限 平 四 郎
章七 農業的林系 五 放牧林

惣木數壹萬六千本内

一 貳千本 松元口壹尺六寸廻より壹尺廻迄

一 壹萬四千本 同木元口九寸廻より五寸廻迄

同

一 同木五寸廻より以下小松新御立林故木數不ニ相知一
〔附之追事〕
〔小松大概七萬程ニ相聞得中候、年々實蒔候故木數〕
御改兼申候

右御山、西より東ニ千間、南より北ニ四百間

同御山より 大川ニ貳百五拾間
小川ニ三百間

同村 御山守
東ハ赤川堰限 孫 兵 衛
西ハ上市川村境限

一 尻引谷地御山

南ハ野境限
北ハ御本同境限

その木新御立林故惣木數不ニ相知一
右之御山、西より東ニ千間、南より北ニ三百五拾間、同御山より五戸川ニ貳百間

上市川村 御山守
東ハ赤坂長根限 半 兵 衛
西ハ池ノ堂沼限 權 七
一 池ノ堂平御山 南ハ御新田谷地限

北ノ野境道限

松新御立林故五寸廻以下ニ有木數不ニ相知、
右御山西より東迄五百間、南より北迄百間
同御山より五戸川迄貳百五拾間
右之通御新田附新御立林御山木數并間數相改書上申
候、以上

附箋ノ位置

寶曆八年十月

松尾 與惣治
圓子 嘉右衛門

御勘定所

覺

五戸

御代官

市川御新田山

高屋鋪山

轟木山

右内ノ山赤重御野馬身隠

御山ニ向後被ニ仰付候、

尤支配所之者共にも右之

段可ニ申付置旨被ニ仰出

右之通被ニ仰出御代官迄申渡

候、此段御斷申入候、以上

正月二十日 岩館甚右衛門

御勘定所衆中

註一一

【板野郡古文書類謄寫】○德島縣廳

板野郡大島田村平本右坂川平所持板札

定

大毛山、御馬入置候惣構之内にて、草木刈採申儀、令ニ停
止候、用所も無之ニ人之出入可ニ相改候、若相背者於
有之者、^(とカ)うらへ可ニ告來候、右之旨無ニ油斷可ニ相守
者也

寛永拾貳年

卯三月十八日

長谷川 越前守
池田 山城守
^(花押)

大島田 甚 介

甚 左衛門

むろ 喜右衛門

右板札入置有之箱之上書

大毛牧御馬御制札宮

註一三

【憲教類典抄 九】

(日本山林史保護林篇上卷八一頁參照)

註一四

【莊内地理志】○都城市島津男爵邸

牟禮野御牧一往爲ニ御見合ニ御取上可ニ被ニ仰付旨、去ル亥
年被ニ仰渡置候處、此節又々先年之通御牧可ニ被ニ召立旨
被ニ仰出、來春ハ馬被ニ召入ニ管候間、左之通申渡候

候、此段御斷申入候、以上
正月二十日 岩館甚右衛門
御勘定所衆中

註一四【莊内地理志】○都城市島津男爵邸
牟禮野御牧一往爲御見合御取上可被仰付旨、去ル亥
年被仰渡置候處、此節又々先年之通御牧可被召立旨
被仰出、來春馬被召入善候間、左之通申渡候

○中略
一 牧内平地岡谷等ニ到、開キ方又者竹木仕立方御用茅仕
立場等被仰付置候へ共、御取揚被仰付一本々之通被
仰付候條、此旨掛役々々早々締方可申渡候
但、多作當毛迄者御免被仰付候

○中略
一 御牧内竹木伐除ニ相成居候ニ付る者竹木仕立方をも
不致候者馬素立方不積候間、竹木仕立方ニ付る者
別當役致見分吟味之上何分可申出候
右之通被仰付候條 ○下略

〔朱書〕
〔寛政五年〕
川上太郎左衛門
龍岡新右衛門
丑四月廿三日
取次 北郷新太郎

註一五【山林共進會報告 履歷之部】
(日本山林史保護林篇上卷八一頁參照)

註一六【柴田文書】
(同上 八一三頁參照)

章八 獵漁的林系

一 鹿 倉 山

註一 【前代歷譜 附系圖】 ○弘前市佐藤彌六氏

六代 津輕左衛門尉 又左衛門佐從五位下
○秀光 始左馬頭藤太
母 秋田城介安達某女

後村上
一、鹿皮千枚ヲ南朝へ獻ス 封地樂鹿多
キ故也ト云

註二 【阿淡年表祕錄】

(日本山林史保護林篇上卷八一七頁參照)

註三 【阿淡年表祕錄】 ○德島市蜂須賀侯爵別邸

撫養大毛山ニ有
御鹿狩 御獲鹿六十四頭

註四 【御記錄 一六】

(日本山林史保護林篇上卷八一七頁參照)

註五 【諸事御觸留寫】 ○編 者

註六

【自慶長 御記錄 五】 ○德島地方裁判所
至貞享 御留野并御鷹方懸合之部
覺

一 御留山之内、大毛山近所ニ田島有レ之間、在來通御留置
被レ成候、嶋田山・長崎山・土佐泊山御明被レ成候ニ付、
三ヶ所之山々鹿打留候節、皮をは被レ召上レ角肉被レ下事

一、大毛山・嶋田山・長崎山、土佐泊山之内嶋田・長崎・土
佐泊右三ヶ所之山、鹿うち候儀御明被レ成、大毛山有來通
御指留被レ成候旨最前申觸候、乍レ去水かたをより北黒山
も大毛山同前ニ御指留被レ成候條可レ奉レ得ニ其意ニ候、若他
所より其表ニ罷越、水かた越より北黒山ニ有鹿打申者於レ
有レ之ハ右之通斷可レ申候、以上
年月日 西 彌次郎

追門塩屋床屋中

右之通昨二日長谷川主計殿於ニ御宅ニ被レ仰渡、則右之文言
ニ相調、今三日於ニ會所ニ主計殿入ニ御披見ニ候處、相違無レ
之由被レ仰ニ付相觸候也

註七 【御記錄 一五】

寛文十一年二月四日 大熊村 六衛門 田嶋村 新衛門